国立国語研究所学術情報リポジトリ

日本語教育のための文法用語

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2019-03-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 国立国語研究所, The National Language Research Institute メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00001846

日本語教育指導参考書22

日本語教育のための

文　法　用　語

国立国語研究所

刊行のことば

『日本語教育指導参考書』は，外国人に対する日本語教育に携わっている方々の指導上の参考に供するために刊行してきました。

今回は，その第22編として『日本語教育のための文法用語』を刊行します。

日本語教育の場で，学習者から文法領域の質問が出ることは少なくありません。多くの日本語指導者が，母語話者であるか非母語話者であるかを問わず，学習者からの文法に関する質問に立ち往生したという経験を持っているとも聞きます。

本書は文法についての基礎的な知識を整理したいと考えておられる方々に役立つことを目的としています。

本書の執筆をお願いした方は，次のとおりです。

市川　保子　氏　（東京大学教授）

執筆者市川氏の御尽力に感謝の意を表すとともに，本書が教授上，研究上の資料として適切に活用されることを期待します。

平成13（2001）年3月

国立国語研究所長

甲　斐　　睦　朗

利用の手引き

1.　本書では，広く行き渡っている用語を中心に，日本語教育において必要と思われる，基本的な文法用語を取り上げました。項目の配列は，「単文→複文」になっています。各項目の細部については，目次をご覧下さい。

2.　本書は，チェック，説明，参照項目，問題で構成されています。

- チェック：説明を読む前に，自分の知識を確認してください。
- 説　　明：説明は，日本語教育に役立つという観点からなされています。
- 参照項目：説明に関連する項目を適宜≪→○○≫に付記しました。目次や索引で該当するページを調べることができます。
- 問　　題：説明が理解できているかどうかを確認してください。

説明に関しては，本書の説明がすべて「定説」である，本書の用語のみがすべて「標準術語」であるということはありません。文法家によって見解の分かれる項目もあります。本書を出発点ととらえていただければ幸いです。

3.　本文中で使われている記号

＊：非文法的な文

？：日本語としてあまり自然でない表現

4.　本書はどの項目からでも読める辞書的性格も備えています。いまひとつはっきりしない文法用語や文法説明に出会ったとき，目次か索引でページを調べ，そこから読み始めていただくような使い方ができます。

5.　巻末の索引は，独立した各項目の見出し，および各項目の説明に現れる重要な用語を五十音順に配列し，その所出ページを示すものです。

〔目　次〕

1.　文の基本構造 …… 1
1.1　コトとムード …… 1
1.2　連用修飾・連体修飾 …… 4
2.　文のタイプ …… 8
2.1　動詞文・形容詞文・名詞文 …… 8
2.2　単文・複文 …… 17
2.3　現象文・判断文 …… 18
3.　主格・主語・主題 …… 21
4.　補語 …… 30
5.　述語 …… 37
5.1　動詞，形容詞，「名詞＋だ」の活用 …… 37
5.2　動詞の分類 …… 43
5.2.1　意志動詞・無意志動詞 …… 43
5.2.2　スル動詞・ナル動詞 …… 47
5.2.3　他動詞・自動詞 …… 48
5.2.4　動作動詞・状態動詞 …… 52
5.2.5　状態動詞・継続動詞・瞬間動詞 …… 53
5.3　形容詞 …… 55
5.4　名詞 …… 63
6.　ヴォイス（態）と授受表現（やりもらい） …… 66
6.1　受身表現（受動態） …… 66
6.2　使役表現（使役態） …… 70
6.2.1　使役やりもらい …… 72
6.2.2　使役受身 …… 73
6.3　可能表現（可能態） …… 74
6.4　自発表現（自発態） …… 77
6.5　授受表現（やりもらい） …… 78

6.5.1　もののやりもらい ……78
6.5.2　動作のやりもらい ……81
7.　複合動詞と補助動詞 ……87
7.1　複合動詞 ……87
7.2　補助動詞 ……89
8.　テンス・アスペクト・ムード（モダリティ）……97
8.1　テンス（時制）・アスペクト（相）……97
8.2　ムード（モダリティ） ……103
9.　助詞 ……114
9.1　格助詞（が，を，に，で，へ，と，から，まで，より）……115
9.2　連体助詞（の） ……116
9.3　複合格助詞 ……117
9.4　並立助詞（並列助詞） ……118
9.5　取り立て助詞 ……120
9.6　終助詞・間投助詞 ……126
10.　指示詞（コ・ソ・ア・ド） ……131
11.　従属節 ……137
11.1　引用節 ……138
11.2　名詞節 ……144
11.3　連体修飾節 ……147
11.4　副詞節 ……149
11.4.1　理由節 ……151
11.4.2　トキ節 ……152
11.4.3　条件節 ……153
11.4.4　目的節 ……155
11.4.5　逆接節 ……157
11.4.6　並立節（並列節）……158
12.　副詞 ……160
13.　接続詞 ……167

1. 文の基本構造

日本語の文の構造に関する重要な概念として，「コトとムード」および「連体修飾・連用修飾」の二つを最初に取り上げる。前者は話し手がその文で述べようとする内容，後者は文そのものの構成に関わる概念である。

1.1 コトとムード

チェック

次の語を知っていますか。チェックして下さい。

□コト　　□心的態度

□ムード　　□モダリティ

1）「ここのコーヒーはおいしいですね。」「（休みなのに）会社に行くんですか。」などと話し手が一つの文を発する時，話し手はその文を通して何を述べようとしているのだろうか。

「ここのコーヒーはおいしいですね。」では，話し手は「ここのコーヒーがおいしい」という事実・事柄をまず伝えようとしている。そして，それと同時に，「他の店と比べて，ここのコーヒーは」のように，「ここのコーヒー」を特に取り立てる気持ちを「は」で表したり，コーヒーのおいしさに感動している気持ちを「ね」で表したりしている。

「（休みなのに）会社に行くんですか。」では「会社に行く」という事実・事柄に対して，「んですか」を用いて疑問・質問（場合によっては，不審・とがめ）の気持ちを含めようとしている。

このように，文の意味内容は，事柄（コト）と，話し手の気持ち（心的態

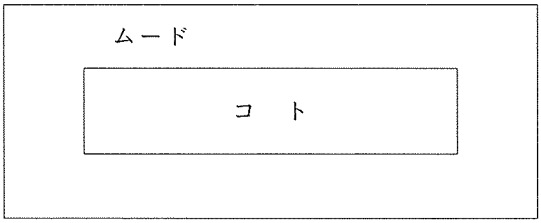
度，ムード）の二つからなる。ムードはモダリティと呼ばれることもある。

ムードの表現は，文のいろいろなところに現れる。「ここのコーヒーはおいしいですね。」では，「ここのコーヒー」を話題として取り立てる気持ちが取り立て助詞「は」で表される。また終助詞「ね」が文の終わりで話し手の感動の気持ちを表す。

一方，「ここのコーヒー」の「の」，「会社に行く」の「に」は，「ここ」と「コーヒー」，「行く」と「会社」の論理的関係（コト的な関係）を表す。

《→助詞，ムード》

2）コトとムードは下の図のように，コトをムードが包む関係にある。伝えたい事柄（コト）を話し手の気持ち（ムード）で包んで，聞き手に提示するわけである。



3）コトとムードは連続的なもので，文中の要素がコトを表すかムードを表すかはっきりしないことも多い。アスペクト（物事の開始・終了などの時間的な展開段階）を表す助動詞「てしまう」について見てみよう。

《→テンス・アスペクト》

(1)　あの本はすでに読んでしまった。

(2)　愛犬が死んでしまった。

(1)の「てしまう」は，「本を読み終わった」という完了の意味を表している。これはコト的な意味である。一方，(2)は愛犬が死んで「残念だ」という

話し手の気持ちが「てしまう」に含まれている。この場合,「てしまう」はムード的な意味を色濃く表している。では,(3)はどうであろうか。

(3)　ワインを一本飲んでしまった。

(3)は完了を表すともとれるし,「あまり飲んではいけないのに,飲み過ぎた」のように残念・反省の気持ちが含まれているとも解釈できる。どちらの意味合いが強いかは,最終的には文脈・状況で決まる。

4）外国人学習者にとって,コト（事柄）の部分を文法的に正しく述べるのは決してやさしいことではない。例えば,「が」「を」「に」などの格助詞も正確にはなかなか使い切れない学習者が多い。しかし,さらに難しいのは話し手の心的態度・気持ち（ムード）を表す表現を適切に使うことである。いくつかの研究でも学習者はコトの習得よりムードの習得のほうが難しいことが指摘されている。相手に自分の気持ちを,状況・場面に合った形で適切に表し伝えることは,中・上級の学習者にも難しく,習得までにかなりの時間を要する。したがって,初級段階では文の作り方だけを詰め込むのではなく,ムード表現の使い方についても十分に指導を行っていく必要がある。

【問題】 次の文をコトを表す部分とムードを表す部分に分けてください。

1. 夏休みにアラスカに行きたいと思う。
2. 忙しくて,死にそうだ。
3. 夕べ3時間しか寝ていない。
4. 彼はやっぱり来なかった。
5. 彼女は事実を知っているくせに,黙っている。

【答】一重下線がコトを表す要素，二重下線がムードを表す要素。

1. 夏休みにアラスカに行きたいと思う。
2. 忙しくて，死にそうだ。
3. 夕べ3時間しか寝ていない。
4. 彼はやっぱり来なかった。
5. 彼女は事実を知っていると<u>せに</u>，黙っている。

1.2 連用修飾・連体修飾

チェック

次の語を知っていますか。チェックして下さい。

□連用修飾　　□連体修飾

□用言　　□体言

1）次の(1)と(2)の下線部は，「の」と「に」の部分が異なるだけであるが，文法的な働きは大きく異なる。

(1) 日本語を勉強するために辞書を買った。

(2) この辞書は日本語を勉強するための辞書だ。

「日本語を勉強するために」は述語である「買った」にかかり，「日本語を勉強するための」は次の名詞「辞書」にかかる。このように文中の要素が述語にかかることを**連用修飾**，名詞にかかることを**連体修飾**と呼ぶ。（連用修飾，連体修飾という用語は，伝統的な国文法で，述語・名詞をそれぞれ用言・体言と呼ぶことによる。）

連用修飾の働きを持つものは，補語（名詞＋格助詞），副詞，副詞相当句，副詞節（理由節・条件節など）などである。また，連体修飾の働きを持つも

のは，連体詞，形容詞，「名詞＋の」，連体修飾節などである。

《→補語，副詞，従属節》

連用修飾

連用修飾の働きを持つものには次のようなものがある。

1. 補語（名詞＋格助詞）

(3) 子供が　部屋で　テレビを　見る。

(4) 食堂で　同僚と　昼食を　食べる。

2. 副詞，および，形容詞の副詞的用法

(5) いっぱい食べる。／とてもおいしい。

(6) 字を大きく書く。

3. 副詞相当句

(7) 残念なことに，彼は帰国してしまった。

4. 副詞節

(8) いい天気なので，ドライブに行こう。／もし晴れたら，ドライブに行こう。

ここでは連用修飾を「述語にかかる」という意味で用いるが，連用修飾を「述語に付加的な情報を加える」という意味で用いる立場もある。後者の場合，「子供が部屋でテレビを見る」の「子供が」「テレビを」のように，述語が表す事柄に不可欠なものを表す補語は，「述語が要求する要素をうめる」要素とされ，連用修飾とは区別される。

連体修飾

連体修飾の働きを持つものには次のようなものがある。

1. 連体詞，形容詞など

(9) あの人はどなたですか。

(10) 重い荷物を持つ。

2. 名詞＋の

(11) 犯人はひげの男だ。

3. 連体修飾節

(12) 母が作る料理はいつもおいしい。

2）連用修飾は述語にかかり，連体修飾は名詞にかかるという働きを持つが，両者の区別がわからないと次のような問題が起こる。((13)〜(17)は外国人学習者が作った文である。)

1. 非文法的な文になる。

(13)＊彼はいつもふざけるような話す。(→彼はいつもふざけるように話す。)

(14)＊もっと早い来てください。(→もっと早く来てください。)

2. 非文法的ではないが，意図した意味と違う意味になる。

(15) 私も母のような宗教を信じていたら，どんなに幸せだったか。

(→私も母のように宗教を信じていたら，どんなに幸せだったか。)

3. 非文法的ではないが，日本語としてあまり自然でない表現になる。

(16)？ゆうべ友達からの電話がかかってきました。

(→ゆうべ友達から電話がかかってきました。)

欧米系の学習者は，次のように連体修飾を使って名詞文を作りがちだが，実際の日本語では連用修飾の形をとって動詞文にした方が自然なことが多い。

《→名詞文》

(17) 彼女は病院につとめている生物学生です。

(→彼女は病院につとめながら，生物学を勉強しています。)

日本人は，「結婚するために…」「テレビを…」のような連用修飾表現を聞く（見る）と，次に来る述語を予想するし，「結婚するための…」「テレビの…」のような連体修飾表現を聞く（見る）と，それがかかる名詞を予想する。しかし，これが外国人学習者にはなかなかできない。学習者には，連用修飾と連体修飾の違いが文の構造の違いに関わる重要な違いであることに留意させたい。

【問題】 下線の部分が連用修飾成分，連体修飾成分のどちらであるかを考えてください。

1. 別に意見はありません。
2. 別の意見はありませんか。
3. 写真をとって現像した。
4. とった写真を現像した。
5. 日本へ電子工学を勉強しに来た。
6. 日本へ電子工学の勉強に来た。

【答】

1. 連用修飾
2. 連体修飾
3. 連用修飾
4. 連体修飾
5. 連用修飾
6. 連体修飾

2. 文のタイプ

文はあるまとまった内容を持ち，形の上で完結した単位である。文のまとまりは，表記上は「。」で表される。

チェック

次の語を知っていますか。チェックして下さい。

□動詞文（動詞述語文）　□形容詞文（形容詞述語文）
□名詞文（名詞述語文）
□単文　□複文
□現象文（現象描写文）　□判断文
□無題文　□有題文

文はいろいろな観点から分類できる。

述語の種類で分類すれば，動詞文（動詞述語文），形容詞文（形容詞述語文），「名詞＋だ」で終わる名詞文（名詞述語文）に分けられる。また，文の構造で分類すれば，述語を一つ持つ**単文**，述語を二つ以上持つ**複文**に分かれる。

文の意味（述べ方）から分類すれば，見たり聞いたりしたことをそのまま描写する**現象文（現象描写文）**と，ある対象に対する話し手の判断を述べる**判断文**に分かれる。

2.1　動詞文・形容詞文・名詞文

動詞文

1）動詞文は，基本的には，動作や変化について述べる文である。

(1) あした同僚とアフリカへ行きます。

(2) 毎朝牛乳を一本飲む。

(3) 夕べ駅前で友だちに会った。

(4) 残さずに全部食べろ。

(5) 桜の花が咲いた。

(6) 湖の氷がとけた。

しかし，次のように存在・状態を表すものもある。

(7) 窓辺にベビーベッドがある。／彼女には二人の子供がいる。

(8) たくさんのお金が要る。／たくさんのお金がかかる。

動詞文では，動詞がどのような補語（名詞＋格助詞）をとるかが重要である。《→補語》

私が アフリカへ	行く
子供が 牛乳を	飲む
窓辺に ベビーベッドが	ある

日本語の述語には，丁寧体（デス・マス体）と普通体がある。動詞の場合，丁寧体は「マス」の形になる。否定の形では「デス」も用いられることがある。

普通体		丁寧体	
行く	行った	行きます	行きました
行かない	行かなかった	行きません	行きませんでした
		(行かないです	行かなかったです)

2）動詞文の場合，主語の人称と，文に含まれるムードとの間には密接な関係がある。

(9)　私は明日会社に行く。／彼は明日会社に行く。

(10)　私は毎日会社に行く。

(9)は，主語が「私」の場合，「明日会社に行くことにする／行くつもりだ」という話し手の意志を述べているとも，「明日会社に行く予定だ」という予定を述べているともとれる。主語が「彼」のような第三者の場合は，「明日会社に行く予定だ」という予定を述べる文になる。(10)でも，「毎日行くつもりだ」という話し手の意志を表すとも，「毎日会社に行くことにしている」という習慣を表すともとれる。後者の場合，意志性は弱くなる。同じ「行く」でも，単に事柄を述べるだけではない難しさがあるのである。

形容詞文

1）動詞文が主として動作や変化について述べる文であるのに対し，形容詞文は「この本はおもしろい。」「空が青い。」のように，物事のありさまや状態，属性や性質，あるいは「私はうれしい（悲しい）」「腕が痛い（かゆい）」のように感情や感覚を表す。

形容詞文は**イ形容詞文**と**ナ形容詞文**に分かれる。ナ形容詞は**形容動詞**とも呼ばれる。《→形容詞》

イ形容詞

普通体		丁寧体	
高い	高かった	高いです	高かったです
高くない	高くなかった	高くありません	高くありませんでした
		高かったです	高くなかったです

ナ形容詞

普通体		丁寧体	
便利だ	便利だった	便利です	便利でした
便利ではない	便利ではなかった	便利ではありません	便利ではありませんでした
（じゃ）	（じゃ）	（じゃ）	（じゃ）
		便利ではないです	便利ではなかったです
		（じゃ）	（じゃ）

2）形容詞も動詞と同じく，補語（名詞＋格助詞）をとる。

(11) ここのコーヒーがおいしい。／ここのコーヒーはおいしい。

(12) 外国人には漢字が難解だ。

(13) 彼が経済にくわしい。／彼は経済にくわしい。

これらの文がとる補語は次のようになる。（「が」を用いると，「（どこのコーヒーがおいしいかというと）ここのコーヒーがおいしい」のように，該当するものを指定するという意味の文になる。あるものにどのような性質があるかを述べる文にする時は，「は」を用いる。）

～が } おいしい

～に
～が } 難解だ

～が
～に } くわしい

3）形容詞は，動詞と同じく，それ自体が活用し，それ自体でテンス（過去，現在などの時制）を持つ。外国人学習者は形容詞そのものが動詞のように活用し，テンス・アスペクトを持つことがなかなか理解できない。母語の形容詞文が「be ＋形容詞」に相当する形をとる学習者は，イ形容詞に「だ／です」をつけて活用させてしまいがちである。

This is expensive. → これは {*高いだ／高いです}。
This is not expensive. → これは {*高いじゃない／*高いじゃありません}。
This was expensive. → これは {*高いだった／*高いでした}。

ナ形容詞では，「だ」がナ形容詞の語尾として，「便利です」「便利じゃない」「便利じゃありません」「便利だった」「便利でした」のように活用する。

イ形容詞の丁寧形は，「高いです」のように，普通体に「です」をつけて作る。この「です」は「名詞＋だ」で用いられる「だ」や，ナ形容詞の語尾の「だ」とは異なり，単に丁寧さを加えるためのもので，常に「です」の形をとる。

外国人学習者が「高いじゃありません」「高いでした」「高いだったら」「高いじゃない」という言い方をよくするのは，単にイ形容詞とナ形容詞の区別がついていないためである場合が多いが，イ形容詞そのものが活用を持ち，イ形容詞につく「です」は活用しないということが理解されていないということもある。

4）学習者が，形の上で混同しやすいのは，動詞文・丁寧体に用いる「ます」と形容詞文・名詞文の丁寧体に用いる「です」との混同，および，両者の併用である。

(14)＊東京へ行きませんです。（デス・マスの併用）

(15)＊東京へ行ったじゃありません。(→「行きませんでした」)

(16)＊東京へ行くです。(→「行きます」)

学習者は，これらの誤用を特に自覚していないことが多い。それは，その文が動詞文なのか形容詞文なのか，それとも名詞文なのかについて，学習者自身はっきりした自覚がない，あるいは，それらの違いが文法的にさほど重要ではないと思っているからである。

名詞文

1）名詞文は，「こちらはインドのアリさんです。」「彼は京大の教授だ。」「きのうはすごい雨でした。」のように，「名詞1は名詞2だ」の形をとるものと，「彼が犯人だ。」「ここがバッキンガム宮殿です。」のように，「名詞1が名詞2だ」の形をとるものがある。

「名詞1は名詞2だ」は，「こちらは（誰かというと）インドのアリさんです」のように，名詞1を主題として取り上げて，それに対して名詞2で解説を加える文である。また，「名詞1が名詞2だ」は，「(誰が犯人かというと)彼が犯人だ」のように，名詞2に該当するものとして名詞1を指定する文（指定文）である。(形容詞文でも，「(どれがおいしいかというと）これがおいしい」のように，「が」を用いると指定文の読みになることがある。指定文にしない場合は「は」を用いる。)

名詞はそれ自体では文は作れず，常に「名詞＋だ」の形で名詞文を作る。

普通体		丁寧体	
犯人だ	犯人だった	犯人です	犯人でした
犯人ではない	犯人ではなかった	犯人ではありません	犯人ではありませんでした
（じゃ）	（じゃ）	（じゃ）	（じゃ）
		犯人ではないです	犯人ではなかったです
		（じゃ）	（じゃ）

「名詞＋だ」は，⒄のように，補語を一つだけとることが多いが，⒅⒆のように複数の補語をとることもある。また，補語のいずれかを主題にすることが多い。

⒄　彼がこの家の主人だ。／彼は京大の教授だ。

⒅　クラスでは彼女が一番の酒豪だ。

⒆　これがあれより上物だ。／これはあれより上物だ。

～が	教授だ
～で ～が	一番の酒豪だ
～が ～より	上物だ

2）欧米系の学習者は，日本語では名詞文より動詞文の方が自然な場合でも名詞文を用いたがるので注意が必要である。《→連用修飾・連体修飾》

⒇？弟は東京大学の生物学者です。

（→弟は東京大学で生物学を研究しています。）

(21)？（私が驚くことは）日本人の比較的な宗教の欠乏である。

（→（私が驚くことは）日本人は宗教心がかなり欠乏していることである。）

3）名詞文の質問には「そうです」で答えられるが，動詞文や形容詞文の質問には「そうです」では答えにくい。

(22)　A：中国の李さんですか。

B：はい，そうです。

(23) A：書類，もう出しましたか。

B：はい，出しました。／？はい，そうです。

(24) A：ここのコーヒー，おいしいですか。

B：はい，おいしいです。／？はい，そうです。

連体修飾節や「たら・れば・と」「とき」「ので」などの従属節でも，動詞文，形容詞文，名詞文の違いが現れる。

田中さんはきのうここに来ました。　→きのうここに来た田中さん
田中さんは背が高いです。　→背が高い田中さん
田中さんはきれいです。　→きれいな田中さん
田中さんのお父さんはアメリカ人です。→お父さんがアメリカ人の田中さん

田中さんが来た。　→田中さんが来たら，
田中さんは背が高い。　→田中さんが背が高かったら，
田中さんはきれいだ。　→田中さんがきれいだったら，
田中さんのお父さんはアメリカ人だ。
→田中さんのお父さんがアメリカ人だったら，

4）料理を注文する場面で，「私はてんぷら定食にする。」「私はカツ丼を注文したい。」などと言っているうちに，一人が「じゃ，僕はうなぎだ。」のように言うことがある。この「僕はうなぎだ」は「名詞1は名詞2だ」の形をとっているが，「僕＝うなぎ」というわけではない。「うなぎを食べる」「うなぎを注文する」「うなぎにする」の動詞の代わりに「だ／です」を用いるわけである。このような文はしばしば**ウナギ文**と呼ばれる。ウナギ文は，誰かがあることを主張した後で，それに続く人が，「では，私は…」のように対

比的に別のことがらを主張するようなときに用いられる。

動詞の代わりに「だ」を使う文は，ウナギ文以外にもある。ウナギ文以外では，特に対比の意味合いはない。

(25)　田中さんは今事務室です。(→田中さんは今事務室にいます。)

(26)　これから洗濯です。(→これから洗濯します。)

(25)のような文では，学習者は「田中さんは今事務所にです。」のように，格助詞を残しがちなので，注意が必要である。

【問題】 次の文が動詞文・形容詞文・名詞文のいずれであるかを考えてください。

1. ポピーは私の好きな花です。
2. あんなことを言って恥ずかしかった。
3. あしたは引っ越しだ。
4. あした引っ越しする。
5. さあ，出発だ。
6. さあ，出発するぞ。

【答】

1. 名詞文
2. 形容詞文
3. 名詞文
4. 動詞文
5. 名詞文
6. 動詞文

2.2　単文・複文

1）文は構造の上から**単文**と**複文**に分けることができる。次の(1)(2)のように，述語を一つだけ含む文を単文という。《→従属節》

(1)　あの人は田中さんです。
(2)　きのう友達に会った。

一方，(3)(4)のように複数の述語を持つ文を**複文**という。全体の中心となる文を主節（主文），他の文を従属節（従属文）という。連体修飾節，副詞節はいずれも従属節である。

(3)　〔きのう来た〕人は田中さんです。〔連体修飾節〕
(4)　〔きのう町を歩いていたら〕，友達に会った。〔副詞節〕

(3)は「きのう来た」が連体修飾節となって「人」にかかっている。「きのう来た」が従属節で，「（その）人は田中さんです」が主節である。また，(4)では，「きのう町を歩いていたら」が従属節で，「友達に会った」が主節となる。次のように従属節の中にさらに従属節が入ることもある。

(5)　〔〔一人で勉強していたら〕，つまらなくなったので〕，友達に電話をかけた。
(6)　〔〔〔友人が貸してくれた〕本を読んだ〕時に感じた〕こと

従属節は主節全体，または，主節の一部（副詞節では述語，連体修飾節では名詞）を修飾する。

2）複文では，文のうしろに名詞や接続助詞などがついて従属節が作られ，主節の中に埋め込まれるが，その際，主節と従属節の時間関係，主語・主題のかかり方などが問題になる。

例えば，次の例では，「とき」の前が「行く」か「行った」かで，「おみやげを買った」のが「フランスに行く」前か後かが違ってくる。

(7) a．フランスへ行くとき，おみやげを買った。
　　b．フランスへ行ったとき，おみやげを買った。

また，次の例では，「彼女は」か「彼女が」かで，「プールに飛び込んだ」のが誰かが異なってくる。《→主語，主題，従属節》

(8) a．彼女は水着に着替えると，プールに飛び込んだ。
　　b．彼女が水着に着替えると，プールに飛び込んだ。

2.3　現象文・判断文

1）「子どもは泣くものだ。」「ここのバスはいつも遅れる。」のように，あるものを話題として取り上げ（この場合「子ども」「ここのバス」），それに対して話し手が判断を述べたり解説を加えたりする（この場合「泣くものだ」「いつも遅れる」）文を**判断文**という。「～は」の部分は**主題**（**題目**，**トピック**，**テーマ**）と呼ばれる。主題が入るので**有題文**とも呼ばれる。判断文「XはY」は，「Xについて言えば，Y」のように，話し手があるものを話題として取り上げるというムード的な意味合いが強い。《→主語，主題》

一方，「子どもが泣いている。」「バスが来た。」のように，話し手が見たり聞いたりしたことがらをそのまま述べたり報告する文を**現象文**（**現象描写文**）という。主題と解説という二つのものを結びつける判断文に対し，現象文は，主題を持たず，文全体で一つの内容を表すため，**無題文**とも呼ばれる。現象

文は，自動詞文（述語が自動詞の文）や存在文（述語が「ある」「いる」の文）であることが多いが，他動詞文のこともある。

(1) 桜がきれいだ。
(2) 飛行機事故で人が死んだ。
(3) 危ない。車が来る。
(4) そっと押すと，ドアが開いた。
(5) ここに一枚のカードがあります。
(6) きのう国から手紙が来ました。
(7) あそこで太郎が手紙を書いている。

2）現象文では，文の内容全体が新しい情報として聞き手に提示される。そのため，会話などでは，新しい物事を提示する文（次の文で話題として取り上げる物事を提示する文）として用いられることが多い。

(8) きのう国から手紙が来ました。（現象文）
　その手紙には，寒波がきびしいと書いてありました。（判断文）
(9) 犯人が見つかった。（現象文）
　その犯人は1年間海外逃亡をしていたらしい。（判断文）

3）判断文は，ある主題に対して話し手が判断を述べたり解説を加えたりする文であるため，文末にムード表現が用いられることが多い。

《→ムード》

(10) 子どもはよく寝るものだ。
(11) 彼は今日は休むらしい。
(12) 彼は仕事をやめるだろう。

4）否定文は判断文であることが多い。

(13)　バスはもう来ませんよ。

しかし，眼前に事柄が存在しないことを描写する場合は，描写現象文でも否定が現れる。否定の現象文は「変だ，なぜこうなのだ」という疑いや不審の気持ちを含むことが多い。

(14)　あれ，太郎がいない。

(15)　いくら待っても，バスが来ない（電話がかかってこない）。

3. 主格・主語・主題

チェック

次の語を知っていますか。チェックして下さい。

□主格（ガ格）　□主語　□主題

□主語廃止論　□取り立て助詞「は」　□格助詞「が」

【問題】 次の中で正しいものには○，正しくないものには×をつけなさい。

1. （　）主語に対応する語は述語である。
2. （　）一つの文には必ず主語がある。
3. （　）主語と主題は同じものである。
4. （　）主語と主題は文法的に全く異なる概念である。
5. （　）「名詞＋が」で表されるのは主語である。
6. （　）主題はすべて「名詞＋は」の形をとる。

【答】

1. ○　2. ×　3. ×　4. ○　5. ×　6. ×

補語（名詞＋格助詞）のうち，「名詞＋が」の形をとるものを**主格**（主格補語）という。格助詞の形をとって**ガ格**と呼ばれることも多い。「～が」は「～を」「～に」「～で」（それぞれヲ格，ニ格，デ格と呼ばれる）などの他の格助詞と同じく，名詞と述語の間の論理的関係（コト的な関係）を表す。

主格（ガ格）には，「子供が泣いている」「机の上に本がある」「空が青い」のように，述語が表す動作・変化・存在の主体，あるいは性質・状態の**主体**を表すものと，「私はコーヒーが好きだ」「君には私の気持ちがわからないの

だ」のように主体を表さないものがある。ここでは前者を**主語**と呼ぶ。後者のような「～が」は本節では扱わないので，実質的には，主語と主格が同じものをさすことになる。(なお，「君に私の気持ちがわかるとは意外だ」のような文では「君」が主体を表すと考えられるが，このような「～に」も主語に含める立場もある。)

「太郎は」「東京では」のような，「～は」の形は**主題**と呼ばれる。「は」は「話し手が何を文全体の話題として取り上げるか」というムード的な意味に関わるものである。

(1)　あそこに女の人がいます。あの人は○○小学校の先生です。

(1)では，第一文の「女の人が」は主語である。第二文の「あの人は」は，「あの人が○○小学校の先生です」という文の主語「あの人が」を主題化したものである。(「が」の場合，主題化にともない削除される。)

あの人が○○小学校の先生です。
　　↓主題化（「は」付加）
あの人がは○○小学校の先生です。
　　↓「が」削除
あの人は○○小学校の先生です。

ヲ格（目的格），ニ格なども，「コーヒーは私が飲む」「日本にはたくさんの方言がある」のように，「は」をつけて主題にできる。(「を」は「が」と同様削除されるが，それ以外の格助詞は「は」をつけても残る。)

主語と主題は文中でのかかり方が異なる。主語はすぐうしろの述語に小さくかかるのに対し，主題は文全体に大きくかかる。次の例でも，a．では「鳥が」はすぐうしろの動詞「飛び立つ」にかかるのに対し，b．の「鳥は」

は従属節を越えて主節の動詞「ばたばたさせる」にかかっていく。

(2) a．〔鳥が飛び立つ〕とき，木の枝が激しく揺れる。
　　b．鳥は〔飛び立つとき，羽をばたばたさせる〕。

主語

1）主語という用語はいろいろな意味で用いられる。ここでは，前述のように，「子供が泣いている」「机の上に本がある」「空が青い」のように，述語が表す動作や変化・存在の主体，あるいは性質・状態の主体を表す「～が」の形を主語と呼ぶ。

日本語文法論では，「日本語には主語はない」ということがしばしば言われる（主語廃止論）。これは，「日本語では，英語の人称の一致のように主語だけが文法的に特別な働きをするということはない」という見方にもとづくものである。この立場では，主語は「名詞＋を」「名詞＋に」「名詞＋で」などの他の補語と同格に扱われる。しかし，日本語でも主語が文法的に特別な働きをするという議論もある。《→補語》

本書では，主語も他の補語と同じ資格で述語にかかる（文法的には主語と他の補語は同格の関係にある）という立場にたつ。

田中さんが
友達と
レストランで
コーヒーを
} 飲む

しかし，情報的には，主語は補語の中でも重要な情報を担うと考える。「誰がどうする」「何がどうである」ということは，文の内容において最も基本的な情報だからである。

2）日本語教育では，主語と主題（特に「太郎はここにいる」のように主語を主題化したもの）の違いが曖昧にされることが多い。「私はタイの留学生です。」「日本語は難しい。」「田中さんは東京へ行きました。」の名詞文・形容詞文・動詞文のいずれにおいても「名詞＋は」が文の主題（トピック）であり，同時に各文の主語であると教えられることが多い。しかし，主語と主題は全く別の概念であり，また，「が」と「は」の違いは文の意味を理解する上で鍵になることが多いので，早い段階から両者の違いを理解させる必要がある。

主題と主語の違いは取り立て助詞「は」と格助詞「が」の違いであるとも言える。「は」の特徴と「が」の特徴については「助詞」の節で述べる。

《→取り立て助詞，「は」と「が」》

3）主語の現れ方には次のようなものがある。

1. 現象文の主語 《→現象文・判断文》

(3) 教室に学生がいます。

(4) 犬が吠えている。

(5) 電気が消えた。／電気がつかない。

2. 主語選択文（主語となるものを特定する文）の主語 《→名詞文》

(6) 「誰が東京へ行きますか。」「田中さんが行きます。」

(7) 「どれがあなたのですか。」「これが私のです。」

3. 従属節の主語

(8) あなたがきのう買った本を見せてください。

(9) 山田さんが来たら，私は帰ります。

主題

1）判断文において，解説や説明を加える対象を示す「～は」は**主題**と呼ばれる。**題目**，**トピック**，**テーマ**ともいう。文章や会話では，現象文で一つのものや事柄を話の場に導入したあとで，それを主題として取り上げて解説や説明を加えることが多い。⑽では，第一文で「木」が導入され，第二文で同じ樹木が「あの木」という形で話題になっている。

⑽　あそこに木がありますね。あの木は樹齢300年だそうですよ。

もちろん，あらかじめ分かっているものや事柄は，いきなり「は」を用いて主題として取り上げることができる。

⑾　（特定の人物を指さして）あの人は私の同僚です。
⑿　私の誕生日は３月６日です。

また，何が主題であるかが自明な場合は，省略されることが多い。

⒀　あの人は○○小学校の先生です。（あの人は）去年転勤して来られました。

2）主題を持つ文は，その主題に対する解説になりうるいくつかの候補の中から一つを選び出すという意味を表す。例えば，⒁ａ．では，「東京へ行きました」が解説として選択されている。これは，主題のない⒁ｂ．が，主語になりうる候補の中から「田中さん」が選ばれることを表す（主語選択文）のと対照的である。

⒁　ａ．田中さんは東京へ行きました。

田中さんは
- 東京へ行きました。
- ~~会社を休みました~~。
- ~~東京大学の学生です~~。
- 結婚~~している~~。

：

b．田中さんが東京へ行きました。

田中さん
~~山田さん~~
私
：
が東京へ行きました。

3）複文において主語は従属節内の述語にかかるが，主題は従属節を越えて主節の文末にかかっていく。《→主語》

(15) a．〔鳥が飛ぶ〕とき，枝がしなる。
b．鳥は〔飛ぶとき，羽をこすり合わせる〕。

また，主題は文の境界を越えて機能する（**ピリオド越え**）。次の例では，「あの人」が第二文，第三文の主題となっている。

(16) あの人は○○小学校の先生です。去年転勤して来られました。とても良い先生です。

4）主題は「名詞＋は」の形をとるほかに，「名詞＋助詞＋は」の形をとることも多い。《→補語》

(17) ウイスキーは太郎が飲んだ。(←ウイスキーを　ヲ格)

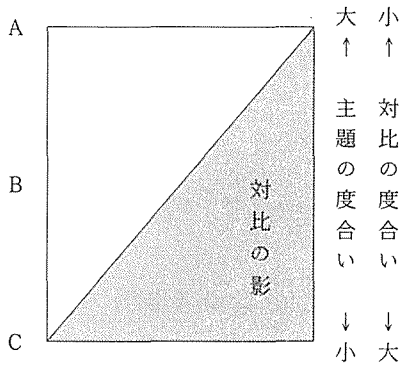
(18) 京都にはたくさんのお寺がある。(←京都に　ニ格)

(19) 日本ではもう紅葉の季節が始まっている。(←日本で　デ格)

主題の「は」と対比の「は」

1)「は」は,「犬は好きだが, 猫はどうも…。」,「昔は暮らしやすかったが, 今はせちがらくて。」,「やってはみるけれども, どうなるかわからない。」のように対比的な述べ方をする際に用いられることも多い。このような「は」は, 主題の「は」とは区別して対比の「は」と呼ばれることがある。

対比には度合いがあり, 対比の意味が強い場合, 比較的弱い場合, ほとんどゼロに近い場合というように段階的にとらえられる。対比の意味合いが弱い場合,「は」は主題を表すことになる。(「名詞＋は」は本来対比を表し, 主題を表す用法もその中に含まれるとする見方もある。これは, 何かあるものを主題として選び出す過程には必ず「これ以外は話題にしない」という意味の対比があるという見方にもとづく。)



Aの部分は対比的意味合いが全くない場合である。例えば, 自己紹介をするとき,「私はタイの○○です。」という言い方をするが, この「私は」の中には他の人との比較は含まれていない。その人は単に自分のことを述べてい

るのであり，聞き手の意識もその人に集中している。

一方，「犬は好きだが，猫はどうも…。」「昔は暮らしやすかったが，今はせちがらくて。」のような文では，「犬は」に対して「猫は」が，「昔は」に対して「今は」がはっきり対比させられている。このような対比の度合いが高い（すなわち「対比の影」が濃い）場合がＣに当たる。そして，ＡとＣの間にいろいろな段階が存在する。

２）語の中には，「昔―今」「男―女」「今日―明日」のように，対立する概念が想起しやすいものがある。このような語に「は」がついた場合，対比の度合いが大きくなる。(22)のように「は」が格助詞につく場合も対比の度合いが大きくなる。

(20) 昔はよかった。（→今はよくない。）

(21) きょうは行きますが，→（あしたは行きません。）

(22) 東京へは行きます。（→京都へは行きません。）

３）次の(23)のように，主題を表す「は」と，主語を表す「が」が共存することがある。この場合，主題で表されるものが持つ特定の部分や側面が「が」で取り上げられる。

(23) 象は鼻が長い。／広島はかきがうまい。

一方，次の(24)のように，「は」が二つある場合，一番目の「は」は主題的な性格が強く，二番目の「は」は対比的な意味合いが強い。一般に，「は」はより述語に近い位置にある方が対比の意味が強くなる。

(24) 広島はかきはうまい。（他のものはそうでもない。）

(25)は「は」が三つ存在している。外国人学習者は「は」が三つもあると不思議がるが,「は」が対比を表すと考えると説明しやすい。ここでも述語に一番近い「は」が対比の度合いが一番強くなる。

(25) 私はきのうは夕食はとりました。(しかし，夕食以外はとりませんでした。)

4. 補　　語

チェック

次の語を知っていますか。チェックして下さい。

□必須補語　　□随意補語

□主格　　□目的格

□ガ格　　□ヲ格

□ニ格　　□デ格

□ヘ格　　□ト格

□カラ格　　□マデ格　　□ヨリ格

1）補語は文を構成する要素の一つで，「名詞＋格助詞」の形をとって述語にかかる。格助詞は述語と名詞との論理的な関係（**格**）を示す。

(1)　田中さんが
　　友達と
　　レストランで
　　コーヒーを　} 飲む

(2)　田中さんが
　　政治に　} くわしい

2）補語の中には，述語が表す動作や状態にとって不可欠なものを表すものと，動作や状態の内容や状況について補足的に説明を加えるものがある。前者を**必須補語**（**必須格**），後者を**随意補語**（**随意格**）という。(1)では，動作

の主体を表す「～が」と動作の対象を表す「～を」が動詞「飲む」の必須補語であり，共同動作者を表す「～と」と動作の場所を表す「～で」が随意補語である。また，(2)の「～が」「～に」はいずれも形容詞「くわしい」の必須補語である。

必須補語と述語により，文の基本的な骨組みが作られる。動詞と必須補語の組み合わせのパターン（格のパターン）には次のようなものがある。

1. ～が　述語

(3) パソコンがこわれた。

(4) 誰が一番きれいですか。

2. ～が　～を　述語

(5) ペットがパソコンをこわした。

(6) 太郎が小説を書いた。

3. ～が　～に　述語

(7) 子供が父親の腕につかまった。

(8) 母親が子どもの成績に驚いた。

(9) 花子がボランティア活動に熱心だとは思わなかった。

4. ～が　～に　～を　述語

(10) 誰があなたにお金を貸したのですか。

5. ～が　～と　述語

(11) 山田くんが田中さんと婚約した。

(12) 現場に残された指紋が容疑者の指紋と一致した。

(13) 太郎が子供を三郎と名づけた。

6. ～に　～が　述語

(14) 机の上に本がある。

(15) 彼に私の気持ちがわかるとは思えない。

必須補語，随意補語いずれの場合も，補語は互いに独立・対等に述語を修飾する。（必須補語を修飾要素と区別して考える立場もある。）日本語の場合，補語の順序を変えることは比較的自由である。また，実際の談話・文章の中では，補語は状況に応じて省略される。《→連用修飾・連体修飾》

3）実際の文章や会話では，補語が主題化されたり，他の取り立て助詞に取って代わられたりすることが多い。《→主題》

(16) 私の国は離婚が大きな問題になっている。（←私の国で）

(17) 甘いものも召し上がりますか。（←甘いものを）

4）補語の名称には，格助詞の形にもとづくものと，述語と名詞との論理的な関係（格関係）にもとづくものとがある。例：「～が」（ガ格／主格），「～を」（ヲ格／対格・目的格），「～に」（ニ格／与格・場所格…）

5）それぞれの補語は，次のような関係を表す。

【ガ格（主格）】

1. 動作や状態の主体（主語）

(18) 月が出る。

(19) 僕が子供だったころ，この辺りは原っぱだった。

2. 状態の対象（対象語）

(20) 日本語が上手に話せる。

(21) おまえが好きだ。

【ヲ格（対格・目的格）】

1. 動作・作用の対象

(22) 本を読む。

(23) 湯をわかす。

2. 通過経路・通過点

(24) 公園を散歩する。

(25) 空を飛ぶ。

(26) 角を曲がる。

3. 起点

(27) うちを出る。

(28) バスを降りる。

【ニ格】

1. 存在・所有の場所・位置

(29) 父は大阪にいる。

(30) 事務室にコピー機がある。

2. 動作実現の時点

(31) 6時に起きる。

3. 移動の帰着点

(32) 車に乗る。

(33) いすに座る。

4. 移動の方向

(34) 東京に行く（向かう）。

5. 動作・作用の対象

(35) 友だちに会う。

(36) 先生に電話をかける。

6. 動作・作用の源

(37) 森さんに本を借りる。

(38) どろぼうに入られる。

7. 移動の目的

(39) つりに行く。

8. 比較の基準

(40) 父のうちは海に近い。

9. 原因・結果

(41) お金に困る。

(42) 良い知らせに喜ぶ。

【デ格】

1. 動作・作用の場所

(43) 銀座で買い物をする。

2. 手段・方法・道具・材料

(44) ペンで書く。

(45) 紙で飛行機を作る。

3. 範囲

(46) 日本ではゴルフが盛んだ。

4. 限度・期限

(47) 2時間で仕上げる。

(48) 一万円で買った。

5. 理由・原因

(49) 雪で新幹線が遅れた。

【ヘ格】

動作が向けられる方向・場所・相手

(50) 東京へ行く（向かう）。

(51) 両親へ手紙を書く。

【ト格】

1. 動作の相手

(52) 花子と結婚する。

2. 同伴者（「～といっしょに」に言い換え可）

(53) 家族と（いっしょに）食事をする。

3. 引用内容

(54) 彼はあした休むと言っていた。

(55) それは難しいと思う。

4. 様態

(56) そんな話はごまんとある。

(57) 花と散る。

【カラ格】

1. 出発点・基点

(58) 家から会社まで一時間かかる。

2. 受け取り動作の相手を示す

(59) 森さんから本を借りる。

3. 動作の主体

(60) そのことについてはあなたから話してください。

4. 動作の開始時点

(61) 会議は午後3時から始まります。

5. 物事の原因・発端

(62) ちょっとした油断から失敗することが多い。

6. 判断の根拠

(63) 調査の結果から見て，次のようなことが言える。

7. 原料

(64) しょう油は大豆から作る。

【マデ格】

物事の限界・限度　《→取り立て助詞「まで」》

(65)　友達を駅まで送っていった。

【ヨリ格】

1.　起点・経路

(66)　今夜上野より出発する。

2.　比較の基準

(67)　タクシーより地下鉄のほうがいい。

6）補語は名詞と述語との関係を示す語であるため，日本語の母語話者は，補語を聞いただけでも，ある程度，うしろに来る述語を予測したり，補語と述語との格関係（主格か目的格かなど）を予想したりすることができる。しかし，外国人学習者は，補語を聞いて，どのような述語が続くか予測することがなかなかできない。

【問題】 括弧の中に，それぞれの述語がとる必須補語を入れてください。

1.　（　　）（　　）わかる

2.　（　　）（　　）（　　）教える

3.　（　　）（　　）好きだ

4.　（　　）（　　）詳しい

5.　（　　）社長だ

【答】

1.　（～に）（～が）わかる

2.　（～が）（～に）（～を）教える

3.　（～が）（～が）好きだ

4.　（～が）（～に）詳しい

5.　（～が）社長だ

5. 述　　語

チェック

次の語を知っていますか。チェックして下さい。

□動詞　□形容詞　□名詞述語（名詞＋だ）

□活用　□語幹　□語尾

述語は，主体が行う動作・作用や，主体が持つ性質・状態・関係などを叙述する要素である。場合によっては，話し手の心的態度を表すこともある。日本語では，述語だけでも文として成立する。その意味で，述語は文の成分の中で最も重要な部分である。

述語には，動詞，形容詞（イ形容詞，ナ形容詞），「名詞＋だ」（名詞述語）の三つがある。《→文のタイプ》

5.1　動詞，形容詞，「名詞＋だ」の活用

1）述語はうしろに続く要素や意味によって形が変化する。そのような形の変化を活用という。日本語の活用には次のような特徴がある。

1. 印欧語と異なり，日本語の述語の活用は，主語の人称・数・性とは関係しない。
2. 日本語では，動詞だけでなく形容詞（イ形容詞，ナ形容詞）も活用する。「名詞＋だ」では，「だ」が活用する。

2）述語の活用においては，「食べる，食べない，食べれば，食べた」，「おいしい，おいしくない，おいしければ，おいしかった」の下線部のように変化

しない部分がある。そのような部分を**語幹（活用語幹）**という。変化する部分のことは**語尾（活用語尾）**という。

何を活用形とするかについては，いくつかの考え方がある。例えば，「食べる」の仮定を表す形「食べれば」については，①「食べる」の活用形「食べれ」に助詞「ば」が付いたものとする立場と，②「食べれば」全体を一つの活用形とする立場がある。前者の立場では「れ」が語尾になり，後者の立場では「れば」が語尾になる。日本語教育の立場から見ると，「食べれば」のように具体的な意味を持ったまとまりを一つの活用形ととらえる方がわかりやすい。

動詞の活用

1）動詞は活用の仕方によって三つのグループに分かれる。それぞれには，下記のように様々な呼び方がある。（グループ分けの数字はローマ数字Ⅰ，Ⅱ，Ⅲで表されることが多いが，便宜上，ここではアラビア数字1，2，3を使う。）

書く，読む　など	着る，寝る　など	する，来る
1グループ	2グループ	3グループ
グループ1	グループ2	グループ3
1類の動詞	2類の動詞	3類の動詞
五段活用	一段活用	サ変・カ変活用
強変化動詞	弱変化動詞	不規則動詞
子音語幹動詞	母音語幹動詞	不規則動詞
consonant verb	vowel verb	irregular verb
u-verb	ru-verb	irregular verb

漢字圏の学習者は母国で「五段活用，一段活用…」という呼び名で習ってきていることが多いが，非漢字圏の学習者は「1グループ」「グループ1」のような呼び名で習っていることが多い。いずれにしろ，それぞれのグループがどのような特徴を持つのかをきちんと把握させることが必要である。

では，次に各活用形を見てみよう。

	1グループ		2グループ		3グループ	
	読む	切る	着る	寝る	する	来る
語幹	yom- (yon-)	kir- (kit-)	ki-	ne-		
辞書形	よむ yomu	きる kiru	きる kiru	ねる neru	する suru	くる kuru
ナイ形	よまない yomanai	きらない kiranai	きない kinai	ねない nenai	しない shinai	こない konai
マス形（連用形）	よみ yomi	きり kiri	き ki	ね ne	し shi	き ki
バ形（条件形）	よめば yomeba	きれば kireba	きれば kireba	ねれば nereba	すれば sureba	くれば kureba
命令形	よめ yome	きれ kire	きろ kiro	ねろ nero	しろ shiro	こい koi
(ヨ)ウ形（意向形）	よもう yomoo	きろう kiroo	きよう kiyoo	ねよう neyoo	しよう shiyoo	こよう koyoo
テ形	よんで yonde	きって kitte	きて kite	ねて nete	して shite	きて kite
タ形	よんだ yonda	きった kitta	きた kita	ねた neta	した shita	きた kita
タラ形	よんだら yondara	きったら kittara	きたら kitara	ねたら netara	したら shitara	きたら kitara
タリ形	よんだり yondari	きったり kittari	きたり kitari	ねたり netari	したり shitari	きたり kitari

ごく少数ではあるが，2グループ（一段活用）を1グループ，1グループ（五段活用）を2グループと呼んでいる教科書（名古屋大学 A COURSE IN MODERN JAPANESE など）もあるので，注意が必要である。

2グループの動詞は，「きる，きない，きれば，きて」のように，「き(語幹)」のうしろの部分が変わるだけなので，比較的単純である。一方，1グループの動詞は，「きる kiru，きらない kiranai，きれば kireba」のように，語幹のうしろの母音が a，i，u，e，o のように変わったり，「きって kitte，きった kitta，きったら kittara，きったり kittari」のように，テ形，タ形，タラ形，タリ形で語幹の形が変わったりして複雑である。活用を教える際には，より単純な2グループの動詞から入ったほうが入りやすい。また，1グループの動詞の活用は五十音図の「あいおうえ，かきくけこ…」に当てはめて教えるのが，学習者にも整理しやすいようである。

テ形，タ形，タラ形，タリ形は，テ形ができれば応用しやすい。1グループの動詞のテ形は複雑であるが，次のようにまとめることで少し整理することができる。

ku（く）→ ite（いて）	例：kaku（かく）→ kaite（かいて） （例外：iku（行く）→ itte（行って））
gu（ぐ）→ ide（いで）	例：nugu（ぬぐ）→ nuide（ぬいで）
mu（む）→ nde（んで）	例：nomu（のむ）→ nonde（のんで）
bu（ぶ）→ nde（んで）	例：yobu（よぶ）→ yonde（よんで）
nu（ぬ）→ nde（んで）	例：shinu（しぬ）→ shinde（しんで）
ru（る）→ tte（って）	例：toru（とる）→ totte（とって）
tsu（つ）→ tte（って）	例：matsu（まつ）→ matte（まって）
(w)u（う）→ tte（って）	例：a(w)u（あう）→ atte（あって）
su（す）→ shite（して）	例：hanasu（はなす） → hanashite（はなして）

2）学習者にとって難しいのは，動詞が1グループと2グループのいずれに属するかということである。辞書形からでもある程度は判断できるが，辞書形だけから判断できないものもあるので注意が必要である。次は動詞のグループ分けのフローチャートの例である。

その動詞が,

不規則動詞である3グループ（「する」,「来る」の2語のみ）は無条件に覚える。

↓

「る」で終わるか。 NO → 1グループ

YES

↓

「る」の前が「-e」(「え, け, せ, て, め, れ」)で終わるか。 YES → 2グループ

NO (例外「帰る」)

↓

「る」の前が「-i」(「い, き, し, ち, み, り」) で終わるか。 NO → 1グループ

YES

↓

「切る」「入る」「要る」「知る」「散る」などのどれかか。 YES → 1グループ

NO

↓

2グループ

また, 次のように, 辞書形が同じでグループが異なる動詞は, 例外として覚えさせる。

1グループ： 切る 帰る 練る 要る

2グループ： 着る 変える 寝る いる (exist, stay)

形容詞の活用

形容詞はイ形容詞とナ形容詞（形容動詞）に分かれる。形容詞の語幹は語末の「—い」「—だ」を除いた部分である。それぞれの活用は次の通りである。

	イ形容詞	ナ形容詞
辞書形	大きい	元気だ
ナイ形	大きくない	元気ではない（じゃない）
バ形（条件形）	大きければ	元気なら
テ形	大きくて	元気で
タ形	大きかった	元気だった
タラ形	大きかったら	元気だったら
タリ形	大きかったり	元気だったり
連体修飾用法	大きい	元気な
副詞的用法	大きく	元気に

「ゆうめい（だ）」「きれい（だ）」「ゆかい（だ）」「ふゆかい（だ）」「きらい（だ）」「とくい（だ）」「ふとくい（だ）」などのナ形容詞は，語幹の部分が「い」で終わるために，学習者はイ形容詞と間違えやすい。また，ローマ字表記で日本語を習う学習者は，「げんき」（genki），「べんり」（benri）なども，ローマ字表記では「ｉ」で終わるために，イ形容詞であると思いがちである。《→形容詞》

「名詞＋だ」の活用

「名詞＋だ」の活用は次の通りである。ナ形容詞と異なるのは，連体修飾用法で連体助詞の「の」を用いる点である。

	名詞＋だ	ナ形容詞
辞書形	雨ではない（じゃない）	元気ではない（じゃない）
ナイ形	雨だ	元気だ
バ形（条件形）	雨なら	元気なら
テ形	雨で	元気で
タ形	雨だった	元気だった
タラ形	雨だったら	元気だったら
タリ形	雨だったり	元気だったり
連体修飾用法	雨の（例：雨の日）	元気な（例：元気な人）
副詞的用法	雨に	元気に

5.2　動詞の分類

チェック

次の語を知っていますか。チェックして下さい。

□意志動詞	□無意志動詞
□スル動詞	□ナル動詞
□他動詞	□自動詞
□動作動詞	□状態動詞
□継続動詞	□瞬間動詞

動詞は観点によっていろいろな分け方ができる。「他動詞／自動詞」,「意志動詞／無意志動詞」,「スル動詞／ナル動詞」といった分け方がそれである。

5.2.1　意志動詞・無意志動詞

1）日本語の動詞は大きく**意志動詞**と**無意志動詞**に分かれる。動作をする主体（**動作主**）の意志的な動作を表す動詞を**意志動詞**，意志的な動作を表さない動詞を**無意志動詞**と言う。「札幌へ行きたい。」「ワインを飲もう。」「今日は調子が悪いので，会社を休む。」の「行く」「飲む」「休む」は意志動詞である。一方，「時計がこわれた。」「小雨が降っている。」「借金がある。」の「こわれる」「降る」「ある」は，主語が意志的にコントロールできない事柄を表すので，無意志動詞である。（日本語教育では，意志動詞を〔＋controllable〕，無意志動詞を〔－controllable〕と説明することがある。）

意志動詞と無意志動詞の区別は，一般に，命令形や意向形（「～う／よう」の形）が作れるかどうか，願望を表す助動詞「たい」がつくかどうかといっ

た基準で判断することができる。次の動詞を意向形や命令形にしたり，「たい」をつけたりして，意志動詞か無意志動詞か判断してみよう。

【問題】 次の動詞が意志動詞のときは○，無意志動詞のときは×，意志動詞，無意志動詞どちらにも使われるものには△を付けてください。

忘れる，なる，できる，急ぐ，倒れる，飲む，いる

ある，わかる，行く，する，落とす，死ぬ，忘れる

【答】 ○ 飲む，行く，急ぐ，死ぬ，いる，する

× ある，できる

△ いる，なる，倒れる，落とす，忘れる，わかる

2）意志動詞・無意志動詞の区別は，ムードと密接な関係を持つ。話し手の意志を伝えるのか，他の人の意志を伝えるのか，それとも，単にある事柄・事態などについて描写しようとするのかによって，表現形式が変わってくる。

意志動詞は動作主の意志を表すことができるので，次のような形をとることができる。

1. 意向形・願望「たい」

〔意向〕　飲もう

〔願望〕　飲みたい

「ある」「できる」などは基本的には意向形・願望形を作ることはできない。

＊あろう　＊できよう　＊ありたい　＊できたい

2. 命令・依頼・禁止の形

〔命令〕　飲め，飲みなさい

〔依頼〕　飲んでください，飲んでくれ

〔禁止〕　飲むな，飲んではいけない

「ある」や「できる」（可能）などは基本的には命令形，依頼形，禁止形を作ることができない。

＊あれ（「神とともにあれ」などは可）　＊あってください（あってくれ）　＊あるな　＊できろ　＊できてください（できてくれ）　＊できるな

「（雨が）降る」「（風が）吹く」「（花が）咲く」などの自然現象を表す動詞の命令形は「雨よ，降れ降れ。」「風よ，もっと吹け。」「庭いっぱいに花よ，咲け。」のように，話し手の願望を表す。

3.　可能・使役・受身の形　《→ヴォイス（態）》

〔可能〕　飲める

〔使役〕　飲ませる

〔受身〕　飲まれる

「ある」「できる」などは可能形・使役形・受身形を作ることはできない

＊あれる　＊あらせる　＊あられる　＊できられる

＊できさせる

4.　補助動詞など

「ておく」　飲んでおく

「てみる」　飲んでみる

「てある」　飲んである

「ことにする」　飲むことにする

「ある」「できる」などは，基本的には上記の補助動詞がつかない。

＊あっておく　＊あってみる　＊できておく　＊できてある

＊できることにする

5. 授受表現

「てあげる」　　飲んであげる

「てもらう」　　飲んでもらう

「てくれる」　　飲んでくれる

「ある」「できる」などは基本的には授受表現が作れない。

＊あってもらう　＊できてくれる

6. 目的を表す「～に行く」「～に来る」

「～に行く」　　飲みに行く

「～に来る」　　飲みに来る

「ある」「できる」などは基本的に目的表現がつくれない。

＊ありに行く　＊できに来る

7. 従属節

従属節のあるものにおいては，意志動詞か無意志動詞かによって意味が変わる。

「～ながら」　　飲料水を飲みながら，走る。(同時動作)

妻がありながら，浮気をする。(逆接)

「～ため（に)」　　水を飲むために，水飲み場に向かう。(目的)

岩石があるために，掘削が進まない。(理由・原因)

3）動詞によっては，同じ動詞が意志動詞になったり無意志動詞になったりする。たとえば，「落とす」は，「財布を落としてしまった。」のような場合は，意志的なコントロールができない動作であるから無意志動詞になるが，「昭和20年にアメリカは広島に原爆を落とした。」では意志動詞になる。「忘れる」も「つらいけど，彼女のことは忘れよう。」では意志動詞であるが，「(うっかり）電話番号を忘れてしまった。」では無意志動詞となる。

5.2.2　スル動詞・ナル動詞

1）動詞には，動作や行為を述べるものと，変化を述べるものがある。ここでは，前者を**スル動詞**，後者を**ナル動詞**と呼ぶ。基本的には，意志動詞＝スル動詞，無意志動詞＝ナル動詞である。スル表現とナル表現の対立は，動詞だけでなく，日本語表現の様々なところに現れる。

2）日本語では，同じ事柄を次のように，スルとナルの両方で表現することができる。次の各例で，a．はスル表現，b．はナル表現である。

(1)　a．順子さんが部屋をきれいにした。（スル）
　　b．部屋がきれいになった。　　（ナル）
(2)　a．塩を入れて，味をからくした。　（スル）
　　b．味がからくなった。　　（ナル）
(3)　a．親が娘をバレリーナにした。　　（スル）
　　b．娘がバレリーナになった。　　（ナル）

同じ事柄について述べる場合でも，スル表現を使うと，動作主が自分の意志で動作を実行したことに重点が置かれ，ナル表現を使うと，そのような結果が生じたということに重点が置かれる。このように話し手の重点の置き方でスル表現にするか，ナル表現にするかが決まるわけだが，次の例では，実際には自分たちの意志で結婚を決めたのであるが，b.のように「結果的にこうなった」という言い方をすることによって，婉曲的で控えめな発言になる。

(4)　a．来月，結婚することにしました。
　　b．来月，結婚することになりました。

3）動詞によっては，スル表現とナル表現がペアになっているものもある。

(5)　a．順子が電気をつけた。（スル）
　　b．電気がついた。　　（ナル）
(6)　a．みんなで重い机を動かした。（スル）
　　b．重い机が動いた。　　（ナル）

動詞の中には，「スル－ナル」というペアを持たない（スル動詞だけ，ナル動詞だけの）ものも多い。例えば，「書く」「置く」には対応する「ナル動詞」がなく，「困る」「ある」には「スル動詞」がない。

スル動詞	ナル動詞
決める	決まる
入れる	入る
見つける	見つかる
書く	—
置く	—
—	困る
—	ある

5.2.3　他動詞・自動詞

1）「すきやきを食べる」「本を買う」の「食べる」「買う」のように，ヲ格（名詞＋を）をとる動詞を他動詞，「沖縄へ行く」「赤ちゃんが生まれた」の「行く」「生まれる」のようにヲ格をとらない動詞を自動詞と言う。

意志動詞・無意志動詞，スル動詞・ナル動詞，他動詞・自動詞という観点から言うと，「行く」は意志動詞／スル動詞／自動詞，「（～を）買う」は意志動詞／スル動詞／他動詞となる。また，「生まれる」は無意志動詞／ナル動詞／自動詞となる。

なお，次のように，動作・作用の対象でないヲ格の場合は，ヲ格をとる動

詞でも他動詞とは言わない。

道を通る　右側を歩く　坂道をのぼる　階段をおりる　空を飛ぶ
廊下を走る　橋を渡る　交差点を曲がる〔以上，経由地点・経由場所〕
部屋を出る　バスを降りる　大学を卒業する〔起点〕

2）他動詞・自動詞は次のように，ペアで存在することが多い。

他動詞	自動詞	他動詞	自動詞
(～を) あける	(～が) あく	(～を) しめる	(～が) しまる
(～を) つける	(～が) つく	(～を) 消す	(～が) 消える
(～を) こわす	(～が) こわれる	(～を) なおす	(～が) なおる
(～を) 決める	(～が) 決まる	(～を) かえる	(～が) かわる
(～を) 集める	(～が) 集まる	(～を) 並べる	(～が) 並ぶ
(～を) 倒す	(～が) 倒れる	(～を) 破る	(～が) 破れる
(～を) 入れる	(～が) 入る	(～を) 出す	(～が) 出る
(～を) 冷やす	(～が) 冷える	(～を) 起こす	(～が) 起きる
(～を) かける	(～が) かかる		

このようにペアで存在するもののみを他動詞・自動詞と呼ぶことがある。次のように，他動詞のみ，自動詞のみという動詞も多い。

他動詞	自動詞
書く	—
食べる	—
—	困る
—	いる
作る	—
—	ある
—	できる

また，一つの動詞で他動詞・自動詞の両方を兼ねているものもある。

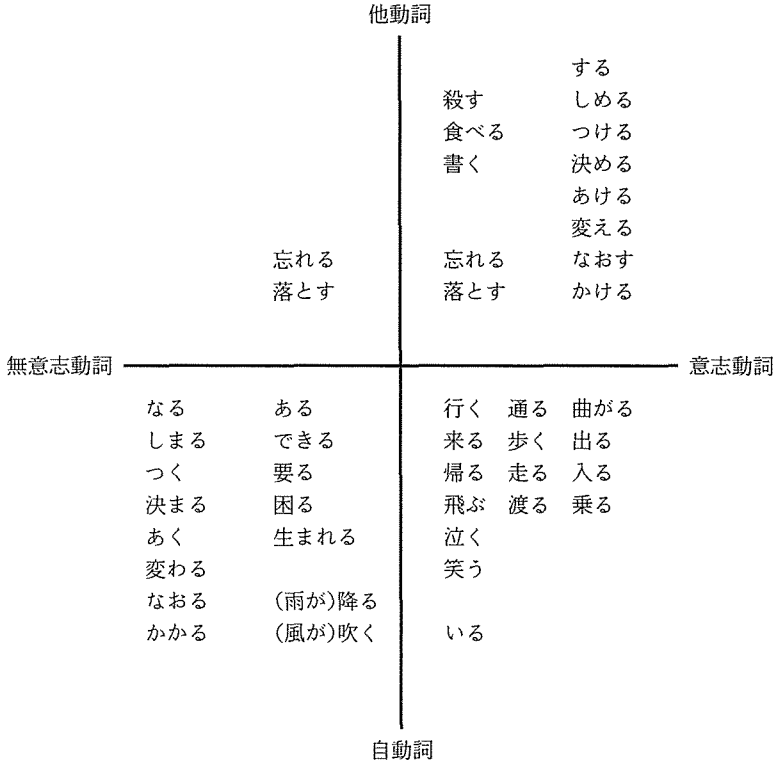
(7)　窓をひらく。／窓がひらく。

仕事を終わる。／仕事が終わる。

新しい店をオープンする。／新しい店がオープンする。

問題を具体化する。／問題が具体化する。

意志動詞・無意志動詞，スル動詞・ナル動詞と，他動詞・自動詞の関係は次のようになる。他動詞は意志動詞がほとんどだが，少数ながら「忘れる」「落とす」のような無意志動詞もある。一方，自動詞は，意志動詞と無意志動詞の両方に分かれる。次の図は小林典子・直井恵理子（1996）を参考にしてまとめたものである。



3）他動詞・自動詞という概念は，もともと英語などの印欧語の文法記述に

用いられた概念である。英語では，その動詞が目的語をとるかどうか（他動詞であるかどうか）は，受動態（受身文）を作れるかどうかと密接な関係にある。

(8) She killed him. → He was killed by her.

日本語でも，次のように他動詞のヲ格をガ格にして作られる受身文（直接受身文）では，英語と同じく他動詞・自動詞の区別が重要である。

(9) 彼女は彼を殺した。 → 彼は彼女に殺された。

しかし，次のような受身文ではどうだろうか。

(10) 夕べ子供が泣いて眠れなかった。→夕べは子供に泣かれて眠れなかった。

「泣く」はヲ格をとらないので他動詞ではないが，受身文が作れる。つまり，日本語では自動詞でも受身形を作ることができるのである。受身文を作れるかどうかについて言えば，日本語では他動詞・自動詞の区別はそれほど必要でないと言える。

しかし，外国人学習者には，transitive verb(Vt)，intransitive verb(Vi)の概念は根強く定着していて，Vt—Vi（他動詞・自動詞）と言えばすぐわかるという利点がある。

また，学習者にとって上級になっても誤用の多いのが，ペアになっている他動詞・自動詞の区別である。「あける・あく」「のばす・のびる」「見つける・見つかる」など，互いに音・形が似ているせいもあって，いつまでも混乱が続く。

日本語教育の観点から言えば，他動詞・自動詞がペアになっているものについては，その使い方・覚え方，混同を防ぐ方法などを重点的に指導するこ

とが必要である。

5.2.4　動作動詞・状態動詞

1）動詞は主に動作や変化を表すが,「ある」「いる」のように存在を表すものや,「そびえる」「すぐれる」のように，状態を表す「ている」(「そびえている」,「すぐれている」) の形で用いられるものもある。

ここでは，日本語を教える上で特に問題となる項目について考える。

動作・変化を表す動詞を**動作動詞（動き動詞，動態動詞）**，状態を表す動詞を**状態動詞（静態動詞）**と言う。「食べる，飲む，歩く，勉強する，寝る」など，動詞の多くは動作動詞である。一方，状態動詞には次のようなものがある。

ある，いる	〔存在・所有〕
できる，わかる	〔可能〕
要る，（お金が）かかる	〔必要〕
違う，異なる	〔関係概念〕

2）動作動詞・状態動詞と他動詞・自動詞，意志動詞・無意志動詞との関係はおおよそ次のようにまとめられる。

動作動詞 ｛ 他動詞／自動詞
　　意志動詞／無意志動詞

状態動詞 ｛ 自動詞
　　無意志動詞（存在を表す「いる」は意志動詞）

動作動詞には，他動詞・自動詞の両方，また意志動詞・無意志動詞の両方

が含まれる。一方，状態動詞は，自動詞と無意志動詞は含まれるが，他動詞と意志動詞は含まれない。

なお，存在を表す「いる」は意志動詞であるが，状態動詞である。

5.2.5 状態動詞・継続動詞・瞬間動詞

1）アスペクトの観点から動詞を分類する金田一春彦（1950）は，動詞分類の指標として非常に重要なものである。金田一の分類は，動詞が「ている」の形を作れるかどうか，また，「ている」の形がどのような意味を持つかという観点からの分類である。

1. 「ている」が付かない。〔状態動詞〕
   ある，いる，要る，できる　（例：ドアのそばに猫がいる。）
2. 「ている」が付いて，動作の進行を表す。〔継続動詞〕
   食べる，飲む，働く　　（例：今，ご飯を食べている。）
3. 「ている」が付いて，変化の結果状態を表す。〔瞬間動詞〕
   死ぬ，持つ，知る，こわれる，決まる
   （例：道ばたに猫が死んでいる。彼は車を2台持っている。）

また，「ている」がついて，動作進行と結果状態の両方を表す動詞も存在する。その多くは，「行く，来る，帰る，落ちる」のような移動を表す動詞である。次の(11)(12)では，a．が結果の状態を，b．が動作の進行を表している。

(11) a．道路に財布が落ちている。
　　b．飛行機が落ちている瞬間をビデオにとる。
(12) a．主人は先週から北海道に行っています。
　　b．今会社に行っている途中だから，もう少ししてから電話したほうがよい。

2）継続動詞・瞬間動詞と他動詞・自動詞その他との関係はおおよそ次のようである。

「笑う」「走る」のように瞬間動詞ではない自動詞もあるが，他動詞は継続動詞に，また自動詞は瞬間動詞に属することが多い。意志動詞・無意志動詞は，継続動詞と瞬間動詞のどちらの場合もあり得る。

継続動詞
- 他動詞（開ける―雨戸を開けている。）
- 意志動詞（読む―本を読んでいる。）
- 無意志動詞（降る―雨が降っている。
  吹く―風が吹いている。）

瞬間動詞
- 自動詞（閉まる―窓が閉まっている。）
- 意志動詞（知る―彼はいろいろなことを知っている。）
- 無意志動詞（割れる―コップが割れている。）

【問題】 次の下線の動詞が状態動詞・継続動詞・瞬間動詞のどれに属するか考えてください。

1. 電気がついた。
2. 毎朝5時に目が覚める。
3. 我が輩は猫である。
4. 手紙を書く。
5. 人が死ぬ。

【答】

1. 瞬間動詞
2. 瞬間動詞
3. 状態動詞
4. 継続動詞
5. 瞬間動詞

5.3 形容詞

チェック

次の語を知っていますか。チェックして下さい。

□イ形容詞　□ナ形容詞　□形容動詞
□属性形容詞　□感覚・感情形容詞
□叙述用法　□修飾用法

1）形容詞は物事の性質や状態を表す。それ自体で述語の働きをする場合（**叙述用法**）と，連体修飾語の働きをする場合（**修飾用法**）とがある。

(1) この本はおもしろい。　（叙述用法）
(2) おもしろい本を読んでいる。（修飾用法）

「多い」「遠い」が単独で名詞を修飾する場合は，次のａ.のように「多くの」「遠くの」となる。（ｂ.のように文として次の名詞にかかっていく場合は，その限りではない。）

(3) ａ．多くの人と会った。／＊多い人と会った。
　ｂ．最近多いケースは，就職せずにアルバイトで生計を立てるというものだ。
(4) ａ．遠くの山をながめる。／＊遠い山をながめる。
　ｂ．家から遠い場所に出かける。

形容詞は動詞と同じく，補語をとることができる。《→形容詞文》

2）形容詞は大きく，物事の性質を表す**属性形容詞**と，話し手の感覚・感情を表す**感覚・感情形容詞**に分けられる。

1. 属性形容詞

(5) この木は高い。

(6) このビルの構造は複雑だ。

2. 感覚・感情形容詞

(7) 私は友達がいなくてさびしい。

(8) きょうは一日不愉快だった。

(9) 歯が痛い。

属性形容詞は主語の人称に関する制約がないが，感覚・感情形容詞は通常，話し手自身の感覚や感情を表す。主語が第三者の場合は，「らしい」「そうだ」「と言っている」などをつけて他者の感覚・感情を間接的に表すことができる。

(7)' a.？彼女は友達がいなくてさびしい。

b. 彼女は友達がいなくてさびしいと言っている。

(8)' a.？林さんはきょうは一日不愉快だった。

b. 林さんはきょうは一日不愉快だったそうだ。

(9)' a.？彼は歯が痛い。

b. 彼は歯が痛いらしい。

3）形容詞には1）で述べたように叙述用法と修飾用法があるが，両者に何か意味的な差はあるだろうか。

(10) a．きょうは暑い。

b．きょうは暑い日だ。

(11) a．正夫は元気だ。

b．正夫は元気な子どもだ。

我々は本当に暑いことを体感しているときは，(10)a．のように，「きょうは暑い。」とか「暑い。暑い。」と言う。(10)b．のように，修飾用法を使って「暑い日だ。」と言う場合は，より客観的な判断をともなっている。一般に，叙述用法のほうが，話し手の感情や感覚の直接的な表現である。(11)のa．とb．についても同じことが言える。

4）形容詞が表す性質というものは，絶対的なものではない。日本人には「富士山は高い」かもしれないが，高い山を見慣れたネパールの学習者にとっては「富士山は低い」かもしれない。また，低いものどうしを比べて，「どちらも低いが，こちらのほうが高い。」とも言う。

「大きい」の反対は「小さい」，「長い」の反対は「短い」というように，多くの形容詞は反対語を持つ。では，「おいしい」「おもしろい」「元気だ」の反対語は何だろうか。

「おいしい」の反対語は「まずい」，「おもしろい」の反対語は「つまらない」という人が多いかもしれないが，では，「まずい」と「おいしくない」，「つまらない」と「おもしろくない」は全く同じだろうか。「元気だ」の反対は「病気だ」だろうか。

形容詞の中には適切な反対語がなく，否定形で反対の意味を表すものがある。「おいしくない」ことを「まずい」と言うのは強すぎるし，「好きだ」の反対語は「きらいだ」よりも「好きではない」がふさわしい。「親切だ」の反対語を否定を表す「不」を用いて，「不親切だ」とするのも，その表れであろう。

イ形容詞・ナ形容詞（形容動詞）

1）日本語の形容詞は形態的に2種類に分けられる。一つは「寒い」「大きい」のように「い」で終わるもの，もう一つは「親切だ」「ハンサムだ」のように「だ」で終わるものである。前者を**イ形容詞**，後者を**ナ形容詞**と呼ぶ。

ナ形容詞は国語学では**形容動詞**と呼ばれているが，文法的な振る舞いが動詞より名詞に似ているため，Nominal Adjective, Adjectival Noun，あるいは**形容名詞**のように呼ばれることもある。

イ形容詞とナ形容詞の区別は，外国人学習者に難しい点の一つである。

【問題】 次の語をイ形容詞とナ形容詞に分けなさい。そして判断の基準を説明しなさい。

〔ローマ字表記の場合〕

kirei　kirai　joozu　ii　oishii　yasui　warui

yukai　genki　yuumei　ooi　omoshiroi　atarashii

〔漢字・仮名表記の場合〕

きれい　きらい　じょうず　いい　おいしい　安い　悪い

愉快　元気　有名　多い　おもしろい　新しい

【答】イ形容詞　いい (ii)　おいしい (oishii)　安い (yasui)

悪い (warui)　多い (ooi)　おもしろい (omoshiroi)

新しい (atarashii)

ナ形容詞　きれい (kirei)　きらい (kirai)　じょうず (joozu)

愉快 (yukai)　元気 (genki)　有名 (yuumei)

i で終わるナ形容詞とイ形容詞との区別は次のように行う。

ローマ字表記の場合，末尾が -ii であれば形容詞であるが，ナ形容詞は -ii とはならない。漢字・仮名表記の場合は，末尾が「しい」であればイ形容詞と言えるが，「い」だけではイ形容詞かナ形容詞かは決まらない。

イ形容詞とナ形容詞の違いは語へのかかり方にも現れる。名詞にかかる場合（連体修飾）と動詞にかかる場合（連用修飾）を取り上げてみよう。

連体修飾　からい食べ物が好きだ。
　　きらいな食べ物はない。
連用修飾　からくなった。
　　きらいになった。

また，次のように従属節の接続語（「ので」「たら」「とき」など），ムードの助動詞などに続く場合も，両者は異なりを見せる。（a．はイ形容詞，b．はナ形容詞）《→従属節》

1．従属節の場合

(12) a．いそがしいので，会にでられない。
　　b．ひまなので，いつでも誘ってください。
(13) a．いそがしかったら，来なくてもいいです。
　　b．ひまだったら，ぜひ来てください。
(14) a．いそがしくて，困っている。
　　b．ひまで，困っている。

2．ムードの助動詞との接続

(15) a．いそがしいようだ。
　　b．ひまなようだ。
(16) a．いそがしそうだ。
　　b．ひまそうだ。
(17) a．いそがしいのだ。
　　b．ひまなのだ。

2）外国人学習者は形容詞（特にイ形容詞）が活用することがなかなか理解できない。ナ形容詞は「名詞＋だ」と同じ活用であるが，「名詞＋だ」では「だ」のみが活用するのと異なり，ナ形容詞では「親切だ」「きれいだ」が一語として活用する。

英語の形容詞文は「be＋形容詞」の形をとるが，次のように，be 動詞は変化するが，形容詞は変化しない。《→形容詞文，形容詞の活用》

This ball is big.	このボールは大きい。
This ball is not big.	このボールは大きくない。
The ball was big.	このボールは大きかった。
The ball was not big.	このボールは大きくなかった。
She is kind.	彼女は親切だ。
She is not kind.	彼女は親切ではない。
She was kind.	彼女は親切だった。
She was not kind.	彼女は親切ではなかった。

一方，比較表現において，英語では形容詞が変化するが，日本語の形容詞は変化しない。

This ball is bigger than that one.	このボールはあのボールより大きい。
This ball is the biggest among three.	このボールは3つの中で一番大きい。
She is kinder than he.	彼女は彼より親切だ。
She is the kindest of three.	彼女は3人の中で一番親切だ。

これらの日本語と英語の形容詞の違いは，特に欧米系の学習者には留意し

ておきたい点である。

3）形容詞と名詞，そして，イ形容詞，ナ形容詞，「名詞」は異なるものであるが，連続的な部分も持つ。次の語は名詞だろうか形容詞だろうか。

【問題】 次の語は名詞，イ形容詞，ナ形容詞のいずれかを考えてください。

1. 健康
2. 病気
3. 元気
4. 味
5. きれい

【答】

1. 名詞，ナ形容詞
2. 名詞
3. 名詞，ナ形容詞
4. 名詞
5. ナ形容詞

その語が名詞としての資格を備えているか否かは，その語が単独で主語になりうるかによる。「健康」は，「健康な体に健全な心が宿る。」のようにナ形容詞である一方で，「健康が一番ですね。」のように主語になることができる。「元気」は「健康」と同じで，「もう続ける元気がない。」「元気な子供」のように，名詞とナ形容詞の働きを持つ。

「病気」は，「変な病気がはやっている。」のように主語になることはできるが，「病気な人」とは言えないので，名詞である。

「味」は，「この料理は味がいい。」として使われることからもわかるように，名詞である。コマーシャルで「味なことやる…」とナ形容詞的に使われ，

それが新鮮に聞こえ，一時期流行ったことがある。「きれい」は「味」とちょうど逆でナ形容詞であるのに，「きれいが一番。」のように名詞として使われ，それがまたコマーシャルやコピーでしゃれた言い方として使われている。

次のAは，イ形容詞であるのに連体修飾形で「―い」「―な」両方を持つもの，Bは「名詞＋の」であったものがイ形容詞として使われているものである。

A	大きい声	小さい赤ちゃん	暖かいストーブ
	大きな声	小さな赤ちゃん	暖かな雰囲気
B	茶色の鞄	黄色のハンカチ	ピンクのリボン
	茶色い鞄	黄色いハンカチ	＊ピンクいリボン

「ピンクい」は若い女性が使っているのを時々聞くが，限られた使い方である。

複数の形容詞を用いて，あるもの・ことを述べるとき，それらの形容詞の順序に一定の決まりがあるのだろうか。

【問題】 次の六つの中でどれが一番自然に感じるか考えてください。

1. このりんごはおいしくて，大きくて，赤い。
2. このりんごは大きくて，おいしくて，赤い。
3. このりんごは大きくて，赤くて，おいしい。
4. このりんごは赤くて，大きくて，おいしい。
5. このりんごは赤くて，おいしくて，大きい。
6. このりんごはおいしくて，赤くて，大きい。

【答】 3，4

「赤い」は色,「大きい」は形やサイズを表す。また,「おいしい」はりんごに対する話し手の評価を表す。評価を表す形容詞「いい」「おいしい」「おもしろい」などが一番最後に来ると文が安定する。皆さんの中にも「おいしい」が最後に来ている3,4が自然と考えられた方が多いのではないだろうか。

5.4 名詞

(名詞はそれ自体では自立語として機能しないが,「名詞+だ」の形で述語としての機能を果たすので, 動詞, 形容詞に続けて5.4とした。)

チェック

次の語を知っていますか。チェックして下さい。

□体言　□代名詞
□普通名詞　□固有名詞
□数詞　□助数詞　□数量詞
□形式名詞

名詞は,「森さん」「車」「経済」などのように, 人やものや事柄の名を表したり, 個体を指し示したりする語である。文法的には, 活用がなく, 単独で主語になりうるという特徴を持つ。

名詞は,「に」「を」などの助詞を伴って連用修飾語(補語:「森さんに」「車を」など)になったり,「の」を伴って連体修飾語(「森さんの靴」「車のエンジン」など)になったりする。また,「だ」などを伴って名詞述語(「彼は森さんだ」「きれいな車だった」など)にもなる。

1) 名詞の中には普通名詞, 固有名詞, 数量詞, 形式名詞などの種類がある。

代名詞（「彼，彼女，これ，そこ」など），数詞を含めて**体言**と総称される。

1. 固有名詞

「森さん」「名古屋」などのように人名，地名などを表す名詞。

2. 普通名詞

固有名詞に対して，「人」「木」「部屋」などのように，ものの類を表す名詞。

3. 数量詞

「二人」「三本」「一台」のように，数詞（1，2，3，..100，1000など）に助数詞（「人，本，杯，台，札，回，枚」など）が付いたもの。

4. 形式名詞

「こと」「もの」「ところ」「つもり」「はず」「わけ」「ため」などのように，名詞的な特徴を持ってはいるが，実質的な意味がほとんどなく，また，独立語として現れないでもっぱら連体修飾要素を付けて用いられる名詞。主に次のように用いられる。

〔名詞相当の句を作る〕

(1) 彼が帰ってくる<u>こと</u>を今日知った。

〔「～だ」の形でムード（モダリティ）を表す〕

(2) 来年結婚する<u>つもり</u>だ。

(3) 子供のころは，いたずらばかりして，よく叱られた<u>もの</u>だ。

(4) この中には入らない<u>こと</u>。

(5) ああ，それで彼女は怒って帰った<u>わけ</u>だ。

〔従属節の接続語になる〕《→従属節》

(6) 大雪が降ったために，新幹線は立ち往生した。

(7) 彼はすべて知っているくせに，何も言わない。

(8) お金持ちと結婚したものの，幸せにはなれなかった。

(9) 彼に頼んだところで，引き受けてはもらえまい。

2）「今週」「毎日」「午後」「来年」のような時間を表す語，また，「一本」「一台」のような数量詞は，名詞的にも副詞的にも使える。

(10) a．今週の予定は，ここに書いてあります。（名詞的）

b．今週そちらへ伺います。（副詞的）

(11) a．5キロのジョギングは毎朝の日課です。（名詞的）

b．毎朝5時には起きている。（副詞的）

(12) a．3人の留学生が事務室で話している。（名詞的）

b．留学生が3人事務室で話している。（副詞的）

6. ヴォイス（態）と授受表現（やりもらい）

チェック

次の語を知っていますか。チェックして下さい。

□受身表現（受動態）　□使役表現（使役態）
□使役受身　□使役やりもらい
□可能表現（可能態）　□自発表現（自発態）

「猫がネズミを追いかける」を受身文にすると,「ネズミが猫に追いかけられる」のように,「ネズミを」が「ネズミが」に変わる。同様に,「子供がお使いに行く」を使役文にすると,「子供を（子供に）お使いに行かせる」のように,「子供が」が「子供を／子供に」に変わる。受身の「(ら）れる」,使役の「(さ）せる」のように，名詞に付く格助詞を規則的に変える形式を**ヴォイス**，あるいは**態**と言う。(「態」という用語は，後述するアスペクトの意で用いられることもあるので注意が必要。）可能表現も,「スペイン語を話す→スペイン語が話せる」のように格助詞の変更を伴うことがあるので，ヴォイスの一種とされる。

6.1 受身表現（受動態）

1）動詞の受身形は，動詞の語幹に -areru（1グループ)／-rareru（2グループ）をつけて作られる。3グループの「する」「来る」の受身形は「される」「来られる」になる。

	1グループ		2グループ		3グループ	
	読む	切る	着る	寝る	する	来る
語幹	yom-	kir-	ki-	ne-		
辞書形	よむ yom-u	きる kir-u	きる ki-ru	ねる ne-ru	する suru	くる kuru
受身形	よまれる yom-areru	きられる kir-areru	きられる ki-rareru	ねられる ne-rareru	される sareru	こられる korareu

2）日本語の受身（受動態）は大きく**直接受身**と**間接受身**に分かれる。

直接受身

他動詞文「XがYを～する」を「YがXに～される」という形に変えたものを**直接受身**という。直接受身では，主格が(1)(2)のように有生のもの（人や動物）の場合と，(3)(4)のように無生のもの・ことの場合がある。

(1) ネズミが猫に追いかけられる。

(2) 彼女は多くの人に愛されていた。

(3) このビルは安藤忠雄によって設計された。

(4) ワインはぶどうから作られる。

直接受身では，動作の主体は基本的に「に」で表される。ただし，「書く，作る，建てる，発明する，設計する」など，何かを作成・生産することを表す動詞では，多くの場合，「によって」が用いられる（例(3)）。また，原料などは「から」で表される（例(4)）。

間接受身

日本語には，次のように他動詞文から作られたとは考えにくい受身がある。英語などにはない，このような受身を**間接受身**という。

(5) 私は子供にカメラをこわされた。(←子供が私のカメラをこわした。)

(6) 私は電車の中で足を踏まれた。(←誰かが私の足を踏んだ。)

(7) 私は一晩中子供に泣かれて，困った。(←子供が泣いた。)

これらの文は，「私が“子供が私のカメラをこわす／誰かが足を踏む／子供が泣く”という事柄を被った」という意味の文である。これらの文は，「X（迷惑の受け手）が／はY（動作の主体）に～される」，または「X（迷惑の受け手）が／はY（動作の主体）にZ(Xの所有物など）を～される」という形をとり，多くの場合，ある事態・事件で迷惑を被ったという含みを持つため，「迷惑の受身」「被害の受身」とも呼ばれる。直接受身は他動詞から作られるが，間接受身は他動詞・自動詞の両方から作れる。迷惑の受け手は話し手であることが多い。

2）一般に「受益・恩恵」を表すには，受身文の代わりに授受表現「てもらう」を用いる。しかし，「招待する」や「ほめる」のように，動詞自体に「利益や恩恵を与える」という意味が強い場合は，受身文で表されることがある。

(8) 友人に作文を直してもらった。〔受益〕／太郎に作文を直された。〔被害〕

(9) 林さんに食事に招待された。／先生に作文をほめられた。

3）著者が日本語教師になったばかりのころ，間接受身である(10)を(10)'のように英訳して学習者に笑われた経験がある。日本人が直接受身と間接受身を区別してとらえていない一つの例と言えよう。

(10) 私は弟にケーキを食べられた。

(10)' ＊I was eaten cakes by my younger brother.

逆に，外国人学習者には間接受身が理解しにくい。特に，(11)(12)のように自動詞から受身が作れるということがわかりにくいようである。

(11)　きのうは，しつこい訪問販売員に来られて困った。

(12)　雨に降られて，ずぶ濡れになってしまった。

また，次の問題にあるように，外国人学習者は，迷惑の受け手を主格や主題として文頭に出すということがなかなかできない。

【問題】 次の学習者の作った文は，どこか日本語の表現らしくないところがある。どうすれば，日本語らしい表現になるか考えてください。

1. 私のカメラは弟にこわされた。

→

2. 私の靴が女の人の靴に踏まれました。

→

【答】

1. 私は弟にカメラをこわされた。

2. 私は女の人に靴を踏まれました。

4）他動詞・自動詞の対立を持つ動詞は，次の(13)(14)のように「自動詞＋ている」の形で状態を表すことができるが，「書く」「置く」などのように対応する自動詞を持たない動詞は，(15)(16)のように「受身形＋ている」の形で状態を表すことがある。「受身形＋ている」は「他動詞＋てある」と同じように用いられることが多い。

(13)　窓が開いている。

(14)　コップが割れている。

(15) この色紙に名前が書かれている（書いてある）。

(16) 棚の上に優勝カップが置かれている（置いてある）。

6.2 使役表現（使役態）

1）「親が子供に仕事を手伝わせる。」のように，他者に何かをさせることを表す言い方を**使役表現**という。動詞の使役形は，動詞の語幹に -aseru（1グループ）／-saseru（2グループ）をつけて作られる。「する」「来る」の可能形は「させる」「こさせる」になる。

	1グループ		2グループ		3グループ	
	読む	切る	着る	寝る	する	来る
語幹	yom-	kir-	ki-	ne-		
辞書形	よむ yom-u	きる kir-u	きる ki-ru	ねる ne-ru	する suru	くる kuru
使役形	よませる yom-aseru	きらせる kir-aseru	きさせる ki-saseru	ねさせる ne-saseru	させる saseru	こさせる kosaseru

2）使役表現には，強制的な意味の使役（強制使役，例(1)）と，許容的な意味の使役（許容使役，例(2)）がある。

(1) （むりやり）子供に部屋を掃除させる。

(2) 子供にテレビゲームをさせておく。

「子供（動作の主体）が仕事（動作の対象）を手伝う」のような他動詞文から使役文を作る場合は，動作の主体は「に」，動作の対象は「を」で表される。

(3) 親が子供に仕事を手伝わせる。（←子供が仕事を手伝う）

「子供（動作の主体）が買い物に行く」のような自動詞から使役文を作る場合は，原則として，強制使役では「を」（例(4)），許容使役では「に」（例(5)）で動作の主体を表す。「困る」「驚く」「泣く」など非意志的な動作を表す動詞から使役文を作る場合は，動作の主体は必ず「を」（例(6)）で表される。

(4)　親が子供を買い物に行かせる。（強制）
(5)　親が子供に買い物に行かせる。（許容）

(6)　子供が親を困らせる。／＊子供が親に困らせる。

「人に何かをさせる」ことを述べる場合でも，人に何かを依頼して何かをさせる場合や，相手の主体性を尊重して表現する場合は，使役表現でなく，「てもらう／ていただく」の形を用いる。

(7)　山田さんにスーパーへ買い物に行ってもらった。
(8)　先生に調査を手伝っていただいた。

3）使役表現の難しいところは，誰がその行為をさせたのか，そして，誰が行為をおこなったのかという関係がつかみにくい点である。日本語では主語・主題が省略される場合が多いので，よけいにわかりにくくなる。

また，外国人学習者は，次のように，無生のもの・ことを使役文や他動詞文の主語にしたスル表現の文をつくりがちである。

(9)　それは私を驚かせました。
(10)　それは私をがっかりさせました。

(9)(10)のような文は，学習者が自分の母語の表現をそのまま直訳したものであろう。しかし，日本語では，このような内容は，有生のもの（人や動物）

を主語にして,「〜のためにこうなった」というナル表現を用いて表すのが普通である。

(11) それを見て（聞いて), 私は驚きました。
(12) それを見て（聞いて), 私はがっかりしました。

6.2.1 使役やりもらい

1）使役の表現に授受表現「てあげる, てもらう, てくれる」などが結び付いたものを, **使役やりもらい**表現という。

(13) 親がピアノを習わせてくれた。
(14) 写真をとらせていただけませんか。
(15) あした休ませてもらいたいんだが。

使役には強制使役と許容使役があるが, 使役やりもらいは許容の意味になる。(13)〜(15)のように「(さ）せてもらえますか／（さ）せていただけませんか」「(さ）せてもらいたい／（さ）せていただきたい」, また,「(さ）せてくれますか／（さ）せてくださいませんか」のように, 相手に依頼する, 許可を求める用法として用いられることが多い。

2）使役表現では, 行為者が誰で被行為者が誰かがつかみにくが, 使役やりもらいでは, 使役関係の上に授受関係が加わるため, 外国人学習者には一層人間関係がつかみにくくなる。次の問題のａ., ｂ. は誰がその行為をするのだろうか。

【問題】 次の文で,「写真をとる」「休む」のは話し手・聞き手のどちらですか。

1. a. 写真をとらせていただけませんか。

   b. 写真をとっていただけませんか。

2. a. あした休ませてもらいたんだが。

   b. あした休んでもらいたんだが。

【答】 1. a. 話し手 b. 聞き手

2. a. 話し手 b. 聞き手

6.2.2 使役受身

使役文「～（さ）せる」をもとにして受身文を作ると，**使役受身表現**「～（さ）せられる」ができる。使役受身は「強制的に動作をさせられる」という意味になる。

(16) 余分な税金を払わせられた。

(17) サラリーマンは夜遅くまで働かせられる。

(18) 食べたくないものを食べさせられる。

「～（さ）せられる」は短縮して「～される」になることが多い。

(19) 余分な税金を払わされた。

(20) サラリーマンは夜遅くまで働かされる。

(21) 食べたくないものを食べさされる。

ただし,「～する」の形の動詞（3グループの動詞「結婚する，勉強する，発表する」など）と，1グループ（子音語幹，五段活用）の動詞で「―す」で終わる動詞（「話す，消す，押す」など）は,「～（さ）される」にはなら

ず,「～（さ）せられる」のまま用いられる。

(22) 親の気に入った相手と結婚させられる（？結婚させられる）。

(23) 自分のことを話させられる（？話させられる）のは苦手だ。

6.3 可能表現（可能態）

1）受身表現，使役表現と同様，可能表現でも，次のように格助詞の交替が起きる。そのため，可能表現もヴォイスの一つとして分類される。

(1) 太郎が　この問題を　解く。

→ 太郎に　この問題が　解ける（とは意外だ）。

(2) 太郎が　スペイン語を　話す。

→ 太郎が　スペイン語が　話せる（とは意外だ）。

ただし，受身表現や使役表現と異なり，可能表現は格助詞の交替が必ず起こるというわけではないので，典型的なヴォイスとはいえない。

(3) 太郎が　スペイン語を　話す。

→ 太郎が　スペイン語を　話せる（とは意外だ）。

2）動詞の可能形は，1グループの動詞は語幹に -eru をつける（**可能動詞**）。2グループの動詞は語幹に -rareru をつける。「する」「来る」の可能形は「できる」「こられる」になる。

2グループの動詞の可能形は受身形と同じになるが，話し言葉では，受身と可能の形を区別するために，2グループの動詞の可能形も「語幹＋reru」の形を使うようになりつつある（**ラ抜き言葉**）。「来る」も「これる」が使われるようになりつつある。

	1グループ		2グループ		3グループ	
	読む	切る	着る	寝る	する	来る
語幹	yom-	kir-	ki-	ne-		
辞書形	よむ yom-u	きる kir-u	きる ki-ru	ねる ne-ru	する suru	くる kuru
可能形	よめる yom-eru	きれる kir-eru	きられる ki-rareru きれる(ラ抜き) ki-reru	ねられる ne-rareru ねれる(ラ抜き) ne-reru	できる dekiru	こられる korareru これる(ラ抜き) koreru
受身形	よまれる yom-areru	きられる kir-areru	きられる ki-rareru	ねられる ne-rareru	させる sareru	こられる korareru

このほか，可能形については，1グループの動詞の可能形に受身形と同じ形が用いられたり（「泣くに泣かれぬ」，「どこにも行かれない」），1グループの可能形（可能動詞）にさらに「れ」をつけた二重可能形（「書けれる」，「読めれる」）が見られたりする。

3）可能表現に用いられる動詞は，すべて意志動詞である。無生のもの・ことを主語にする自動詞文は可能文にできない。（この場合，可能形を使わなくても可能の意味が生ずる。）《→意志動詞》

(4) a．彼は体が大きすぎて，この部屋に入れない。
　　b．この机は大きすぎて，この部屋に入らない（＊入れない）。
(5) a．おなかがすいて，これ以上動けない。
　　b．この机は重すぎて，4人で押しても動かない（＊動けない）。

学習者は，主語が無生のもの・ことである自動詞文（特にその否定文）で可能形を使いがちなので注意が必要である。

(6) ＊このコップは落としても割られない。（→割れない）

(7)＊この荷物は重くて，動けない。(→動かない)

「わかる」は「理解できる」という可能の意味を含むが，学習者は次のように「わかる」の可能形を作ろうとしがちである。

(8)＊勉強したら，すぐわかれます。(←わかります)
(9)＊日本語が少しわかれるようになりました。(←わかる)

4）可能表現は，(10)のように主体の能力にもとづく可能（**能力可能**）を表す場合と，(11)(12)のように，外的状況にもとづく可能（**状況可能**）を表す場合がある。

(10)　田中さんは5か国語が話せる。〔能力可能〕
(11)　図書館で本が借りられる。　〔状況可能〕
(12)　この水は（汚くて）飲めない。〔状況可能〕

5）能力可能の文では，主体は通常「が／は」で表されるが，「に（には)」も使われる。対比的な文や否定文では「に（には)」が使われやすい。

(13)　私にはこの問題は解けません。
(14)　彼にやれて，あなたにやれないはずがない。

可能文では，動作の対象が「が」をとる場合と「を」をとる場合がある。両者の意味的な違いは微妙であるが，「太郎が助けられる」のようにガ格が主体を表すとも対象を表すともとれる場合や，名詞節，条件節などの従属節では「を」が使われやすくなるようである。

(15)　a．学生が指導できる。(「学生が誰かを指導できる。」ともとれる。)
　　b．学生を指導できる。(「学生」は対象)

(16) a．米を現金で買えるようになったのは，そう遠い昔ではない。

b．あの人が小説を書けるのなら私だってできるはずだ。

6）可能を表す形には，可能形のほかに「～ことができる」がある。両者はほとんどの場合入れ替えが可能であるが，可能形はより話し言葉的であり，「食べる，飲む，話す，買う」などの日常頻繁に使われる動詞に現れやすい。一方，「～ことができる」は書き言葉的であり，説明文などに現れやすい。可能形は基本的には対象を「が」で表すが，「～ことができる」はそのような格助詞の変化は起こらない。

(17) 外国語が5か国語話せる。

(18) ＊外国語が5か国語話すことができる。

6.4 自発表現（自発態）

次のような表現は，形は受身形と同じだが，「自然にある事象が出現・発生する」という意味の表現である。このような表現を**自発表現（自発態）**と呼ぶ。（「自発」は「自（おの）ずから発する」の意。）

(1) 世の中のことがわずらわしく思われるときがある。

(2) 今日は昨日よりも寒いように感じられる。

(3) ときどき故郷のことがなつかしく思い出される。

自発表現は，「思われる，感じられる，思い出される，考えられる」のような，知覚・思考動詞の「（ら）れる」の形のみをさす場合もあるが，広義には，「見える」「聞こえる」のような知覚動詞，および「切れる」「売れる」「とれる」のような可能形と形が同じ自動詞も自発表現に含まれることがあ

る。《→可能表現，受身表現》

(4) 私の部屋から海が見える。

(5) 隣の部屋から変な音が聞こえる。

(6) 糸が切れた。

(7) この地方では米が年に2回とれる。

(8) この本はよく売れている。

可能表現の「見られる」「聞ける」が「主体の意思的な働きかけにより，目に入る（耳に入る）」ことを表すのに対し，自発表現の「見える」「聞こえる」は「主体の意志とは無関係に，自然に目に入る（耳に入る）」ことを表す。次の例でも，(10)より(9)の方が主体の意志が強く感じられる。

(9) ここに上ると，富士山が見られるんですよ。

(10) ここに上ると，富士山が見えるんですよ。

6.5 授受表現（やりもらい）

もののやりもらい（授受）を表す「やる／あげる，くれる，もらう」と，動作のやりもらいを表す「てやる／てあげる，てくれる，てもらう」を，**授受表現（やりもらい表現）**と呼ぶ。

6.5.1 もののやりもらい

1）もののやりもらい（授受）を表す動詞に「あげる／やる」「くれる」「もらう」がある。「あげる／やる」「くれる」は与え手を主語とし，「もらう」は受け手を主語とする。

(1) 森さんが　李さんに　お菓子を　あげた。
〈与え手〉〈受け手〉
太郎が　子供に　小遣いを　やった。
〈与え手〉〈受け手〉
(2) 張さんが　私に　お菓子を　くれた。
〈与え手〉〈受け手〉
(3) 李さんが　森さんに（から）　お菓子を　もらった。
〈受け手〉　〈与え手〉

2）「あげる／やる」は，与え手を主語とし，かつ与え手の立場にたってものの移動を述べる表現である。また，「もらう」は，受け手を主語とし，かつ受け手の立場にたってものの移動を述べる表現である。いずれの場合も，主語で表される側の立場にたった表現であるため，主語以外のところに話し手が来ることはない。

(4) a．私は李さんに本をあげた。
b．＊李さんは私に本をあげた。
(5) a．私は李さんに（から）本をもらった。
b．＊李さんは私に（から）本をもらった。

「くれる」は，与え手を主語としつつも，受け手の立場にたってものの移動を述べる表現である。そのため，「くれる」の場合は，受け手（ニ格）が話し手，または話し手の側に属する人物でなければならない。

(6) a．李さんは私に本をくれた。／李さんは（私の）弟に本をくれた。
b．＊私は李さんに本をくれた。

また，「くれる」の場合，(7)のように，ニ格が三人称の場合も，話し手の側

の人物として解釈される。(8)のように，受け手が明示されない場合も，受け手は「私／私達」と解釈される。

(7)　李さんは花子に本をくれた。(「花子」は話し手の身内)

(8)　きのう田中さんが写真をくれた。

英語などには，「あげる／やる」と「くれる」の区別がなく，与え手が主語であれば，受け手が自分であるか否かに関係なく，give（与える）が用いられる。そのため，「くれる」を使うべきところで「あげる」を使う誤用がしばしば見られる。

(9)＊アニルさんは私にテレビをあげました。(→くれました)

3）「あげる」「もらう」「くれる」には，敬語形「さしあげる」(「あげる」の謙譲語)，「いただく」(「もらう」の謙譲語)，「くださる」(「くれる」の尊敬語）がある。

(10)　私は先生にお茶をさしあげた。

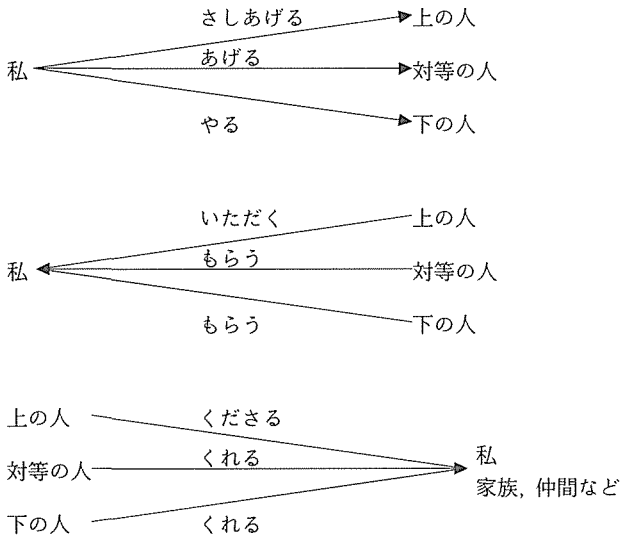
(11)　私は森先生に（から）テープをいただく。

(12)　社長の奥さまが私にお菓子をくださる。

「あげる」はもともと「やる」の敬語形であったが，使用範囲が広がり，現在では，自分の家族に対しても「子供にこづかいをあげる」のような言い方をするようになっている。「やる」を用いるのは，人間以外のものに与える場合（例「犬にえさをやる」)，受け手をさげすんで言う場合，あるいは身内のことをへりくだって言う場合（例「子供に小遣いをやる」）ぐらいである。

「あげる／さしあげる」「もらう／いただく」「くれる／くださる」の使い分けは，敬語の使い方と同じで，地位や年齢，親疎関係，会話場面などに影響される。地位や年齢が上の人に対して，また，知らない人に対しては，「さしあげる」「いただく」「くださる」が用いられる。

次の図は，話し手の「私」が与え手・受け手になる場合をもとに，「やる／あげる／さしあげる」「もらう／いただく」「くれる／くださる」の使い分けを図式化したものである。（矢印はものの移動の方向を表す。また，地位や年齢が上の場合，および親密度の度合いが低い場合を「上の人」とし，地位や年齢が下，あるいは親密さの度合いが高い場合を「下の人」とする。その中間を「対等の人」とする。）



上の図式は，次に述べる「動作のやりもらい」の場合にもあてはまる。

6.5.2　動作のやりもらい

「あげる」「もらう」「くれる」が補助動詞として用いられた場合（「てあげ

る」「てもらう」「てくれる」), 動作や受益・恩恵のやりとりを表す表現になる。

(13) 森さんはリーさんに日本語を教えてあげた。

(14) リーさんは森さんに（から）日本語を教えてもらった。

(15) 張さんが私に中国語を教えてくれた。

「てあげる／てもらう／てくれる」の敬語形が「てさしあげる／ていただく／てくださる」になるのは, もののやりとりの場合と同じである。

「あげる」「くれる」と同様に, 学習者は,「てあげる／てさしあげる」と「てくれる／てくださる」を混同することが多い。

(16)＊会社の課長さんは私達に少しずつ教えてあげました。(→くださいました)

「てやる／てあげる／てさしあげる」

1）受益・恩恵の与え手が主語であり, かつ与え手の立場にたって述べるときに用いる。上の人に対しては「てさしあげる」, 下の人に対しては「てやる」を使う。近頃は「てあげる」の使用範囲が広がり, 下の人に対しても「てあげる」が使われることが多い。

場合によっては,「てあげる／てさしあげる」は押しつけがましく聞こえることがあるので, 注意が必要である。

(17) 駅まで送ってさしあげましょう。→駅までお送りしましょう。

(18) お金を貸してあげます。→お金をお貸しします。

2）「てやる／てあげる／てさしあげる」をつけても, 動詞がとる補語は基本的にかわらない。ただし, (21)のように, 単独ではニ格をとりにくい動詞が,

「てやる／てあげる／てさしあげる」をつけることによって，ニ格をとるようになることがある。

(19) a．森さんがリーさんに日本語を教えた。
　　b．森さんがリーさんに日本語を教えてあげた。
(20) a．森さんがリーさんを役所へ連れて行った。
　　b．森さんはリーさんを役所へ連れて行ってあげた。
(21) a．？森さんがリーさんにふとんをしいた。
　　b．森さんがリーさんにふとんをしいてあげた。

学習者は，ニ格が使えないところでニ格を使う間違いをしばしばする。

(22) ＊私はリーさんにいっしょに行ってあげました。（→と）

3）「本を買ってあげます。」を「本を買って，そして本をあげる。」というふうに誤解する学習者がいるので，注意が必要である。この場合，「あげる」が「恩恵を与える」という抽象的な意味の補助動詞であることを理解させる必要がある。

「てくれる／てくださる」

1）話し手以外の第三者（聞き手を含む）が，話し手や話し手の側に属する人物に利益・恩恵を与えるときに用いる。

(23) 事務の人が私達に説明してくれた。
(24) 先生が私にカタカナ語を教えてくださいました。

「てくれる／くださる」を用いた文では，利益・恩恵の受け手（受益者）が話し手の場合は，受益者は省略されることが多い。また，「てくれるか／

てくださるか」の形は依頼・勧誘の表現として用いられる。

(25) ちょっと教えてくれますか（教えてくださいますか)。

(26) ちょっと待ってくれませんか（待ってくださいませんか)。

2)「てくれる／てくださる」も,「てやる／てあげる／てさしあげる」と同様, 動詞がとる補語は基本的にかわらない。ただし, (29)のように, 単独ではニ格をとりにくい動詞が,「てくれる／てくださる」をつけることによって, ニ格をとるようになることがある。

(27) a. 森さんが私に日本語を教えた。

b. 森さんが私に日本語を教えてくれた。

(28) a. 森さんが私を役所へ連れて行った。

b. 森さんは私を役所へ連れて行ってくれた。

(29) a.？森さんが私にふとんをしいた。

b. 森さんが私にふとんをしいてくれた。

3)「てくれる／てくださる」に関する学習者の誤用は, 主に次のようなものである。

(30)＊先生はいつも親切に教えます。(→教えてくださいます)

(31)＊私は, 木村先生に辞書を貸してくださいました。(→いただきました)

(32)＊父が空港まで送ってくださいました。(→くれました)

(30)は「あげる／もらう／くれる」に共通して見られるもので,「てあげる／てもらう／てくれる」が脱落する誤りである。先生に対する感謝の気持ちを表すのであれば,「てくださる」が必要である。

(31)は，主体が「私」なので「くれる／くださる」は使えない。「私は木村先生に辞書を貸していただきました」とするか，「木村先生が辞書を貸してくださいました」とすべきである。

(32)では，話し手の家族が主体になっているので，敬語（尊敬語）の「くださる」は使えず，「くれる」とすべき例である。《→使役やりもらい》

「てもらう／ていただく」

1）恩恵の受け手（受益者）が主語であり，かつ受益者の立場にたって述べるときに用いる。上の人から恩恵を受けるときは「ていただく」，対等の人および下の人から恩恵を受けるときは「てもらう」を使う。

2）「てもらう／ていただく」には次のような使い方もある。

〔依頼〕（可能形「てもらえる／ていただける」の形で）

(33)　ちょっと教えてもらえますか（教えてもらえませんか）。

(34)　ちょっと待っていただけますか（いただけませんか）。

〔指示〕

(35)　まずここで着替えていただきます。診察はそのあとで行います。

〔要求・依頼〕（「てもらいたい／ていただきたい」の形で）

(36)　あした休ませていただきたい（休ませてもらいたい）んですが。

3）「てもらう／ていただく」は，受身文や使役文と同じく，動作の主体をニ格で表す。

(37)　リーさんは森さんに日本語を教えてもらった。

（←森さんがリーさんに日本語を教えた。）

(38) 森さんはリーさんに仕事を手伝ってもらった。

(←リーさんが森さんの仕事を手伝った。)

(39) リーさんは森さんに役所へ連れて行ってもらった。

(←森さんがリーさんを役所へ連れて行った。)

4)「てもらう／いただく」に関する学習者の誤用は，主に次のようなものである。

(40)＊写真をとってもらいませんか。(→もらえませんか)

(41)＊先生がドアを開けていただきました。(→くださいました)

(42)＊去年私から貸してもらった本と資料を早く返してほしいんです。

(→借りた)

(40)は依頼表現でよく見られる誤りで，可能形にするのを忘れたものである。(40)のように言うと，「誰かに写真をとってもらいませんか」という意味になる。

(41)は主語が利益の与え手であり，かつ受益者が話し手なので，「てくれる／てくださる」を使わなければならない。

(42)は，利益の受け手が話し手以外，また，利益の与え手が話し手なので，「てもらう」は不適切である。「貸してもらう」のかわりに「借りる」を使うべきである。

7　複合動詞と補助動詞

7.1　複合動詞

1）「食べ始める」「食べかける」「走り込む」のように，「Ｖ１（連用形）Ｖ２」の形をとる動詞を**複合動詞**という。複合動詞はＶ２の意味・機能によって次のように分類できる。

1.　アスペクト（相：動きや変化の段階・局面）に関するもの

《→テンス・アスペクト》

〔開始〕

「～始める」　仕事をやり始める。

「～出す」　ようやく仕事をやり出した。

「～かける」　仕事をやりかけて，出ていってしまった。

〔継続〕

「～続ける」　朝まで飲み続ける。

「～続く」　３日も雨が降り続いた。（「降り続く」のみ）

〔終了〕

「～終わる」　読み終わったら，戻しておいてください。

「～終える」　読み終えたら，戻しておいてください。

「～やむ」　泣いていた赤ん坊がようやく泣きやんだ。

2.　空間的移動

〔下→上，上→下〕

「～上がる」　ヘリコプターが飛び上がった。

「～上げる」　荷物を運び上げる。

「～下ろす」　荷物を運び下ろす。

「～落ちる」 階段から転げ落ちる。

〔外→中，中→外〕

「～込む」　鞄に荷物を詰め込む。

「～出す」　荷物を運び出す。

3. 対象・目標

「～かける」 知らない人に話しかける。

「～かかる」 ちょうど田中さんが通りかかったので，たずねてみた。

「～つける」 犯人を押さえつける。

「～つく」　ライオンが飼育係に噛みついた。

「～合う」　よく話し合って結論を出してください。

4. 程度・密度・完成度

「～抜く」　42.195キロを走り抜いた。

「～切る」　彼は彼女に頼り切っている。

「～込む」　彼女は思い込んだら命がけだよ。

「～通す」　何でもやり通すことが大事だ。

「～つめる」 彼女は思いつめているので，自殺の心配がある。

「～つくす」 彼はこの辺りのことは知りつくしている。

2）Ｖ２の中には，「～始める，～続ける」などのように様々なＶ１に付くものと，「～続く」（「降り続く」のみ）のように，限られたＶ１にしか付かないものとがある。

Ｖ１とＶ２の結び付きが強くなり，一語化していくものもある。「飛び出す，打ち消す，詰め込む」などは，「飛ぶ」に「出す」，「打つ」に「消す」，「詰める」に「込む」が結び付いているというよりは，一つの動詞と考えた方がよい。

外国人学習者にとっての複合動詞の問題点の一つは，Ｖ１とＶ２の組み合

わせ方である。学習者は，本動詞Ｖ１が他動詞であればＶ２も他動詞，本動詞Ｖ１が自動詞であればＶ２も自動詞でなければならないと思うようで，次のような組み合わせを作ることが多い。

(1)　＊雨が降り　始まる。（→雨が降り　始める。）
　　自　　自　　　　自　　他

(2)　＊子どもが泣き　続く。（→子どもが泣き　続ける。）
　　自　　自　　　　自　　他

(3)　＊ライオンが襲い　かける。（→ライオンが襲い　かかる。）
　　他　　他　　　　他　　自

(4)　＊子どもが笑い　かかってきた。（→子どもが笑い　かけてきた。）
　　自　　自　　　　自　　他

7.2　補助動詞

1）「読んでいる」「食べていく」「書いておく」などのように，「（Ｖ１）テＶ２」の形でＶ１に新たな意味を加える動詞を**補助動詞**という。補助動詞には次のようなものがある。

1.　アスペクトに関係するもの　《→テンス・アスペクト》

「ている」　本を読んでいる。（動作継続）／花が枯れている。（結果状態）

「てある」　本が置いてある。（結果状態）
　　ホテルは予約してある。（準備済み）

「てくる」　ずっと努力してきた。（継続）
　　学生の数が増えてきた。（発生・進展）

「ていく」　これからも努力していく。（継続）
　　人が少なくなっていった。（進展）

「てしまう」　その本はすでに読んでしまった。（完了）

2. 授受に関するもの 《→授受表現（やりもらい）》

「てやる／てあげる／てさしあげる」

私は弟に英語を教えてやった（教えてあげた）。

私はジョンソン先生に箸の使い方を教えてさしあげた。

「てもらう／ていただく」

私は兄に英語を教えてもらった。

私は田中先生に英語を教えていただいた。

「てくれる／てくださる」

兄は私に英語を教えてくれた。

ジョンソン先生は私に英語を教えてくださった。

3. その他

「ておく」 ホテルを予約しておく。（準備）

「てみる」 試しに食べてみる。（試行）

2）補助動詞には，あってもなくてもそれほど意味が違わない場合がある。そのような場合，学習者は補助動詞を省いてしまうことがある。（このように非文法的ではないが，必要なものが使われていない誤りを**非用**という。）

(1) もう少し考えてください。（→もう少し考えてみてください。）

(2) 金魚が死んだ。（→金魚が死んでしまった。）

(3) きのう富士山に登りました。（→きのう富士山に登ってきました。）

(4) ホテルを予約する。（→ホテルを予約しておく。）

これらの文は，「てみる」「てしまう」「てくる」「ておく」がなくても文法的には正しい。そのため，学習者はこれらの補助動詞を省いてしまうことが多い。しかし，ここでは，控えめに依頼する気持ち（「てみる」(1)），後悔の気持ち（「てしまう」(2)），話題を提供する（「てくる」(3)）といった微妙な

ニュアンスを表す上で重要な働きをしている。

3）以下，補助動詞のいくつかについて少し詳しく見ていく。(「てあげる」「てもらう」などについては「6．ヴォイス（態）と授受表現（やりもらい）」で，また，「ている」については，「8．テンス・アスペクト・ムード（モダリティ）」で述べている。)

「てある」

「てある」には，まず「門をあける→門があけてある」のように，格助詞の交替をともなって「意図的な動作によってもたらされた対象の結果状態の残存」を表す用法がある。「～られている」と言い換えられることが多い。

(5)　壁に絵が飾ってある。／壁に絵が飾られている。

(6)　きれいに整理してある。／きれいに整理されている。

対象の結果状態の残存を表す「てある」(例「門があけてある」) は，主体の結果状態の残存を表す「ている」(例「門があいている」) と混同されやすい。しかし，「門があいている」は，必ずしも誰かが意図的に門をあけたことは意味しないが，「門があけてある」は，誰かが意図的に門をあけた結果門があいていることを意味するというように，意味の違いがあるので注意が必要である。

また，「てある」「ている」の前に来る動詞が自動詞か他動詞かということも関係してくるので，学習者にはより難しくなる。

(7)　電気がついている。／電気がつけてある。
　　自　　他

「てある」には，「ホテルを予約する→ホテルを予約してある」のように格

助詞の変更をともなわずに「準備済み」の意味を表す用法もある。この場合，「ておく」との関係が出てくる。

(8) 書類をそろえてあります。(←書類をそろえておきました。)

(9) 準備をしてあります。(←準備をしておきました。)

「てくる」

意志動詞に「てくる」が付くと，ある時点までの動作の維持（例(10)）を表したり，「話し手／聞き手のところに来る過程で何かやる」という意味（順次的動作，例(11)）を表したりする。また，無意志動詞に「てくる」が付くと，発話時までの状態変化の発生・進展（例(12)）を表す。

(10) これまでずっと我慢してきた。
　　彼女は女手一つで子供を育ててきた。〔動作の維持〕

(11) ちょっと買い物に行ってきた。
　　田中さんを呼んできてください。　〔順次的動作〕

(12) 少しずつ寒くなってきた。
　　世の中が変わってきた。　〔状態変化の発生・進展〕

「てくる」の場合，「くる」がどこまで動詞「来る」としての独立性を持つか（「～して，そして，来る」か「～してくる」か）が問題となる。「買ってくる」は「買って，そして，来る」ではなく，動作の主体が話し手または聞き手のところにまた戻るという意味を付け加えているだけである。

「てくる」は「～して，今に至る」という意味を含むため，発話場面とまったく無関係におこなわれた動作に「てくる」を用いるのは不自然である。

(13) この前の日曜日，富士山に｛登りました／登ってきました｝。

(14) 私は小学生の時に富士山に｛登りました／＊登ってきました｝。

(13)は「登ってくる」と言うと，発話場面に関係ある話題として「富士山に登った」ことを取り上げているということがより明確になる。

「ていく」

「ていく」は「てくる」と意味・用法がよく似ている。意志動詞に「ていく」が付くと，ある時点までの動作の継続（例(15)）を表したり，「ある動作をして，それから話し手／聞き手から遠ざかる」という意味（順次的動作，例(16)）を表したりする。また，無意志動詞に「てくる」が付くと，ある時点以降の状態変化の発生・進展（例(17)）を表す。

(15) これからも自然を大切にしていきたい。　〔動作の継続〕

(16) おなかがすくから，ご飯を食べていこう。　〔順次的動作〕
ちょっと見ていってください。

(17) どんどんやせていく。　〔状態変化の進展〕
世の中が変わっていった。

「てしまう」

「てしまう」は基本的には動作の完了を表すが，文脈によって，驚きや後悔といった話し手の気持ちを表す。その点，単にテンス・アスペクトを表すだけでなく，話し手の心情を表すムード的な面を持つといえる。

《→コトとムード》

(18) その本はすでに読んでしまった。（完了）

(19) へえ，一人でこのワインを一本飲んでしまったの。（驚き）

(20) 飲まないつもりだったのに，ついついワインを１本飲んでしまった。（後悔）

「びっくりする」「困る」「忘れる」「なくす」「死ぬ」「こわす」「落とす」などのように，それ自体で驚きや後悔の気持ちと結びつきやすい動詞は，

「てしまう」が現れやすい。

(21) 彼には困ってしまった。

(22) パスポートを落としてしまった。

「ておく」

「ておく」には,「ある目的をもって事前に〜する」という意味を表す用法(例(23))と,「対象の状態をそのまま変えないでいる」という意味を表す用法(例(24))がある。

(23) 先生の家を訪ねる前に,電話をしておこう。

(24) A:窓を閉めましょうか。

B:いいえ,(そのまま)開けておいてください。

(24)は「窓が開いている状態をそのまま維持する」ことを述べている。しかし,これもある目的(たとえば,「あとでこの部屋を使う」「空気を入れ換える」など)のために,「窓が開いている」状態を維持するのであるから,「ておく」本来の意味は「事前に(前もって)やる」という意味であると考えられる。

「事前に(前もって)やる」という意味を表す「ておく」は,「てある」と混同されやすい。しかし,両者は,「ておく」が動作主の行為に焦点が置かれるのに対して,「てある」は対象の結果状態に焦点が置かれるという違いがある。

(25) a. 書類を準備しておく。〔動作主の行為に焦点〕

b. 書類が準備してある。〔対象の状態に焦点〕

「ておく」は通常話し手の行為・動作を表し，第三者を主語とすると不自然になることがある。

(26) a． 私が会議の書類を準備しておきます。
b.？田中さんが会議の書類を準備しておきます。
（→田中さんが会議の書類を準備しておくそうです。）

「てみる」

「てみる」は，「どのような結果が出るかチェックするために，試みに何かをやる」という意味を表す。

(27) おいしいかどうか食べてみてください。

「ておく」と同様，「てみる」も，通常話し手の行為・動作を表し，第三者を主語とすると不自然になるここことがある。

(28) 私がやってみます。
(29)？田中さんがやってみます。（→田中さんがやってみるそうです。）

また，「てみる」は「試みに何かをやる」ことを表すために，遠慮がちに「ちょっとやる」という気持ちを表すこともある。

(30) A：じゃ，やってください。
B：a． はい，やります。
b． はい，やってみます。（より丁寧）

「てみる」は「どのような結果が出るかチェックする」という意味があるが，英語の try to ～には特にそのような意味はない。しかし，学習者の中

には,「てみる」=I'll try to〜=「努力する」と理解して，何の前提もない場面で,「勉強をがんばる」のつもりで唐突に「勉強してみます。」のように言うことがある。

8．テンス・アスペクト・ムード（モダリティ）

チェック

次の語を知っていますか。チェックして下さい。

□テンス（時制）　□アスペクト（相）

□ル形　□タ形

□過去・非過去　□完了・未完了

8.1　テンス（時制）・アスペクト（相）

1）テンス（時制）は，その事柄が時間の流れの中のどこに位置するかを表す。日本語では，「行く」「食べる」「おいしい」「いい天気だ」などの**辞書形（ル形）**が**非過去**（未来，現在）を，「行った」「食べた」「おいしかった」「いい天気だった」などの「―タ」の形（**タ形**）が**過去**を表す。

(1)　a．あした東京へ行く。（非過去（未来））

　　b．きのう九州へ行った。（過去）

(2)　a．きょうはたくさんの人がいる。（非過去（現在））

　　b．きのうはたくさんの人がいた。（過去）

動作動詞（「行く」「食べる」「とける」など，動作や変化を表す動詞）のル形は未来の動作や変化を表す（例(1)a）。状態動詞（「ある」「いる」など，状態を表す動詞）や形容詞，名詞述語のル形は現在の状態を表す（例(2)a）。

日本語の場合，「きのう」「先週」などの過去の副詞が現れると，述語に

「た」を付けなければならない。学習者の母語の中には過去の副詞があれば述語の形はそのままでよい言語もある。そのような言語を母語とする学習者は「た」を落としてしまいがちである。

形容詞についても，形容詞自体が活用することがなかなか理解できない学習者も多い。学習者には，日本語の形容詞に非過去形（例「高い／有名だ」）と 過去形（例「高かった／有名だった」）があることを十分に理解させる必要がある。《→形容詞，形容詞文》

2）アスペクト（相）は，動きや変化がどのような段階・局面（開始，継続，終了など）にあるかを表す。主なアスペクトの表現形式は次の通りである。

1. 動詞のル形とタ形は「未完了―完了」というアスペクトを表すこともある。
2. 複合動詞　「～し始める」「～し出す」「～し終わる」など
3. 補助動詞　「～している」「～してある」「～してしまう」など
4. その他　「～しつつある」「～する（している，した）ところだ」「～したばかりだ」など

3）「ル―タ」と「非過去―過去」「未完了―完了」

動詞のル形は，**非過去**（現在・未来）または**未完了**（未実現）を表し，タ形は**過去**または**完了**（実現済み）を表す。先にあげた例(1)(2)では，ル形・タ形はそれぞれ非過去・過去を表す。また，次の(3)(4)では，ル形・タ形は未完了・完了を表す。(4)の「～とき」のような従属節の場合，ル形かタ形かでが主節との時の関係が変わってくる。《→単文・複文》

(3) a．寝る前に歯を磨いた。（→寝る動作の完了前に歯を磨いた。）
　　b．歯を磨いたあとで寝なさい。（→歯を磨く動作の完了後に寝なさい。）

(4)　a．道路をわたる時は，よく注意しなさい。

（→道路をわたる動作の完了前に注意せよ。）

b．道路をわたった時は，よく注意しなさい。

（→道路をわたる動作の完了後に注意せよ。）

(3)(4)のようなケースでは，ル形は「主節の出来事以後」，タ形は「主節の出来事以前」という**相対テンス**を表すと説明されることもある。非過去（発話時以後）― 過去（発話時以前）は，相対テンスに対し，**絶対テンス**と呼ばれる。

(5)(6)のように，主節の述語が過去を表し，従属節の述語が状態性述語（状態動詞，形容詞，名詞述語）のときは，ル形，タ形ともに主節の出来事と同時に存在する状態を表すことができる。(5)a．と(5)b．，(6)a．と(6)b．はそれぞれほぼ同じ意味を表す。

(5)　a．子どもが寝ているとき，買い物に行った。

b．子どもが寝ていたとき，買い物に行った。

(6)　a．暑いので窓を開けた。

b．暑かったので窓を開けた。

《→従属節》

(7)は過去にその動作があったか否かを問う質問だが，(8)は動作が完了済みか否かを問う質問である。「～しなかった」は，ある期間中に結局その動作が行われなかったことを表すので，現時点までいまだ未実現であるという場合は「まだ～していない」を用いる。

(7)　A：きのう，ごはん食べた？　〔過去〕

B：いや，食べなかった。

(8)　A：もうごはん食べた？　〔完了〕

B：いや，まだ食べていない（＊まだ食べなかった）。

4）「ている」

「ている」の基本的な用法は，「動きの継続」と「変化の結果状態の残存」の二つである。

〔動きの継続〕

(9)　子どもはテレビを見ている。

〔動きの結果の状態〕

(10)　お金が落ちている。

「ている」には，そのほか，「完了」「反復」「経験・経歴」を表す用法もある。

(11)　宿題はすでに済ませている。（完了）

(12)　まだ昼ご飯を食べていない。（完了の否定）

(13)　列車が次々と到着している。（動作の反復）

(14)　これまでアメリカには3回行っている。（経験・経歴）

「ている」で物事の一般的な特徴や性質が述べられることもある。

(15)　この本は若者によく読まれている。

(16)　彼女は大きな目をしている。

(17)　彼はやせている。

5）アスペクトを表す複合動詞・補助動詞

複合動詞の中には，次のように物事の「開始」「継続」「終了」などのアスペクトを表すものがある。《→複合動詞》

〔開始〕

「～始める」 仕事をやり始める。

「～出す」 ようやく仕事をやり出した。

「～かける」 仕事をやりかけて，出ていってしまった。

〔継続〕

「～続ける」 朝まで飲み続ける。

「～続く」 3日も雨が降り続いた。(「降り続く」のみ)

〔終了〕

「～終わる」 読み終わったら，戻しておいてください。

「～終える」 読み終えたら，戻しておいてください。

「～やむ」 泣いていた赤ん坊がようやく泣きやんだ。

また，「ている」以外にも，次のようにアスペクトを表す補助動詞がある。

《→補助動詞》

「～てある」 本が置いてある。(結果状態) ／ホテルは予約してある。(準備済み)

「～てくる」 ずっと努力してきた。(継続) ／学生の数が増えてきた。(発生・進展)

「～ていく」 これからも努力していく。(継続) ／人が少なくなっていった。(進展)

「～てしまう」 その本はすでに読んでしまった。(完了)

6) アスペクトを表すその他の形として「～つつある」「～ところだ／～ばかりだ」がある。

「～つつある」は「～ている」とよく似た働きを持ち，動詞の連用形に付いて，動作の進行や変化の進展を表す。書きことば的である。

同じ動作の進行を表す場合でも，「～ている」は「動作の途中である」と

いう意味合いが強く（例(18)），「～つつある」は「動作の完成に向かっている」という意味合いが強い（例(19)）。

(18)　あの役者は舞台ごとに意識的に自分のイメージを変えている。
(19)　あの役者は数年前から意識的に自分のイメージを変えつつある。

一方，主体の状態変化を表す動詞（「死ぬ，咲く，なる，変わる，やせる，太る」など）の「～つつある」の形は変化の進展を表す。「～ている」は，「次第に，少しずつ，だんだん」などの副詞がある場合をのぞき，結果状態の残存を表す。

(20)　桜の花が咲きつつある。（変化の進展）
(21)　桜の花が咲いている。　（結果状態の残存）

(22)　湖の水が凍りつつある。　　（変化の進展）
(23)　湖の氷が少しずつ凍っている。（変化の進展）
　　湖の水が凍っている　　（結果状態の残存）

「～ところだ」は，「～するところだ」「～しているところだ」「～したところだ」の形で，それぞれ開始直前，動作の継続中，動作の終了直後を表す。

(24)　今から出かけるところだ。　　（開始直前）
(25)　今お風呂に入っているところだ。　（継続中）
(26)　ちょうど今仕事が終わったところだ。（終了直後）

「～したばかりだ」は，「～したところだ」と同じく，動きが終了直後であることを表す。「～したところだ」が動作の終了・完了に重点が置かれるのに対し，「～したばかりだ」は，動作が終了してからそれほど時間が経って

いないことに重点が置かれ，「だから～」という含みを持つことが多い。

(27) さっき夕飯を食べたばかりで，おなかがすいていない。

8.2 ムード（モダリティ）

チェック

次の語を知っていますか。チェックして下さい。

□ムード	□モダリティ	□認識的ムード
□情意的ムード	□対事的ムード	□対人的ムード
□命令	□禁止	
□意志	□願望	
□依頼	□推量・推定	

1）「1．文の基本構造」のところで述べたように，文の意味内容は，事柄（コト）と，話し手の気持ち（心的態度，**ムード**）の二つからなる。例えば，「明日は晴れるだろう。」「明日は晴れますか。」は，「明日晴れる」というコトに，推量「だろう」や問いかけ「か」というムードが加わったものである。

ムードは**モダリティ**とも呼ばれる。ムードとモダリティは区別して用いられることもあるが，本書では両者を同じ意味で用いる。《→コトとムード》

ムード表現（モダリティ表現）は，文のいろいろな部分に現れて，話し手の気持ちを表すが，日本語の場合，そうした心的態度が最も表れやすいのは文末である。ここでは，文末におけるムード表現（モダリティ表現）を取り上げる。

2）ムードは，大きく「コトに対する話し手のとらえ方」（**対事的ムード**）

と「聞き手に対する働きかけ」(**対人的ムード**) に分けられる。

対事的ムードは，さらに「**認識的ムード**」(話し手の判断) と「**情意的ムード**」(コトの成立を望ましいものや実現させたいものとしてとらえる気持ち) に分けられる。認識的ムードはさらに「確実なことの述べ立て」「不確実なことの述べ立て」に分かれ，情意的ムードは「意志，願望，当為」など多岐に渡る。

対人的ムードは，「情意的働きかけ」と「情報求め (聞き手への問いかけ)」「伝達態度」に分かれる。

対事的ムード (コトに対する話し手のとらえ方)

- 1. 認識的ムード
  - 確実なことの述べ立て
  - 不確実なことの述べ立て
- 2. 情意的ムード　意志，願望，当為，など。

対人的ムード

- 1. 情意的働きかけ
- 2. 情報求め (聞き手への問いかけ)
- 3. 伝達態度 (終助詞)

3) ムードの中では，対事的ムード，対人的ムードがそれぞれ単独で表現される場合と，両者が組み合わされて表される場合がある。後者の場合，基本的には「対事的ムード→対人的ムード」の順になる。

(1) 行か　なければならない　のじゃないか。
　　対事的ムード　対人的ムード

(2) 彼は　きっと　行く　つもり　だろう　ね。
　　対事的ムード　対事的ムード　対事的ムード　対人的ムード

4) 対事的ムード (コトに対する話し手のとらえ方) には次のようなものがある。

1. 認識的ムード（話し手の判断）

【確実なことの述べ立て】

〔断定・主張〕（述語の辞書形，にちがいない，に相違ない）

(3) 彼は来る。／彼は犯人だ。

(4) 彼が犯人にちがいない。

(5) それは事実に相違ありません。

〔説明〕（(の）だ，わけだ，（という）わけではない，（という）わけでもない，はずだ，はずが／はない，わけが／はない）

(6) 彼が犯人なのだ。

(7) それで彼を疑っているわけだ。

(8) 彼が犯人というわけではない。

(9) 彼が無実というわけでもない。

(10) 彼が盗んだはずだ。

(11) 彼が犯人であるはずがない（はずはない）。

(12) 彼が盗みをするわけがない（わけはない）。

〔伝聞・引用〕（という，そうだ，って，ということだ／とのことだ）

(13) 彼が盗みを働いたという。

(14) 彼が犯人だそうだ。

(15) 彼が犯人だって。

(16) 彼が犯人だということだ（犯人だとのことだ）。

〔諦め・断念〕（ざるをえない，しかない,てもやむをえない,はやむをえない，も無理はない／も無理からぬことだ，てもしようがない／（より）ほか（は）ない／しかたがない）

(17) 彼女のことはあきらめざるをえない。

(18) もう死ぬしかない。

(19) どう思われてもやむをえない。

(20) みんなが去っていくのはやむをえない。

(21) 彼がそう言うのも無理はない。

(22) 彼女が仕事をやめるのも無理からぬことだ。

(23) 彼は疑われてもしようがない。

(24) もう夜逃げするよりほかはない。

(25) 彼が盗みをしたのはしかたがない。

〔誘発〕（なりかねない，ずにはいられない）

(26) このままでは重大問題になりかねない。

(27) 愛さずにはいられない。

〔限定〕（にすぎない，だけだ，にほかならない）

(28) それは噂にすぎない。

(29) ビールを一杯飲んだだけだ。

(30) 金メダル獲得は努力のたまものにほかならない。

〔反語〕（どうして～（よ）うか／だろうか，ものか）

(31) どうして彼を許せようか。

(32) こんなことが許されて良いだろうか。

(33) あんなやつに負けるものか。

【不確実なことの述べ立て】

〔推量〕（だろう，であろう，の／なのだろう，（の）じゃ／ではないかと思う，まい，（よ）う）

(34) 彼は明日来るだろう。

(35) それは真実であろう。

(36) 彼の言うことは本当なのだろう。

(37) 彼の言うことは本当じゃ／ではないかと思う。

(38) 彼も二度とそんなことはやるまい。

(39) 安かろう，悪かろうの時代は過ぎた。

〔推定・想像〕（らしい，マス（連用）形＋そうだ，マス（連用）形＋そうにない／そうもない／そうにもない／そうにはない，ようだ，ように思う，ものと思われる，みたいだ，ような感じ／気がする）

(40) 雨が降るらしい。

(41) 雨が降りそうだ。

(42) 雪は降りそうも／にも／にはない。

(43) 彼はきょうは来ないようだ。

(44) 彼女は何か隠しているように思う。

(45) （山田選手は会場に現れない。）棄権したものと思われる。

(46) 彼は帰ったみたいだ。

(47) 彼女はもう戻ってこないような感じ／気がする。

〔予測・可能性〕（かもしれない，おそれがある，かねない）

(48) 失敗するかもしれない。

(49) 台風が直撃するおそれがある。

(50) 彼は自殺しかねない。

2. 情意的ムード

〔意志〕（（よ）う，（よ）うと思う，つもりだ，つもりだった，てみる，ようにする，ことにする，（よ）うとは／ともしない，かねる，まい）

(51) 明日はがんばろう。

(52) がんばろうと思う。

(53) がんばるつもりだ。

(54) もっと早く帰るつもりだったが，遅くなってしまった。

(55) やってみます。

(56) 明日から早く帰るようにします。

(57) 結婚することにしました。

(58) 彼は顔を上げようとは／もしなかった。

(59) ちょっと理解しかねます。

(60) あんなところへは二度と行くまい。

〔願望〕（たい，たらと思う）

(61) 早く結婚したい。

(62) 中国語ができたらと思う。

〔期待〕（てほしい，てもらいたい／いただきたい）

(63) 早く雨がやんでほしい。

(64) あした9時に来てもらいたい／いただきたい。

〔当然〕（ものだ，ものでは／もない，は言うまでもない）

(65) 老人にはもっと敬意を払うものだ。

(66) ただ敬意を払えばいいというものでは／でもない。

(67) きちんとした社会保障をすることは言うまでもない。

〔強制・義務〕（なければならない，なければならぬ，なくてはいけない，なくてはならない，ないといけない，なきゃいけない，べきだ）

(68) 国民としての義務を話さなければならない／ならぬ。

(69) やるべきことはやらなくてはいけない。

(70) きょうは会議に出なくてはならない。

(71) 12時までに帰らないといけない。

(72) お金を返さなきゃいけない。

(73) 君のほうから謝るべきだ。

〔不可能〕（てはいられない，わけには／にもいかない／ぬ，てたまらない，てばかりは／もいられない，（よ）うにも～（ら）れない，ようもない，ようがない，かねる）

(74) こんなことをしてはいられない。

(75) 黙っているわけには／もいかない。

(76) 暑くてたまらない。

(77) 人に頼ってばかりは／もいられない。

(78) 頭が重くて，起きようにも起きられない。

(79) 弁解のしようも／がない。

(80) その仕事は引き受けかねる。

〔選択〕（ほうがいい，より～ほうがいい，ぐらいなら～ほうがよい／いい／ましだ）

(81) 一人でやるほうがいい。

(82) 外で飲むより家で一杯やるほうがいい。

(83) そんなことをやらされるぐらいなら，死んだほうがよい／いい／ましだ。

〔安堵〕（てよかった）

(84) 無事に帰れてよかった。

〔仮想・仮定〕（たら／たなら～だろうに，たら／たなら～だろうのに，（た）つもりだ）

(85) 1時間早かったら／たなら，助かっていただろうに。

(86) もっとわかっていたら，何とかなっただろうのに。

(87) あのときはっきり断ったつもりだ。

情意的ムードは話し手の情意を表すので，第三者が主語のときは，感覚・感情形容詞などと同様，「そうだ」「らしい」「と言っている」などを補う必要がある。《→感覚・感情形容詞》

(88) a． 私はあした仕事を休みたい。

b．？彼はあした仕事を休みたい。

（→彼はあした仕事を休みたいそうだ。）

(89) a． 私は主人にもっと家事を手伝ってほしい。

b．？林さんはご主人にもっと家事を手伝ってほしい。

（→林さんは主人にもっと家事を手伝ってほしいらしい。）

5）対人的ムード（聞き手に対する働きかけ）には次のようなものがある。

1. 情意的働きかけ

〔命令〕（命令形，～なさい）

(90) 立て。

(91) 立ちなさい。

〔禁止〕（～な，てはいけない，ちゃいけない，てはならない，てはならぬ）

(92) 立つな。

(93) 立ってはいけない。／立っちゃいけない。

(94) 死んではならない。／死んではならぬ。

〔許可〕（て（も）いい，て（も）かまわない，て（も）さしつかえない，

といってよい／さしつかえない）

(95) 質問してもいい。

(96) 質問してもかまわない。

(97) 何をごらんになってもさしつかえありません。

(98) 彼女が実質上の経営者だといってよい／さしつかえない。

〔不必要〕（なくてもいい，ことはない，までもない，には及ばない，たらきりがない）

(99) 今行かなくてもいい。

(100) 今行くことはない。

(101) 君がわざわざ行くまでもない。

(102) 社長自らが行くには及ばない。

(103) 悪いほうに考えたらきりがない。

〔依頼〕（（さ）せていただく／（さ）せてもらう，（さ）せていただきたい／（さ）せてもらいたい，（さ）せていただけないか／（さ）せてもらえないか，てくれ，てくれないか，てください，てちょうだい，てほしい）

(104) すみませんが，来週から休みをとらせていただきます／もらいます。

(105) 明日休ませていただきたい／もらいたいんですが。

(106) 私に行かせていただけ／もらえませんか。

(107) 金を返してくれ。

(108) 下手な歌，やめてくれないか。

(109) すみません，ちょっと急いでください。

(110) そこの新聞，持ってきてちょうだい。

(111) 貸したお金を早く返してほしい。

〔勧誘〕（(よ）う）

(112) いっしょに行こう。

〔勧め〕（(た）ほうがいい，たらいい，たらいいんじゃないか，ばよい／いい，たらどうだ，ことだ）

(113) 病院へ行ったほうがいい。

(114) そんな会社，やめたらいい。

(115) もう一度やってみたらいいんじゃないか。

(116) もう一度やり直せばよい／いい。

(117) うちの会社に来たらどうだ。

(118) あんなところ，一日も早くやめることだ。

2. 情報求め

〔問いかけ〕（か，の，(の）じゃ／ではないか）

(119) それは事実ですか。

(120) あなたも行くの。

(121) それは単なる噂じゃ／ではないですか。

〔提案〕（(よ）うか，ないか，じゃ／ではないか，じゃ／ではないだろうか，の／なのではないか，ではないかと思う／考える）

(122) ヴェトナム料理，食べに行こうか。

(123) 俺とデートしないか。

(124) おもしろい考えじゃ／ではないか。

(125) いい考えじゃ／ではないだろうか。

(126) この曲はヒットするのではないかと思う／考える。

3. 伝達態度

〔終助詞〕（ね，よ，な，わ，かな，かしら，など）

(127) あの映画はおもしろいね。(同意要求)

(128) あの映画はおもしろいよ。(強調)

(129) あの映画はおもしろいな。(詠嘆)

(130) あの映画はおもしろいかしら。(疑問)

9．助　　詞

チェック

次の語を知っていますか。チェックして下さい。

□格助詞　　□取り立て助詞
□複合格助詞　　□連体助詞
□並立助詞（並列助詞）　　□終助詞
□接続助詞　　□間投助詞
□係助詞　　□副助詞

助詞は，いろいろの語について，語と語，語と述語，文と文の関係を表す。その関係は，論理的（コト的）な関係の場合もあるし，話し手がその事物をどうとらえたか，あるいは，話し手がどのような伝達態度で述べているかというムード的な関係の場合もある。

格助詞（「が，を」など），**連体助詞**（「の」），**複合格助詞**（「によって，として」など），**並立助詞**（並列助詞，「と，や」など）の大部分は，論理的（コト的）な関係を示す助詞である。また，**取り立て助詞**（「は，も，さえ」など），終助詞（「よ，ね，か」など）は話し手の気持ち（ムード的な関係）を表す助詞である。ただし，コト的かムード的かは連続的で，区別できない場合も多い。

文と文を結ぶ**接続助詞**（「ので」「から」「が」「し」「のに」「ながら」など）にも論理的関係を示すものと，話し手の気持ちを表すものとがある。本書では，接続助詞については従属節（副詞節）と主節を結ぶ接続形式（**接続語**と呼ぶ）の一つとして扱う。《→従属節，副詞節》

9.1 格助詞（が，を，に，で，へ，と，から，まで，より）

格助詞は，名詞のうしろについて，名詞と述語（動詞・形容詞など）との間の論理的な関係を示す。《→補語》

(1) 山田君は友だちと空港へ行った。
(2) 空港で友だちと昼ご飯を食べた。
(3) 空港に人がおおぜいいた。

これらの文では，補語（名詞＋格助詞）と動詞との間に次のような関係がある。

山田君が（主体）
友だちと（同伴者）　} 行く
空港へ（方向）

空港で（場所）
友だちと（同伴者）　} 食べる
昼ご飯を（対象）

空港に（位置）
人が（主体）　} いる

「行く」は主体と方向を表す補語，「食べる」は主体と対象を表す補語，「いる」は位置と主体を表す補語があれば，最低限まとまった文を作ることができる（上の例の下線部）。このような動詞に最低限必要な補語を**必須補語**という。

一方,「友だちと（行く）」「空港で（食べる）」「友だちと（食べる）」のように，動詞にとって必須の要素ではないが，動作のあり方や状況をより詳しく説明する補語を，**随意補語**という。

格助詞にはそれぞれ複数の用法があるので，学習者にとっては習得に時間がかかる。

9.2　連体助詞（の）

「日本の自動車産業」「シクラメンの花」「弟の恋人」「友だちの雪ちゃん」「ロシアからの手紙」のように,「名詞＋の」または「名詞＋格助詞＋の」の形をとってうしろの名詞を修飾する助詞である。（連体助詞を格助詞の中に含めることもあるが，ここでは補語を作るものだけを格助詞とする。）

「名詞１＋の＋名詞２」において名詞１と名詞２の関係は多岐に渡る。

（所有・所属）

(1)　私の本／学校の先生

(2)　日本の自動車産業

(3)　弟の恋人

(4)　ロシアからの手紙

（行為主体）

(5)　偉人の業績　（←偉人がなした業績）

(6)　遺族の悲しみ（←遺族が悲しむ）

（属性）

(7)　ヒゲの男　　（←ヒゲをはやした男）

(8)　二十歳の人　　（←年齢が二十歳である人）

(9)　シクラメンの花（←シクラメンという花）

（連体修飾節内の主語・対象語）

(10) 母の作る料理（←母が作る料理）

(11) スペイン語のわかる人（←スペイン語がわかる人）

（同格を示す）

(12) 社長の寺田さん （←社長である寺田さん）

(13) 友だちの雪子さん（←友だちである雪子さん）

9.3 複合格助詞

「彼は一家の柱としてよくやっている。」の「として」,「日本にとってこの問題は重要だ。」の「にとって」のように，格助詞と他の語（多くは「動詞＋テ」の形）が全体として一つの格助詞のように機能するものを**複合格助詞**という。**助詞相当語**とも呼ばれる。複合格助詞には，このほか,「について」「に関して」「によって」「とともに」「に対して」「にもとづいて」などがある。格助詞と同じく，名詞について述語（動詞，形容詞など）との論理的な関係を示す。

「として」（資格・立場・名目など）

(1) 彼は国の代表として日本へ来た。

「にとって」（立場・資格の対象）

(2) 外国人にとって部屋探しは深刻な問題だ。

「に対して」（動作・作用・関心が向けられる対象）

(3) 私に対してそんな失礼なことを言うな。

「について」「に関して」（トピック・範囲の限定）

(4) 今お話ししたことについて，何か質問がございますか。

(5) 大学教育に関して発言する。

「とともに」（呼応の基準）

(6) 人口の増加とともに食料危機の問題が出てきた。

「によって」（原因，手段，よりどころ，あるいは「場合に応じて」）

(7) 『虞美人草』は夏目漱石によって書かれた。《→直接受身》

(8) 国によって生活習慣が違う。

「名詞＋複合格助詞」が名詞を修飾する場合，1. 連体助詞「の」を伴う場合，2. 複合格助詞自体が連体形になる場合，1.と2.の両方が可能な場合がある。

(9) 子を育てるのは親としての義務である。

(10) 輸出規制は日本にとっての大問題だ。

(11) この本についての感想文を書いて下さい。

(12) 厚生省による白書が出版された。

(13) 教育に関する問題が山積みしている。／被害者に関しての情報はまだない。

(14) 高齢化社会に対する対策をたてなければならない。／被害者に対しての補償はどうなっているか。

9.4 並立助詞（並列助詞）

1）「父と母」「肉や魚を買う」「タロちゃんとかハナちゃんとかが遊びに来た」「おせんにキャラメル」などの，「と」「や」「とか」「に」のように，語と語，文と文を並べあげる助詞を並立助詞（並列助詞）という。並立助詞に

は次のようなものがある。

「と」

もの・ことを並べあげる。

(1) 父と母は二人で食事に出かけた。

(2) 父と母とでその仕事をやった。

「や」

たくさんあるものの一部を例として並べあげる。

(3) アパートでは犬や猫は飼えません。

「とか」

いくつかのもの・ことを，例として並べて示す。

(4) 友達ならたくさんいます。瞳さんとかみゆきさんとか…。

(5) 友達から借りるとか，働いて返すとか，いろんな方法があるはずだ。

「に」

類似のもの・ことを重ねるように並べる。

(6) お弁当にサンドイッチはいかがですか。

「だの」

いろいろなもの・ことを，例として並べあげる。

(7) 石鹸だの歯磨きだのを売る。

「なり」

同じようなものをいくつか示して，そのどれからでも自由に選べることを表す。

(8) 好きなのだったら，電話なり手紙なりで結婚を申し込んだらいい。

(9) 気がすむなら，焼くなり煮るなりしてください。

「か」

二つ以上の選択肢のどれかであるという意味を表す。

(10) あしたかあさってに，また参ります。

(11) 参加するかしないか，あすまでに返事しなければならない。

2）並立助詞は語と語，または文と文を結び，項目を並べあげる助詞である。項目を客観的に並べるだけの場合と，並べあげ方に話し手の主観が加わる場合がある。次の(12)(13)は外国人学習者の文である。

(12)？今は日本の生活と日本人にだんだん慣れてきて，日本の社会と日本人の考え方を理解しはじめた。

(13)？日本には，神社とお寺がたくさんあるのに，そのようなところは結婚式や葬式のための施設でしかない。

(12)の「日本の生活と日本人」「日本の社会と日本人の考え方」，(13)の「神社とお寺」は，英語の A and B と同じく二つのもの・ことを並べるために「と」が用いられているが，「と」を用いると「それ以外にはない」という含みが生じることがある。そのような含みを生じさせないためには，「や」を用いて，「日本の生活や日本人」「日本の社会や日本人の考え方」「神社やお寺」とする方がよい。同じ並べあげでも，項目すべてを並べあげるのか，例の一部を並べるのか，丁寧に並べあげるのかそうでないのか，といった話し手の気持ちによって，用いられる並立助詞の選択も変わってくる。

9.5 取り立て助詞

1）名詞だけでなく，文中のいろいろな語について，他の事柄との関係を暗

示しながらある事柄を取り立てる助詞を**取り立て助詞**という。国文法で，係助詞，副助詞と呼ばれるものである。

「あんなところへは行かない」「スポーツはやるのは好きだが，…」の「は」，「私も行く」「今日も雨が降っている」の「も」，「子供さえ知っている」「私こそごめんなさい」の「さえ」「こそ」，「君だけを愛する」の「だけ」などが取り立て助詞に属する。他の事柄との関係を暗示しながら取り立てるため，取り立て助詞には対比的な意味合いが加わる。

次の問題文は1．以外は「3時間」のうしろに取り立て助詞がついているが，それぞれの取り立て助詞によって話し手の気持ちが異なっているのがわかる。

【問題】 次の1～6で話し手の気持ちがどう異なるかを考えてください。

1. 夕べ3時間勉強しました。
2. 夕べ3時間ほど勉強しました。
3. 夕べ3時間だけ勉強しました。
4. 夕べ3時間も勉強しました。
5. 夕べ3時間は勉強しました。
6. 夕べ3時間しか勉強しませんでした。

【答】

1. 3時間勉強したという事実を表す。
2. だいたい3時間程度勉強したという気持ちを表す。
3. きっちり3時間で勉強をやめたという気持ちを表す。
4. 勉強した時間が長いという気持ちを表す。
5. 少なくとも3時間勉強したという気持ちを表す。
6. 3時間では不十分だという気持ちを表す。

2）格助詞はもっぱら名詞のうしろに付くが，取り立て助詞は文のいろいろ

なところに現れる。「は」を例にとってみると，次のようになる。

1. 格助詞のうしろ

(1) 日本では野球が盛んだ。

(2) ここには田中さんという人はいない。

(3) 5時からは会議がある。

2. ガ格・ヲ格の代わり〔代行機能〕（「~~が~~は→は」「~~を~~は→は」）

(4) 雨が降っている。風は吹いていない。（←風が吹く。）

(5) 魚は食べるが，肉は食べない。（←魚（肉）を食べる。）

3. 副詞のうしろ

(6) きのうはどうして来なかったの。

(7) 少しは私のことも考えてください。

4. 動詞・形容詞に割って入る（連用形＋取り立て助詞＋する／なる）

(8) 少し苦しみはしたが，安らかな最期だった。

(9) それほど寒くもならなかった。

助詞の結合の順序は，基本的に「格助詞＋取り立て助詞」となる（「だけが」「ばかりが」「までが」のような語順もある）。「東京からが一番近い」のような例を除き，格助詞どうしは基本的には結合できないが，取り立て助詞どうしは結合することができる。

(10) 彼　こそ　は　首相になるべき人だ。

3）「は」は基本的に「他のものはそうではないが」という「対比」の気持ちを表す。

(11) 肉は食べるけど，魚は食べない。

(12) あしたは行きます。

(11)では，肉と魚が対比され，(12)では，「今日は行かないが，あしたなら…」というニュアンスが含まれている。このように「は」を使ったものには，話し手の「対比的取り立て」の気持ちが入る。

しかし，次の例では「対比的取り立て」の気持ちは弱く，単に「こちらは」「私は」と紹介の対象を話題として取り上げているだけである。

(13) こちらはタイのチムさんです。

(14) 私は正夫の父親です。

「は」が表す対比の気持ちには度合いがあり，(13)(14)のように対比の意味が非常に弱い場合は，「は」は主題を表すということになる。《→主題》

「は」と「が」の特徴を比較してまとめると次のようになる。

1. 「は」は「対比的取り立て」を表す取り立て助詞として，話し手の心的態度（ムード）を表す。対比の度合いの低い場合には「主題」を表す。「が」は格助詞（主格助詞）として，動詞と補語（名詞＋格助詞）の論理的関係（コト的な関係）を示す。
2. 「は」は種々の要素につくが，「が」は基本的に名詞にのみつく。また，取り立て助詞「は」は「が」「を」（および「に」の一部）を代行するが，「が」には代行機能はない。
3. 「は」は文全体に大きくかかる。文の境界（ピリオド）を越えて機能することもある。「が」はすぐうしろの述語にかかる。文の境界（ピリオド）を越えて機能することはない。
4. 「XはYが…」という文（例「象は鼻が長い」）では，Xが全体，Yが部

分を表す。

5. 「XはY」は話し手・聞き手にとって既知の事柄Xを取り立て，説明Yを加える**判断文**である（Xに対する適切な説明となる述語を選ぶ述語選択文ともいえる）。「XがY」は事実をそのまま描写する**現象文**，あるいは「Yである」ものをXで指定する文（主語選択文）である。《→現象文・判断文》

(15) 田中さんは
- 高校の先生です。
- ~~35歳です~~。
- ~~親切です~~。
- ~~英語を教えています~~。

：

(16) 田中さん / ~~林さん~~ / ~~小川さん~~ / ： が　行く。

6. 「が」は疑問詞のうしろにつくが，「は」はつかない。
「誰が行く？」／「＊誰は行く？」

7. 「地球は丸い」「1たす1は2だ」のような一般的叙述（一般的・普遍的な事柄の叙述）には「は」が用いられることが多い。

4）「は」以外の取り立て助詞には，次のようなものがある。

「も」

1. 同類の事物の提示・暗示。

(17) 父も母も出かけた。

(18) 私にもください。

2. （疑問詞・数量詞について）数量や範囲の強調を表す。

(19) 10時間も寝た。

(20) 誰もいません。

(21) 一度も行ったことがない。

3. 詠嘆の気持ちをこめて話題を提示する。

(22) 夏休みも終わりだ。

4. （従属節の中で）おおよその例を示す。

(23) ビールは10本もあれば十分でしょう。

「こそ」

1. その事柄を特に際立たせる（特立）

(24) 私こそお礼を言わなければなりません。

2. （「ばこそ」の形で）「これが第一の原因・理由である」ということを表す。

(25) あなたのためを思えばこそ言っているのだ。

3. （「こそあれ」の形で）「これ以外にはあり得ない」という気持ちを表す。

(26) 急激な運動は害こそあれ，益にはならない。

「さえ」

1. 極端な例を挙げて，「他の場合は言うまでもない」という気持ちを表す。

(27) そんなことは子どもさえ知っている。（大人は当然知っている。）

2. 同類の物事がさらにつけ加わる。

(28) 雨が降っているところに，風さえ出てきた。

3. （「さえ～ば」の形で）「これだけで十分」という気持ちを表す。

(29) お金さえあれば，幸せになれる。

「まで」

物事の限界・限度を示す。

(30) 彼までがそんなことを言うとは意外だ。

「だけ」

1. 限定を表す。

(31) 日曜日だけ休む。／休みは日曜日だけです。

2. (「可能形＋だけ」の形で)「可能な限り，めいっぱい」という意味を表す。

(32) やれるだけのことはした。／やれるだけやった。

「しか」

物事がある範囲や程度に限られ，不十分であることを表す。

(33) 日曜日しか休めない。

(34) きのうは3人しか来なかった。

9.6 終助詞・間投助詞

1）文や句の終わりに付いて，疑問や禁止，感動，強調等を表す。典型的なムード表現である。文末につくものは終助詞，句末につくものは間投助詞と呼ばれる。

「か」

1. 問いかけ・質問

(1) 今何時ですか。

2. (「だろうか」の形で）特に答えを要求しない疑いの気持ち

(2) 今何時だろうか。／彼は今ごろ何をしているだろうか。

3. 納得

(3) なるほど，そうだったのか。

4. 反語

(4) もう二度とあんなところに行くか（行くものか)。(絶対に行かない)

5. (「ないか」の形で）勧誘

(5) いっしょに食事に行かないか。／いっしょに食事に行きませんか。

6. （「ないか」の形で）差し迫った命令（丁寧形なし）

(6) もういい加減にしないか。（＊もういい加減にしませんか。）

「ね／ねえ」

1. 確認，念押し

(7) わかりましたね。／仕事，手伝ってね。／さっき言った仕事ね，今日中にお願いね。

2. 感動の気持ち

(8) このコーヒー，なかなかおいしいですね（おいしいですねえ）。

3. （「かね」の形で）問いかけ・質問（男性語，丁寧形なし）

(9) 君，最近調子はどうかね（＊どうですかね）。

4. （「かね／かねえ」の形で）疑い

(10) 一体世の中どうなるのかね（どうなるのかねえ，どうなるんですかね）。

5. 「誰が何と言おうと」という気持ちを込めた主張

(11) 私は絶対に反対ですね。

「な／なあ」

1. 確認，念押し（男性語）

(12) わかったな。

2. 感動の気持ち（丁寧形を用いた場合は男性語）

(13) きれいだなあ。／お腹空いたなあ。

(14) なかなかおもしろいですなあ。（男性語）

3. 「誰が何と言おうと」という気持ちを込めた主張

(15) 僕は，むしろ君が間違っていると思うな。

4. （「～(し)な」の形で）軽い命令（男性語）

(16) ちょっと貸しな。

「よ」

1. 知らせ，言い聞かせ，異議の申し立て

(17) 財布が落ちましたよ。／君は病気なんだよ。

(18) そんなこと，わかってますよ。

2. 命令，禁止，誘いかけの強調

(19) こっちへ来いよ。

(20) 写真をとるから，動かないでよ。

(21) 明日いっしょに映画へ行こうよ。

「な」

禁止

(22) しゃべるな。

「の」

1. やわらかい言い切り（女性語）

(23) タバコやめようと思ってるの。

2. やわらかい質問

(24) どこ行くの。

「わ」

1. 自分の主張・判断を知らせる（女性語）

(25) カレーにするわ。

2. 感心したり驚いた気持ちを大げさに示す

(26) あるわあるわ，小判がざくざく。

「さ」

1. 断定の気持ち

(27) そうさ。／そんなことないさ。

2. 疑問・詰問

(28) どこに行ってたのさ。／だから何なのさ。

3. 聞き手の注意を引こうとする気持ち

(29) でもさ，そうとばかりは言えないよ。

(30) あしたさ，美子とさ，話し合おうと思ってるんだ。

「かな／かしら」

1. 「はっきりとわからない」という疑いの気持ち

(31) 今日は何曜日だったかな（だったかしら）。

2. (「ないかな／ないかしら」の形で)実現の可能性が低いことを望む気持ち

(32) 早く夏休みが来ないかな（来ないかしら）。

「って」

伝聞（話しことば）

(33) 和子ちゃん，結婚するんですって。

2）終助詞は単独で使われる場合と，「よね」「のね」「わね」「のよ」「わよ」「のよね」「わよね」のように，2つ，または3つと重なって使われる場合がある。

(34) このような仕事は誰もやりたがらないのよね。

3）「から」「が」「けど」「のに」なども，話しことばでは，言いさしの表現として，終助詞的に用いられる。

「から」

追加的な軽い理由づけ

(35)　ちょっと待っていてください。すぐ来ますから。

「が／けど」

話題を持ち出す。

(36)　ちょっと話があるんですけど。

(37)　もしもし，山田ですが。

「のに」

実現しないことに対する残念な気持ちを表す。

(38)　そう言ってくれれば，私も行ったのに。

10. 指示詞（コ・ソ・ア・ド）

チェック

次の語を知っていますか。チェックして下さい。

□指示詞（指示語）　□コ・ソ・ア・ド

□現場指示　□文脈指示

1）指示詞は「コ・ソ・ア・ド」とも呼ばれる。指示詞には次のようなものがある。

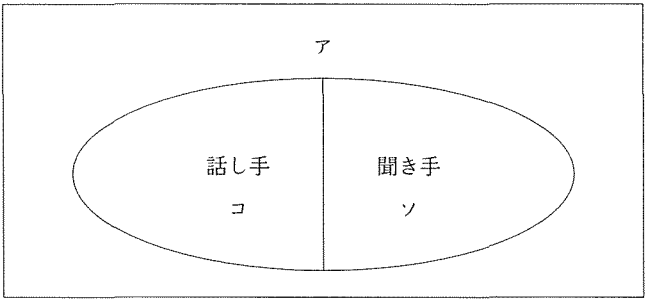
「こ」系列	「そ」系列	「あ」系列	「ど」系列
これ	それ	あれ	どれ
ここ	そこ	あそこ	どこ
こちら	そちら	あちら	どちら
こっち	そっち	あっち	どっち
このN	そのN	あのN	どのN
このように	そのように	あのように	どのように
このようなN	そのようなN	あのようなN	どのようなN
このようにして	そのようにして	あのようにして	どのようにして
こんなN	そんなN	あんなN	どんなN
こんなふうに	そんなふうに	あんなふうに	どんなふうに
こんなふうにして	そんなふうにして	あんなふうにして	どんなふうにして
こんなに	そんなに	あんなに	どんなに
こう	そう	ああ	どう
こういうN	そういうN	ああいうN	どういうN
こうして	そうして	ああして	どうして
こうしたN	そうしたN	ああしたN	どうしたN
こういったN	そういったN	ああいったN	どういったN

これらは大きく,「これ・それ・あれ・どれ」などの指示代名詞,「この・その・あの・どの」「こんな・そんな・あんな・どんな」などの連体詞,「こう・そう・ああ・どう」の副詞に分けられる。

2)「こ・そ・あ」は,実際の現場にあるものを指し示す**現場指示**の用法と,文章や話の中で話題にのぼった事柄を指し示す**文脈指示**の用法とに分けられる。いずれの場合も,「こ・そ・あ」の使い分けは,話題になっている物事が話し手側に属する(話し手の領域にある)か,聞き手側に属する(聞き手の領域にある)かということと関連がある。

現場指示

現場にあるものを指し示す現場指示の場合,原則として,話し手側に属するものは「こ」,聞き手側に属するものは「そ」,いずれの領域からも離れた領域に属するものは「あ」で表される。



また,「これ・それ・あれ」は普通,人間以外のものに使われる。

文脈指示

先行文脈で提示された事柄や,記憶の中の事柄を指す用法を文脈指示という。文脈指示の「こ・そ・あ」の基本的な使い分けは次のようになる。

「こ／＊そ／＊あ」

話し手がこれから話題にしようとする事柄を指す場合は「こ」が用いられる。「そ」「あ」は使えない。

(1) $\left\{\begin{array}{l}\text{これ}\\ *\text{それ}\\ *\text{あれ}\end{array}\right\}$ はここだけの話ですが，実は今度転勤することになったんです。

「こ／そ／＊あ」

話し手が直前に出した話題の中の事柄を指す場合は，「こ」「そ」が用いられる。「あ」は使えない。

(2) 多くの人は宗教に対してある種の憧れを持つ。$\left\{\begin{array}{l}\text{これ}\\ \text{それ}\\ *\text{あれ}\end{array}\right\}$ は，人間には永遠というものを信じたいという自然発生的な感情があるからである。

(3) 我が国の教育は学生が理解できたかどうかより受験勉強に比重を置く教育である。

$\left\{\begin{array}{l}\text{このような}\\ \text{そのような}\\ *\text{あのような}\end{array}\right\}$ やり方は日本の「詰め込み教育」と同じ性格のものだろうか。

「こ」を用いると，その事柄がまさに自分が提供した話題であるという気持ちが表される。一方，「そ」は，客観的な述べ方で，その話題から距離を置いて述べているという感じを与える。

「＊こ／そ／＊あ」

相手が言った（話し手はよく知らない）内容を受けたり，話し手自身が言った（聞き手はよく知らない）話に出てきた事柄を指したりする。また，仮定の事柄を指す場合も「そ」が使われる。

(4) 中国人も日本人と同じように自分のことをはっきり言わないことがある。

しかし，{その／＊この／＊あの} 程度は日本人ほどではない。

(5) A：小さいとき親戚の家によく遊びに行きました。

B：{その／＊この／＊あの} 家はどなたが住んでいたんですか。

(6) A：簡単に宇宙へ行ければいいですね。

B：ええ，{そう／＊こう／＊ああ} なったら素晴らしいですね。

ただし，相手が直前に述べた話題が，話し手自身に関わる問題であることが互いに了解されている場合は「こ」も使える。

(7) A：今度転勤されるそうですね。

B：ええ，そうなんです。でも，{そのこと／このこと／＊あのこと} は，誰にも言わないでください。

「＊こ，＊そ，あ」

1.　話し手と聞き手がともに知っている事柄を指す場合（例(8)）や，記憶中の物事を思い出しながら指す場合（例(9)(10)）は，「あ」が用いられる。後者の場合，感情的・感傷的ニュアンスが加わることもある。

(8)　A：きのうポポへ行ったんですよ。

B：ああ，｛あそこ／＊ここ／＊そこ｝はいい店ですね。

(9)　｛あんな／＊そんな／＊こんな｝やつ，死んでしまえ。

(10)　子供時代は青森で過ごした。｛あのころ／？そのころ／＊このころ｝がなつかしい。

(10)では「そのころ」も可能であるが，「あのころ」に比べると第三者的な視点で述べているという感じになる。

3）先に述べたように，「こ・そ・あ」の使い分けは，話題になっている物事が話し手側に属する（話し手の領域にある）か，聞き手側に属する（聞き手の領域にある）かということと関連する。その意味では，指示詞は話し手の心的態度（ムード）を表すものと言え，学習者には決してやさしい項目ではない。

以下は外国人学習者の誤用の例である。学習者は，以下のように，文脈指示の「そ」が使えないことが多い。

(11) ＊ニューヨークで生まれて18年間あそこで生活しました。(→そこ)

(12) A：このアパートはいくらですか。

B：1か月10万円です。

A：＊えっ，あんなに高いんですか。(→そんなに)

(13) ＊私は小さいとき，親族の家へよく遊びに行ったが，この家はおもしろかったです。(→その)

(14) ＊学校にこわい先生がいました。ある日私が車で学校へ行くと，あの先生がすごく私のことをおこりました。(→その)

11. 従 属 節

チェック

次の語を知っていますか。チェックして下さい。

□従属節	□主節	
□引用節	□名詞節	□連体修飾節
□副詞節	□理由節	□トキ節
□条件節	□目的節	□並立節（並列節）
□接続語	□接続助詞	

一文の中に複数の文を含む文を**複文**という。複数の文を含む文というのは，複数の述語を含む文と言い換えることができる。全体の中心となる文を**主節**（**主文**），他の文を**従属節**（**従属文**）という。

従属節は主節と様々な関係で結び付くが，その結び付き方・意味関係で，**引用節**，**名詞節**，**連体修飾節**，**副詞節**の四つに分類される。《→単文・複文》

1. 引用節（～と，～かどうか）

(1) 日本語は難しいと思う。

(2) 彼は今日は行かないと言った。

(3) 田中さんがこれはいい辞書かどうか聞いた。

2. 名詞節（～こと，～の，～ところ）

(4) 一人でテレビゲームをするのが好きだ。

(5) アメリカに留学することを決意した。

(6) まさに逃げようとしているところを捕まえた。

3. 連体修飾節（名詞を修飾）

(7) きのう行った店はなかなか良かった。

(8) ヘリコプターが飛ぶ爆音が聞こえてきた。

4. 副詞節（主節全体，または主節の述語を修飾）

(9) わからなければ，聞いて下さい。

(10) 忘れないように，メモしておく。

(11) 風が強いので，窓が開けられない。

(12) 給料も安いし，いい男でもないし，今度の見合いはパスしよう。

11.1 引用節

引用節は，大きく次の 4 つのタイプに分かれる。

1. 「と思う」「と思っている」を用いて，話し手が話し手自身，または第三者の考え・気持ちを述べるもの。

(1) 私は日本語は難しいと思う。／彼は日本語は難しいと思っている。

2. 話し手が話し手自身，または第三者の言ったことを伝えるもの。

(2) 彼は今日は行かないと言った。

3. 疑問文が主節の中に取り込まれているもの（間接疑問文）

(3) a. 今晩田中さんが来るかどうかわからない。

b. 田中さんがいつ来るか教えてください。

4. 「名詞 1 という名詞 2 」の形で，名詞 1 で表される事物を新規に話題に導入したり，名詞 1 で表される事物の性質をあらためて定義したりするもの。

(4) 私の友人に浜崎という人がいる。

(5) 東京という町は本当におもしろい町だ。

「と思う」

1)「と思う」は「あの人は立派だと思う」のように，話し手の意見・考えを述べたり，伝えたりするときに用いられる。「と思う」の前には，動詞・形容詞・名詞述語の普通体が来る。

「と思う」は意見・考えを述べるだけでなく，「彼女と結婚したいと思う」「彼と結婚しようと思う」のように，願望の「たい」や意志を表す「(し) よう」と結び付いて，話し手の気持ちを表すために用いられることもある。

2)「と思う」は話し手のその場の考えや気持ちを述べる表現である。第三者の考えや気持ちを述べるとき，あるいは話し手が発話時以前からその気持ちや考えでいることを述べるときには，「と思っている」が用いられる。

(6) a. 父は死ぬと思う。

(→私は「父は死ぬ」と思う。)

b. 父は死ぬと思っている。

(→第三者が「父は死ぬ」と思っている。私は以前から「父は死ぬ」と思っている。)

(寺村秀夫 (1981) から引用)

3)「と思う」に関する学習者の困難点は次の 3 つである。

1. 否定の表し方

英語を母語とする学習者は，I don't think ～ の形式に引きずられて「～と思いません」としてしまいがちである。

(7)？日本語はむずかしいと思いません。

（→日本語はむずかしくないと思います。）

日本語が難しいか否かについて単純に自分の考えを述べるのであれば，引用節の中を否定にして「難しくないと思う」にすべきである。「難しいと（は）思わない」が自然になるのは，誰かが「日本語は難しい」と言ったことに対して，「自分はそうは思わない」と反論する場合である。

2. 「思う」と「思っている」の使い分け

先に述べた「と思う」と「と思っている」の違いは学習者にはわかりにくく，「思う」「思っている」を逆に使用する誤用が見られる。

(8)？あの人はいつも自分が他の人よりえらいと思う。（→思っている）

(9)？将来何が起こるかは，想像できないことだと思っている。（→思う）

3. 主節と引用節内のテンス・アスペクト

引用節のテンス・アスペクトについては，英語のように時制の一致のある言語を母語とする学習者が混乱しやすいようである。「彼が来ると思う。」「彼が来たと思う。」あたりはよいが，「彼が来ると思った。」になると，I thought he came. という英語式の表現に引きずられて，「彼が来たと思った。」と言うべきだと主張する学習者が出てくる。

【問題】 1～4の違いを考えてください。

1. 彼が来ると思う。
2. 彼が来たと思う。
3. 彼が来ると思った。
4. 彼が来たと思った。

3，4では，「思った」時点で「彼が来る」ことが完了しているか否かで，「来る」「来た」が使い分けられている。

【答】

1. 話し手は現時点で「(これから) 彼が来る」と思っている。
2. 話し手は現時点で「彼が (もう) 来た」と思っている。
3. 話し手はある過去の時点で「彼が来る」と思った。
4. 話し手はある過去の時点で「(もう) 彼が来た」と思った。

「と言う」

1)「と言う」には，ある人が言ったことばをそのまま引用する**直接話法**と，ある人が言ったことばを話し手の視点から言い直して伝える**間接話法**がある。直接話法は，言った通りを引用することによって発言を再現する働きを持つ。間接話法の場合，「と言う」の前は普通体が来る。

(10) (リーさんの昨日の発言を引用して)

a. リーさんは「明日あなたの家に行きます」と言いました。〔直接話法〕

b. リーさんは今日私の家に来ると言いました。〔間接話法〕

伝える内容が依頼や命令の場合，間接話法は「～ように」の形をとる。

(11) a. 先生に「もっとがんばりなさい」と言われました。〔直接話法〕

b. 先生にもっとがんばるように言われました。〔間接話法〕

(12) a. リーさんに「すぐ来てください」と言ってください。〔直接話法〕

b. リーさんにすぐ来るように言ってください。〔間接話法〕

2)「と言う」は，状況に応じて，「と言った」「と言っている」「と言っていた」になる。

(13)　山田さんは会議に出ないと言った。

(14)　山田さんは会議に出ないと言っている。

(15)　山田さんは会議に出ないと言っていた。

(13)は,「言う」という行為の実現に重点を置いた言い方である。

これに対し,(14)は,「会議に出ない」という発言内容の提示に重点を置いており,かつ,発言内容を現在と関連するものとして提示している。現在との結び付きが強いことから,場合によっては「だから,どうしましょうか」と聞き手に働きかける働きを持つ。

(15)は(14)とよく似ているが,過去のある時点に発言行為をおこなっていたことを述べる文なので,現在との結び付きが弱くなり,相手への働きかけ・示唆も弱くなる。

第三者のメッセージを人に伝える場合は,「言っている」「言っていた」の形をとるのが普通である。(16)(17)は学習者が作った文である。

(16)？林さんが来てくださいと言いました。(→言っています)

(17)？田中さんがどうぞよろしくと言いました。(→言っていました)

(17)は,林さんのメッセージの内容を相手に伝えることに主眼を置いた文であり,行為の実現に重点を置いているわけではないので,「言っている」を使ったほうがよい。(17)も,相手に田中さんのメッセージを伝えているが,必ずしも現時点とは関係しない内容なので「言っていた」を使ったほうがよい。

間接疑問(疑問引用)

1)間接疑問(疑問引用)は,疑問文が主節の中に埋め込まれているものである。

間接疑問には,疑問詞がある場合とない場合とがある。疑問詞がある場合は「疑問詞～か」という形をとり,疑問詞がない場合は「～かどうか」(書

きことばでは「～か否か」）という形をとる。後者は「どうか」が省略されることも多い。

(18) 田中さんは何時に来るかわかりません。
(19) 田中さんが会議に来るかどうか知っていますか。
　　田中さんが会議に来るか否かで予定が変わる。
(20) 田中さんが会議に来るか知っていますか。

2）間接疑問は助詞をともなって文の構成要素になる。その場合，どの助詞を使ったらよいかが学習者にはわかりにくい。

(21) 田中さんがいつ来るか（を）知っていますか。
(22) 田中さんがいつ来るか（が）わかりますか。
(23) 田中さんがいつ来るか（は）わかりません。
(24) 田中さんがいつ来るか（を）教えてください。

間接疑問のうしろの助詞は省略されることが多いが，書きことばや(25)のようなときは省略されにくいので注意が必要である。

(25) 田中さんがいつ来るかが問題だ。

「名詞１という名詞２」

「名詞１という名詞２」は大きく二つのタイプに分けられる。一つは，(26)～(28)のように，「山本さんという人」「アコという店」「プリシラという薬」のように，聞き手があまり知らない（と話し手が思っている）事柄やものを提示するものである。この場合，名詞１には「山本さん，アコ，プリシラ」のような固有名詞が，また「名詞２」には「人，店，薬」のようなカテゴリーを表す名詞が来ることが多い。

(26) 山本さんという人から電話がありました。

(27) まっすぐ行って右に曲がると，角にアコという店があります。

(28) 風邪ですか。それなら，プリシラという薬がよく効きますよ。

もう一つは，「教師という仕事にやりがいを感じる。」「あなたという人は本当に変わった人ですね。」のように，「名詞1という名詞2」の形で，名詞1で表されるものに対して，新たに説明をし直すものである。(29)(30)のように，名詞2は「の」「こと」のような形式名詞のこともある。この場合，名詞1（この場合「人間，男女平等」）の性質をあらためて定義し直すという意味がさらに強くなる。

(29) 人間というのはやっかいな生き物だ。

(30) 男女平等ということは一見もっともなようだが，不都合な点も多い。

11.2 名詞節

1）次の(1)(2)の下線部のように，文に「の」「こと」「ところ」をつけて全体が名詞相当になった（名詞化した）ものを**名詞節**という。名詞節内に「は」は現れにくく，主語は「が」または「の」で表される。

(1) 私は　水泳／泳ぐこと／泳ぐの　が好きです。

(2) 田中さんが来ないこと／田中さんが来ないの　は大変残念なことだ。

＊田中さんは来ないこと／＊田中さんは来ないの　は大変残念なことだ。

(3) 田中さんの来ないことを知っていますか。

名詞節は名詞と同じく，いろいろな格助詞をとる。

(4) a．田中さんが来ないことを知っていましたか。

b．田中さんが来ないことで騒ぎが起きています。

c．田中さんが来ないことが問題なのだ。

2）名詞節をとる文に関する学習者の誤用の最たるものは,「名詞1は名詞節だ」の形の文で，名詞節の部分で「こと」「の」を使わないことである。(5)(6)はその典型的な例である。

(5)＊私の趣味は本を読みます。(→私の趣味は本を読むことです。)

(6)＊日本へ来て一番困ったことは,日本語がぜんぜんわかりませんでした。
(→日本へ来て一番困ったことは，日本語がぜんぜんわからないことでした。)

3）「こと」と「の」は,「日本語を話す｛こと／の｝は難しい」「彼女が結婚する｛こと／の｝を知っていますか」のように置き換え可能な場合が多いが,「こと」しか，あるいは「の」しか使えない場合もある。

1.「こと」しか使えない場合

〔「決める，約束する，求める，命じる」などの動詞〕

(7) 大学院に進む｛こと／＊の｝に決めた。

(8) いっしょに旅行に行く｛こと／＊の｝を約束した。

(9) 男女平等の賃金が支払われる｛こと／＊の｝を求めます。

(10) 男女平等の賃金を支払う｛こと／＊の｝を命じます。

〔名詞文の述語〕

(11) 私の趣味は写真をとる｛こと／＊の｝です。

〔～することができる，～することにする，～ことになる，～することがある，～したことがある〕

(12) チョンさんは日本語を話す｛こと／＊の｝ができる。

(13) やっぱり結婚する｛こと／＊の｝にしました。

(14) 今度結婚する｛こと／＊の｝になりました。

(15) 福岡へ行く｛こと／＊の｝があったら，ぜひラーメンを食べてください。（機会）

(16) 今までに二，三度福岡へ行った｛こと／＊の｝がある。（経験）

2. 「の」しか使えない場合

〔「見える，見る，聞こえる，聞く，感じる」などの知覚を表す動詞〕

(17) ここから子供たちが遊んでいる｛の／＊こと｝が見える。

(18) 彼の心が離れていく｛の／＊こと｝を感じる。

〔「手伝う，待つ，じゃまする」などの動詞〕

(19) 妻が料理を作る｛の／＊こと｝を手伝う。

(20) 彼が来る｛の／＊こと｝をじっと待っている

(21) 子供は私が寝ようとする｛の／＊こと｝をいつもじゃまする。

「こと」と「の」の使い分けは微妙な場合もある。次にその例をいくつか示す。

1. 「の」のほうがよく使われる場合

〔やめる，とめる〕

(22) 彼と付き合う｛の／？こと｝をやめる。

(23) 彼が彼女と結婚する｛の／？こと｝をとめた。

〔上手だ〕

(24) 彼女は日本舞踊を踊る｛の／？こと｝がとても上手だ。

2. 「こと」のほうがよく使われる場合

〔望む〕

(25) 彼女と結婚する｛こと／？の｝を望む。

〔大切だ〕

(26) 十分睡眠をとる｛こと／？の｝が大切だ。

11.3 連体修飾節

1）連体修飾節は，うしろに続く名詞を限定・修飾する節のことである。

(1) 彼は私が貸したお金をなかなか返さない。

(2) 環境にやさしい石鹸として売られている。

(3) これは今人気のゲームだ。

連体修飾節内では「は」は使いにくい。主語は通常「が」で表されるが，(4)のように修飾節が短いときは「が」が「の」に変わることもある。

(4) 彼は私の貸したお金をなかなか返さない。

2）(5)〜(7)のような連体修飾節の場合，うしろに続く名詞（被修飾名詞）を主題や補語にして文を作ることができる。このような連体修飾節を**ウチの関係**の連体修飾節と呼ぶ。

(5) 私が貸したお金　（→私がお金を貸した。）

(6) 環境にやさしい石鹸　（→（その）石鹸は環境にやさしい。）

(7) 今人気のゲーム　（→（その）ゲームは今人気だ。）

一方，(8)(9)のような連体修飾節は，単に被修飾名詞の内容を具体的に述べているだけで，被修飾名詞を主題や補語にして文を作ることができない。このような連体修飾節を**ソトの関係**の連体修飾節と呼ぶ。

(8) ヘリコプターが飛ぶ爆音が聞こえてきた。

(9) 彼は国へ帰る決心をした。

3）動作動詞の場合，連体修飾節内のル形とタ形は「非過去―過去」を表す場合と，「未完了―完了」を表す場合とがある。

《→テンス・アスペクト，単文・複文》

(10) きのう行った店はなかなかいい店だった。　〔過去〕

(11) あした行く店はなかなかいい店だそうだよ。　〔非過去〕

(12) 明日の試合で勝ったチームが本選に進める。　〔完了〕

(13) 昨日の試合で勝つチームを予想するのは難しかった。〔未完了〕

次のようにル形・タ形の両方が使える場合もあるが，意味が異なるので注意が必要である。

(14) a．電車に乗り込む老人が私のほうを見た。　〔未完了〕

（「私のほうを見た」時点では老人は電車に乗り込もうとしているところ）

b．電車に乗り込んだ老人が私のほうを見た。　〔完了〕

（「私のほうを見た」時点で老人はすでに電車に乗り込んでいる）

(15)(16)のように，主節の述語が過去を表し，従属節の述語が「ている」や状態性述語の場合は，ル形でもタ形でも，主節の出来事と同時に存在する状態

を表すことができる。

(15) a．座席に座っている老人が私のほうを見た。

b．座席に座っていた老人が私のほうを見た。

(16) a．そばにいる人に声をかけた。

b．そばにいた人に声をかけた。

(15)(16)の連体修飾節に用いられている述語は両方とも状態を表している。

一方，次のように主節とは関係せず，連体修飾節では「した」を用いて状態を表す場合もある。

(17) 派手なネクタイを締めた（締めている）男が椅子に座っている。

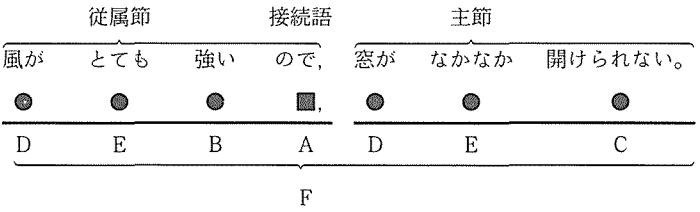
(18) めがねをかけた（かけている）男はあまり好きではない。

11.4 副詞節

1）副詞と同じように述語を修飾する従属節を**副詞節**と呼ぶ。副詞節には，「から，ので，ため（に）」などの**接続語**（本書では，接続助詞を含めた，従属節（副詞節）と主節を結ぶ接続形式を接続語と呼ぶ。接続詞との違いに注意。）をともなって理由を表す**理由節**，「のに，ため（に），ように」などをともなって目的を表す**目的節**，「とき，ころ，あいだ」などをともなって時間を表す**トキ節**，「たら，れば，と」などをともなう**条件節**，「のに，ても，ながら，にもかかわらず」などの譲歩・逆接を表す**逆接節**がある。《→接続詞》

副詞節は，従属節が連用修飾句となって主節にかかる。これに対し，「妻が料理を作り，夫が食器を洗う。」「彼が詩を作って，彼女が曲をつける。」のような文は，従属節が主節と対等の関係に立つとして，**並立節（並列節）**と呼ばれることがある。従属節と主節が対等の関係にあるかどうかの判断は難しいこともあるので，本書では並立節も副詞節に含める。

2）外国人学習者の従属節の習得において，ポイントとなるのは次のA～Fである。



A　接続語そのものに関するもの

・適切な接続語が使われているか。

・接続語の意味・用法が正確に理解されているか。

B　接続語の前に来る要素

・品詞の種類（動詞か，形容詞か，名詞か。助詞も置くことができるか。）

・適切な活用形が選ばれているか。

・テンス・アスペクト，肯定・否定等の制約があるか。

C　主節の文末表現とムード表現

・接続語に適した文末表現やムード表現が使われているか。

D　主語・主題

・従属節と主節の主語が同じか違うか。

・主語は主題化できるか否か。

・主語・主題が省略されるか否か。

E　副詞

・適切な副詞が使われているか。

・副詞と述語の呼応が正しくなされているか。

・副詞の文中での位置は正しいか。

F　語順

・従属節の文，主節の文それぞれにおいて，また，両者にわたって正

しい語順であるか。

学習者の誤用も，以上のＡ～Ｆに関係するものが多い。

11.4.1　理由節

１）従属節が主節に対して理由・原因を表すものである。「から」「ので」「ため（に）」「て」がその主なものである。

(1)　もう遅いから，急げ。

(2)　自転車がパンクしたので，修理してもらいました。

(3)　信号機の故障のため（に），電車がとまってしまった。

(4)　きのうは隣の部屋がうるさくて，寝られなかった。

２）理由節に共通して見られる学習者の誤りは，従属節と主節の逆転である。「おなかが痛いから，授業を休む。」というように，日本語では，理由が先に来て結果がうしろに来るが，初歩の学習者は，「授業を休むから，おなかが痛いです。」のように，理由と結果を逆にすることがある。母語の語順の影響によるものと思われるが，中級レベルでもうっかり出てしまう誤りなので，注意させておく必要がある。

３）「から」は会話の中で終助詞的に使われることが多い。理由をちょっと添えるという程度の表現で，「Ｓ１から，Ｓ２」の「から」のように論理的な因果関係を表すものではない。

(5)　ちょっと待ってください。すぐ来ますから。

「から」ほどではないが，「ので」も終助詞的に用いられることがある。

(6)　あとで来ていただければありがたいんですが。今取り込んでおりますので。

この終助詞的「から」や「ので」の使い方も，外国人学習者にはなかなかわかりにくい点である。《→終助詞》

11.4.2　トキ節

1）主節の動作，行為，状態の起こった時間を表す従属節である。トキ節を作る接続語には，「とき（に）」「てから」「あと（に）」「前（に）」「うちに」などがある。トキ節内に主語が現れるときは通常「が」をとる。

(7)　仕事が終わってから，スポーツジムに行く。

(8)　手紙を書くときに，いつもこのペンを使ってください。

(9)　運動したあと（に），栄養ドリンクを飲む。

(10)　日本に来る前（に），日本のことをいろいろ勉強した。

(11)　a．さめないうちに，どうぞお飲みください。

　　b．勉強しているうちに，眠ってしまった。

2）トキ節で学習者の問題点となるのは，接続語（「とき（に），てから，あと（に），前（に），うちに」）の前に来る動詞・形容詞・名詞述語（名詞＋だ）の活用形，およびテンス・アスペクトである。

「から」は直前にテ形，「あと（に）」はタ形，「前（に）」はル形をとる。「うちに」の前にはタ形は来ない。また，「あと」「前」に名詞が付くと「名詞＋の」となる。

「とき」の場合は，その動作が発話時点で完了しているかしていないかでル形とタ形が使い分けられる。《→単文・複文，テンス・アスペクト》

3）学習者にとってのもう一つの問題点は，接続語のうしろに来る助詞である。具体的には，「ときは／ときに」，「あとで／あとに」，「前に／前は／前か

ら」,「うちに／うちは」の意味の違いが問題になる。

基本的には,「に」がつくとある一つの時点（トキのポイント）を表す。そして，主節では，その時点で何をした／するという，動作・事態の発生などが述べられることが多い。

一方,「は」が付くと，従属節が主題的になるため，主節では，動作・事態の発生よりむしろ一般論が述べられることが多い。

(12) a．運動したあとに，栄養ドリンクを飲む。
　　b．運動したあとは，体が軽く感じられる。

11.4.3 条件節

1）主節の内容が成立するための条件を示す従属節である。条件節内に主語が現れるときは，通常「が」をとる。

条件には，**順接条件**「と，（れ）ば，たら，なら」と**逆接条件**「ても」があるが，ここでは順接条件を取り上げる。

(13) スイッチを入れると，モータが動き出す。
(14) わからなければ，係員に聞いてください。
(15) あした雨が降ったら，試合は中止です。
(16) 北海道に行くのなら，車の免許を取っておいたほうがいいよ。

上の例は仮定条件を表す文であるが,「たら」「と」は既定条件（すでに起こった事柄）を表すこともができる。

(17) ドアを開けると，見知らぬ男が立っていた。
(18) ドアを開けたら，見知らぬ男が立っていた。

「たら」には，条件というよりむしろトキを表す用法もある。

(19)　食事がすんだら，私の部屋に来てください。（＝食事がすんだあとで）

2）条件節に関する学習者の問題は，「たら」「(れ) ば」「と」そして「なら」の使い分けである。

「たら」「(れ) ば」「と」と「なら」との違いは，前者が「従属節における事態→主節における事態」という時間の前後関係があるのに対し，「なら」には特にそのような時間関係がない点である。

(20)　北海道へ行ったら／行けば／行くと，必ず襟裳岬に出かけます。

(21)　北海道へ行くなら，セーターを2，3枚余分に持っていったほうがいいよ。

(20)では「北海道へ行く→襟裳岬へ行く」という時間的順序が存在する。(21)は「北海道へ行く」と「セーターを持っていく」は同時的な出来事であり，時間的な前後関係はない。

「たら」と「(れ) ば」「と」との違いは，主節末に意志表現や命令表現が現れやすいか否かという点である。「たら」は主節末に意志表現や命令表現をとることができるが，「(れ) ば」「と」は主節末に意志表現は現れにくい。

(22)　旅館に着いたら，一杯やろう。

(23)？旅館に着けば，一杯やろう。

(24)？旅館に着くと，一杯やろう。

(25)　部屋に入ったらコートを脱ぎなさい。

(26)？部屋に入ればコートを脱ぎなさい。

(27)？部屋に入るとコートを脱ぎなさい。

ただし，従属節が状態性述語の場合は，「(れ) ば」のうしろに意志表現が来ることができる。

(28) 暑ければ，海で泳ごう。
(29)？暑いと，海で泳ごう。

(30) 暑ければ，コートを脱ぎなさい。
(31)？暑いと，コートを脱ぎなさい。

3）その他の「たら」「(れ) ば」「と」の特徴は次の通りである。

「たら」　：従属節の内容と主節の内容の関係は，特定の一回きりの事態である。
「(れ) ば」：従属節の内容と主節の内容との間に，法則的な依存関係がある。
「と」　　：従属節の内容と主節の内容との間に，一般的な依存関係（因果関係）がある。

11.4.4 目的節

1）主節が表す事柄の目的を表す従属節である。

(32) 生活費の足しにするため(に)，アルバイトをしている。
(33) 日本語がもっと上手に話せるよう(に)，いつもテープを聞いています。
(34) 渋谷に行くには，何線が一番便利ですか。
(35) このバスは東京駅に行くのに便利だ。

2）学習者は目的節の「ために」と理由節の「ために」とを混同する。「留学するために日本へ来た。」の「ために」は目的を表すが，日本へ来る理由を表すとも解することができる。このように目的と理由には連続性がある。（しかし，タ形を用いて「留学したために…」とすると理由・原因しか表さない。）

学習者は目的節の「ために」と「ように」を必ずといっていいぐらい混同する。「ために」の前には意志を表す動詞，「ように」の前には可能形などの状態を表す動詞が来ることが多い。「ように」は「結果としてそのような状態になる」ということを表す。

(36) スワヒリ語を習得するために，勉強する。

(37) スワヒリ語が話せるように，勉強する。

「ように」の前には意志動詞が来ることもあるが，その場合も，「ように」の本来の意味である「結果として～するという状態になる」という意味で用いられている。

(38) 子供が勉強するように，親が子供部屋を片づける。

3）「には」と「のに」の使い分けも学習者には難しい。「には」が目的節を主題として，主節に比較的長い判断文を持って来ることができるのに対し，「のに」は主節に「使う」「便利だ」「ふさわしい」などの述語が来る比較的短い文しか来られない。（この場合，「のに」は動詞「使う」，形容詞「便利だ，ふさわしい」などの補語であるとも考えられる。）

(39) 教育改革をするには，まず現場の先生方の意見を集め，それを専門家を加えた検討会で協議し，…。

(40) 今が教育改革をするのにふさわしい時期である。

11.4.5　逆接節

従属節が主節に対して，譲歩，反対，対比の条件を示すものである。

(41)　このセーターは色はいいが，デザインが古くさい。
(42)　彼に話したけれど，聞いてくれなかった。
(43)　雨が降っても，決行します。
(44)　みんなが反対しているのに，彼女はあの男と結婚してしまった。

1）「が，けれども（けれど，けど）」と「のに」は，前者が個別的な事柄での逆接関係を示すのに対し，後者は常識的・一般的な見方に反する結果が生じたことを示す。そのため，「のに」は現状が予想と異なることに対する不満・不審の気持ち・評価を表すことが多い。

(45)　雨が降っているが（降っているけれど），彼は出かけていった。
(46)　雨が降っているのに，彼は出かけていった。

また，「のに」と「ても」も意味が異なる。「のに」は未定の（まだ実現していない）事柄には使われにくく，既定（今行われているか，すでに行われた）事柄に使われる。一方，「ても」は未定・既定どちらの事柄にも使われるが，どちらかと言えば未定の事柄に使われることが多く，個別的な事柄より一般的な事柄に使われることの方が多い。(44)と次の(44)' を比べても，「のに」と「ても」の違いがわかる。

(44)' みんなが反対しても（反対していても），彼女はあの男と結婚するだろう。

ただし，(47)のように，「ても」は「疑問詞～ても」の形で既定の事柄について用いることもできる。

(47)　いくら待っても，山田さんは来なかった。

11.4.6　並立節（並列節）

従属節が主節と対等の関係に立つものを**並立節（並列節）**と言う。ここでは「Ｓ１＋接続語，Ｓ２」「Ｓ１＋接続語，Ｓ２＋接続語，Ｓ３」という形式について説明する。

1.　テ形による名詞文・形容詞文・動詞文の並立節

(48)　ａ．彼は大学の教授で，評論家だ。

　　ｂ．奥さんが社長で，ご主人が会計だ。

(49)　あのスーパーは安くて，品物が豊富だ。

(50)　夫が料理を作って，私が食べる。

2.　連用中止形による形容詞文・動詞文の並立節

(51)　あのスーパーは安く，品物が豊富だ。

(52)　夫が料理を作り，私が食べる。

3.「たり」や「し」

(53)　日曜日は洗濯したり，掃除したり，買い物に行ったりします。

(54)　あの店は値段も安いし，雰囲気も良い。

テ形による並立節と連用中止による並立節では，テ形のほうが各節の連続性が強く，連用中止のほうが独立性が強い。また，文体上は連用中止による並立節のほうが書きことば的である。単調さを避けるために，文章の中では，

(55)のように，テ形（一重下線）と連用中止（二重下線）による並立節とが併用されることが多い。

(55) …八階天井のはりに頭をぶつけ，はりとエスカレーターのベルトに首をはさまれて，宙づり状態になってしまったのである。数分後に地下一階から保安係員が駆けつけて，エスカレーターを逆回転させ，救出したが，少女は病院で死亡した。

（柳田邦男『死角』，新潮文庫）

12. 副　　詞

チェック

次の語を知っていますか。チェックして下さい。

□様態の副詞　□程度の副詞　□量の副詞
□頻度の副詞　□テンス・アスペクトの副詞
□陳述の副詞　□評価の副詞
□文副詞　□呼応

1）副詞は主として，述語や文，または他の副詞を修飾する。(1)は述語を，(2)は文を，(3)は他の副詞を修飾している例である。

(1)　大変寒い。／すぐ行く。
(2)　幸いけが人はいなかった。
(3)　もっとゆっくり話して下さい。

副詞は必ずしも文の構成上必須の要素ではなく，それがなくても文は成り立つ。

また，副詞は客観的な意味（コト的な意味）を表すものから，話し手の主観的な判断（ムード的な意味）を表すものまで非常に多岐に渡り，かつ両者は連続的である。

2）日本語教育の立場から，副詞はどのように分類して指導するのが良いのであろうか。それを考えるために，外国人学習者が，副詞についてどのような誤りをおかしやすいかを考えてみる。

1. 呼応関係がつくれない。

〔肯定・否定〕

(4)＊日本語はあまり難しいです。(→日本語はあまり難しくないです。)

〔ムード〕

(5)？東京へ行ったら，田川先生を必ず訪ねたほうがよい。

(→田川先生を必ず訪ねなさい。)　　(副詞と文末表現との呼応)

(6)？講演会があるとき，必ず聞きに行きます。

(→後援会があるときは，必ず聞きに行きます。)

(副詞と取り立て助詞)

〔接続語（接続助詞)〕

(7)＊あまり食べすぎておなかが痛くなるよ。(→あまり食べすぎると)

2. 文中での位置が不正確。

(8)＊そのような質問にはほとんど答えられる人間がいない。

(→そのような質問には答えられる人間がほとんどいない。)

3. 意味を取り違えたり，類似の意味の副詞との使い分けができない。

(9)＊私が彼に会うときは，きっと雨が降る。(→いつも)

(10)＊もう一度連絡して下さい，確かに連絡したほうがいいです。(→確実に)

4. 文体的な特徴（書きことば的か話しことば的か，フォーマルかカジュアルかなど）がわからない。

(11)？日本は工業や技術が非常に進んでいる。私が来日してからも新製品がいっぱい作られた。(→たくさん／数多く作られた)

5. 形容詞の副詞的用法で語形変化を間違える。

(12) ＊あした早くに来てください。(→早く)

上記1. にあげた例は,「あまり, ぜんぜん」などの副詞は否定と呼応する,「(た) ほうがいい」というムード表現には「必ず」はふさわしくない,「～とき」に「必ず」が続く場合は「～ときは必ず」になりやすい, といった副詞と取り立て助詞との関係付けが, 学習者には難しいことを示している。2. の副詞の文中での位置, 3. の意味・用法の使い分けなどももちろん重要であるが, やはり最も大切なのは, 副詞と他の要素との関係付けである。

以下は, 益岡隆志・田窪行則 (1992) の分類を基本にして, 学習者の誤用を考慮して試みた副詞の分類である。(代表的な副詞のみをあげる。)

1. 様態の副詞

動作の様態や, 対象の結果状態を表す。

(1) ゆっくり歩く。

(2) 堂々と自分の意見を言う。

(3) じっと　静かに聞いている。

(4) はっきり返事をしてください。

(5) ぐっすり眠っている。

(6) 机の上をきれいに掃除する。

2. 程度・量の副詞

「大変, とても, 一番, ずっと, さらに」のように程度のみを表すもの,「たくさん」のように量のみを表すもの,「少し, ずいぶん, かなり, だいぶ, 相当, だいたい, もっと, あまり, ほとんど」のように程度と量の両方を表すものがある。

程　　度	量
(1)　大変よくできました。	
(2)　とてもきれいだ。	
(3)　世界で一番暑い日。	
(4)　日本のほうがずっと寒い。	
(5)　塩を加えるとさらにおいしくなる。	
(6)　この試験は少し難しい。	(7)　ご飯を少し盛ってください。
(8)　ずいぶん重いですね。	(9)　ずいぶん詰め込みましたね。
(10)　かなりいい線を行っていますね。	(11)　かなり灰が降ったようだ。
(12)　だいぶよくなりましたね。	(13)　人がだいぶ減ってきた。
(14)　怪我の程度は相当ひどい。	(15)　お金を相当注ぎこんだようですよ。
(16)　だいたいおいしくできた。	(17)　だいたい全員揃いました。
(18)　もっと大きく書いてください。	(19)　いい本をもっと読みたい。
(20)　このカレーはあまり辛くない。	(21)　きょうはあまり食べられなかった。
(22)　祖母はほとんど苦しまずに死んだ。	(23)　ワインをほとんど１本飲んだ。
	(24)　どうぞ，たくさん食べてください。

3.　関わりの副詞

文中の他の要素と呼応する形で用いられる副詞。以下のような種類がある。

〔テンス・アスペクトに関わるもの〕

(1)　かつて（かって）地球は海だった。

(2)　春がもうすぐやってくる。

(3)　これからどんどん暑くなりますよ。

(4)　さきほどお電話した者ですが。

(5)　今にも雨が降りそうだ。

(6)　そのことはすでに多くの人が知っている。

(7)　準備はもう終わりました。

(8)　ちょうどお電話しようと思っていたところです。

(9)　朝ご飯をまだ食べていない。／まだ前のアパートに住んでいる。

(10)　卒業以来，ずっと同じ会社に勤めている。

(11) 日本語がだんだん難しくなってきた。

(12) とうとう死んでしまった。

(13) ついに3K登頂を果たした。

(14) やっと一学期が終わった。

(15) きのうはじめておすしを食べた。

(16) 試験が終わったら，まず，新宿に行って映画を見たい。

(17) また遊びに来てください。

〔頻度に関わるもの〕

(18) 彼女はいつもにこにこと笑顔を絶やさない。

(19) 年上の人には敬語を使うように常に気をつけている。

(20) 朝ご飯はたいていトーストとコーヒーです。

(21) 若いころはよく遊び回ったものだ。

(22) 自己を過信する者はしばしば失敗をする。

(23) 両親に時々手紙を書く。

〔述語否定との呼応〕

(24) 日本語があまり話せない。

(25) フランス語が全然わからない。

(26) 夫は家事を全く手伝ってくれない。

(27) 10年前と少しも変わっていない。

(28) 彼女は料理にほとんど手をつけなかった。

〔ムード（意志，命令，不確実性など）に関わるもの〕

(29) きっと来てくださいね。／きっと勝ちます。

(30) ぜひ一度おじゃましたいと思います。／ぜひいらっしゃってください。

(31) 彼はたしかお金を持っていないんじゃないか。／たしか彼は今年還暦のはずだ。

(32) ええ，確かにそう言いましたよ。

(33) 今晩はたぶん大雨になるだろう。

(34) もしかしたら彼が盗んだのかもしれない。

(35) まるでその場に居合わせたようだ。

(36) 出来心でつい盗んでしまいました。

(37) 彼にはどうしても（絶対に）負けられない。

(38) どうも変だなあ。／どうも風邪を引いたらしい。

(39) なんだかいやな気分になってきたわ。

(40) まるで人形のようだ。

(41) なんてきれいな人だろう。

(42) よほど嬉しかったらしい。／よほど嬉しかったと見える。

〔接続助詞に関わるもの〕

(43) あまりに忙しいと，能率が悪くなってくる。

(44) せっかく作ったのに，だれも食べてくれなかった。

(45) せめて一言でも声をかけていたら，こんなことにはならなかっただろう。

(46) もし雨が降ったら，この袋が役に立つはずだ。

(47) いくら頼んでも聞いてくれない。

4. 独立の副詞

発話内容に対する話し手の評価や，発言に際しての話し手の姿勢や態度を表す。**文副詞**とも呼ばれ，文全体に関わるものとして文頭に来ることが多い。

〔評価を表す副詞〕

(1) 当然何らかの覚悟はしているはずだ。

(2) あいにく留守にしていてすみませんでした。

(3) さいわい類焼をまぬがれた。

(4) もちろん彼のよいところはみんな認めているが。

(5) むろんそんなことは百も承知している。

(6) ハナちゃんが女優になったんだって。やはり蛙の子は蛙だね。

(7) せっかくいらっしゃったのですから，どうぞゆっくりしていってください。

(8) せめてお名前だけでも聞かせてください。

(9) さすが田中さん，よく知っていますね。

〔発言を司る副詞〕

(10) 先生，実は朝から熱があって……。

(11) みんな大変そうにしているが，実際はそんなでもない。

(12) あの社長はいわば飾りものだ。

(13) 世界には名山と呼ばれる山がいくつかある。たとえば，キリマンジャロやモンブランがそれだ。

(14) 点数は問題ではない。要は生徒がどこまで理解しているかだ。

5．その他の副詞

〔限定を表す副詞〕

(1) これは未成年者，特に10歳以下の子供には与えてはいけない。

(2) これは単に大学だけの問題ではなく，教育全体に関わる問題だ。

13. 接 続 詞

チェック

次の語を知っていますか。チェックして下さい。

□接続詞

□順接　　□逆接

□添加　　□対比

□転換　　□同列

□補足

1）接続詞は文または語をつなぐ働きを持つ。次の(1)〜(3)の下線部が接続詞と呼ばれるものである。

(1) 先週は用事があった。だから，パーティに参加しなかった。

(2) その事件を軽く考えていた。ところが，それは大事件だった。

(3) きのう村本建設が倒産した。つまり戦後最大の倒産が発生したということだ。

接続詞の分類は研究者によって異なる部分があるが，本書では，市川孝(1978) にしたがい，接続詞を次の 7 種類に分類する。

1. **順接**（前の内容を条件とし，その帰結を導く接続詞）
   「だから，それで，したがって，そこで」など
2. **逆接**（前の内容に反する内容を導く接続詞）
   「だが，しかし，けれども，でも」など

3. **添加**（前の内容に付け加わる内容を導く接続詞）

「そして，それから，また」など

4. **対比**（二者選択）（前の内容に対して対比的な内容を導く接続詞）

「または」など

5. **転換**（前の内容から転じて，別個の内容を導く接続詞）

「さて，ところで，それでは」など

6. **同列**（前の内容と同等とみなされる内容を導く接続詞）

「つまり，すなわち，結局」など

7. **補足**（前の内容を補足する内容を導く接続詞）

「なぜなら，もっとも，実は」など

以下，それぞれの接続詞について見ていく。

順接「だから，それで，そこで，したがって」

(4) 彼はうそをつく。だから，信用できない。

(5) 去年うちを建てました。それで，今お金がありません。

(6) わからなくて困った。そこで，先生に尋ねた。

(7) 日本は経済不況だ。したがって，就職が難しくなっている。

「だから」では，前文と後文とで明確な因果関係が述べられている必要がある。「だから」を用いると，話し手の主観的な判断という意味合いが強くなる。前文と後文は「(理由づけ)。だから，(結果の判断・意志)」という意味関係にあることが多い。

「それで」は，「だから」と違って，原因・理由を積極的に示す意識はない。「事の成り行き上，おのずと後文のような結果が生じる」という意味がある。

「そこで」は「その時点で」という意味を表す。そして，その中に理由やきっかけ的な意味合いを含むことが多い。しかし，「だから」「したがって」「それで」と比べて，原因・理由づけの性格が弱く，自然な流れとしてそう

した，そうなったという意味合いが強い。

「したがって」は書きことばである。主観性の低い，論理性・客観性の高い理由づけを表す。また，後文にはムード性の高い表現（意志，願望，依頼など）は来にくい。

逆接「だが，しかし，けれども，でも」

(8) 彼は実力がある。だが，どういうわけか試合には勝てない。

(9) 私は果物が好きだ。しかし，りんごは嫌いだ。

(10) あなたの事情はわかりました。けれども，今度の申し込みは明日までです。

(11) 辛いものはあまり好きではない。でも，食べることは食べる。

「だが」は文章でも会話でも使われる。会話では「だが」は男性語として用いられる。「だが」は前文から予想される内容と食い違う内容の場合，または，前文と全く食い違う意見や感想を付け加える場合に使われる。「だが」は事実を述べるときに適している。話し手の主観的判断が入ると「しかし」，会話では「でも」になる。

「しかし」は逆接だけでなく，対比，転換，補足にも用いられる。基本的には，前文を受けてそれと反対，または一部違うことを述べるときに使われる。

「けれども」は前文の内容を認めつつ，同時に後文で述べる事柄も共存することを表す。「しかし」に比べてやや話しことば的で，「けれども」「けれど」「けど」の順でくだけた言い方になる。

「でも」は話しことば的で，男女ともに用いるが，どちらかというと女性語である。「でも」は論理的な逆接関係を示すというより，言い訳や弁解をする，感想・疑問を述べるなどの感情的な発話が続くことが多い。

添加「そして，それから，また」

(12) 彼女は1989年に卒業した。そして，次の年に結婚した。

(13) コーヒーをください。それから，おしぼりもお願いします。

(14) 言語とはまず音声である。また，文字もその一要素である。

「そして」「それから」の意味・機能は大きく並立（並列）と継起に分けられる。並立（並列）は二つの事柄が同時に成り立つことを表し，継起は二つの事柄が時間的に連続することを表す。(12)は継起，(13)は並立（並列）を表す。

「また」は付加と列挙の意味・機能を表す。時間とは関係しない。前文と後文が並列，対等の関係にあることを表す。

対比（二者選択）「または」

(15) 本法令は，法人または個人に対して適用される。

「または」は二者選択を表す。「A（か），またはB」（A，Bは語・句・文）の形を取り，AとBは形の上でも意味の上でも対比的・並列的になる。

転換「さて，ところで，それでは」

(16) そろそろ終わりだ。さて，これから何をしようか。

(17) 私の仕事は終わりです。ところで，君の仕事はどうなっているの。

(18) 皆さん全部そろってますか。それでは，出発しましょう。

「さて，ところで，それでは」は，話の次の展開へ移る前触れ語として用いられる。いずれも話しことば的である。

「さて」は，話の展開の方向をいったん曖昧にして，疑問の形で新しい話題を提出することが多い。また，次の行動・行為に移る合図として使われることが多い。どちらかと言えば年輩者に用いられるが，手紙文では話題転換の形式語として広く使用される。

「ところで」は，「さて」「それでは」と同じく話題転換の接続詞である。そこまでの話に区切りをつけて，他の話を新しく導入する働きをする。「〜。

ところで，～か。」のように，うしろに質問が続くことが多い。話しことばであるが，やや堅いフォーマルな感じの表現である。

「それでは」は，前文の内容をふまえて新たな話題や場面に切り換えるときに用いられる。相手の発話を受けて，「それでは，～ましょう。」という形をとることが多い。

同列「つまり，すなわち，結局」

(19) きのう村本建設が倒産した。つまり戦後最大の倒産が発生したということだ。

(20) 個人のイニシアティブ，すなわち自主性がなくなってきている。

(21) 頑張ったが，結局だめだった。

「つまり」「すなわち」は「言い換えれば，換言すれば」の意味であり，前の語句や文を受けて，それと同等の内容を表す別の表現を続ける時に用いられる。「つまり」は，聞き手の理解を深めるために，言い換えによって結論づけようとする。「すなわち」は，「つまり」のように結論づける働きはなく，「つまり」より断定的な言い方になる。「すなわち」は書きことば的，「つまり」はより話しことば的である。

「結局」は，「つまり」「すなわち」のような話し手による結論づけという意味はなく，事態の終結を表す。その点では，「総括」のような別の項目を立てたほうがよいかもしれない。「結局」は事態の流れや経過を表す文に用いられやすい。事の成り行きを表すが，話し手の判断が入る。その判断はややマイナスの結果への評価を表す。

補足「なぜなら，もっとも，実は」

(22) 愛されなかった子供は人を愛することができない。なぜなら愛そのものを知らないからである。

(23) このごろ日本語の授業を受けています。もっとも週2回ですが，役に

立つと思います。

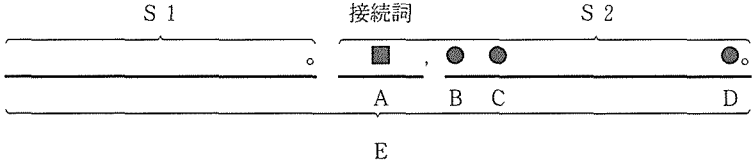
(24) きのう風邪を引いたと言ったけれども，実はそれは嘘です。すみません。

「なぜなら」は前文の事柄について，その事柄の理由や原因を説明するときに用いられる。書きことば的である。

「もっとも」は「とはいうものの」「ただし」の意味を表す。前文で述べられた事態・判断について，後文で部分的な条件づけをおこなう。

「実は」は，話し手が直面する，または直面した状況や事態に対して，本当の事情を打ち明ける表現である。話し手自身に直接関係する事柄であることが多い。

2）外国人学習者の従属節の習得において，ポイントとなるのは次のA～Fである。



S 1は前文を，S 2は後文を示す。A～Eは次のような内容である。

A　接続詞そのものに関するもの

・適切な接続詞が使われているか。

・その接続詞の意味・用法が正確に理解されているか。

B　S 2の主題・主語（主語／主題の脱落など）

・主語は省略できるかできないか。

・主語は主題化されるかされないか。

C　接続詞のうしろの副詞・副詞句

・必要な副詞・副詞句の脱落はないか。

・適切な副詞が使われているか。

D　接続詞に適したＳ２の文末表現

・接続詞にあった文のタイプやムード表現が使えるか。

E　Ｓ１，Ｓ２の文体の一致

・Ｓ１とＳ２とで同じ文体（丁寧体・普通体）が用いられているか。

学習者の誤用も，このＡ～Ｅで起こることが多い。Ａ～Ｅに関する学習者の誤用を以下にあげる。

(25)＊日本語の授業をさぼりたい。すると先生に電話をした。（→それで）

（Ａ：接続詞が不適切）

(26)＊マリアさんはきょう恋人にプレゼントとして，きれいな車を買ってあげた。つまり，φ好きなので何でもする。（→彼女は彼が）

（Ｂ：Ｓ２の主語・主題の脱落）

(27)＊図書館へ行ったつもりでした。しかし，φ郵便局に行きました。

（→間違って）　（Ｃ：副詞句の脱落）

(28)＊雨が降っている。そのうえ風も強くなる。（→強くなってきている）

（Ｄ：接続詞に適したＳ２の文末表現）

(29)＊彼はよく勉強した。だから及第しました。（→及第した）

（Ｅ：Ｓ１とＳ２の文体の一致）

【参考文献】

全体

Alfonso, Anthony(1980) Japanese Language Patterns Vol. 1, 2 Sophia University

市川保子（1997)『日本語誤用例文小辞典』凡人社

小池清治他編（1997)『日本語キーワード事典』朝倉書店

グループ・ジャマシイ（1998)『日本語文型辞典』くろしお出版

寺村秀夫（1978)『日本語教育指導参考書４：日本語の文法(上)』国立国語研究所

――――（1981)『日本語教育指導参考書５：日本語の文法(下)』国立国語研究所

寺村秀夫（1982)『日本語のシンタクスと意味Ⅰ』くろしお出版

寺村秀夫（1984)『日本語のシンタクスと意味Ⅱ』くろしお出版

寺村秀夫他編（1987)『ケーススタディ日本文法』桜楓社

日本語教育学会編（1982)『日本語教育事典』日本語教育学会

益岡隆志・田窪行則（1992)『基礎日本語文法―改訂版―』くろしお出版

松岡　弘監修（2000)『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク

三上　章（1972)『現代語法序説―シンタクスの試み―』復刊　ひつじ書房

宮島達夫・仁田義雄編（1995)『日本語類義表現の文法(上)(下)』くろしお出版

森田良行（1989)『基礎日本語辞典』角川書店

渡辺　実（1971)『国語構文論』塙書房

文

市川保子（1990)「名詞述語文「～は～です」の意味と機能に関する一考察」『文藝言語研究言語篇』18

奥津敬一郎（1978)『「ボクハウナギダ」の文法』くろしお出版

佐治圭三（1991)『日本語の文法の研究』ひつじ書房

高橋太郎（1984)「名詞述語文における主語と述語の意味的な関係」『日本語学』3巻12号

主題・主語

井上和子（1976）『変形文法と日本語（上）』大修館書店

佐治圭三（1991）『日本語の文法の研究』ひつじ書房

柴谷方良（1978）『日本語の分析』大修館書店

益岡隆志他編（1995）『日本語の主題と取り立て』くろしお出版

三上　章（1960）『象は鼻が長い』くろしお出版

――――（1963）『文法教育の革新』くろしお出版

動詞

池上嘉彦（1981）『「する」と「なる」の言語学』大修館書店

影山太郎（1993）『文法と語形成』ひつじ書房

久野　暲（1978）『談話の文法』大修館書店

小林典子・直井恵理子（1996）「相対自・他動詞の習得は可能か―スペイン語話者の場合―」『筑波大学留学生センター　日本語教育論集』第11号

小泉　保他編（1989）『日本語基本動詞用法辞典』大修館書店

須賀一好・早津恵美子編（1995）『日本語研究資料集　動詞の自他』ひつじ書房

高橋太郎（1994）『動詞の研究』むぎ書房

寺村秀夫（1976）「「ナル」表現と「スル」表現―日英態表現の比較―」寺村秀夫（1993）『寺村秀夫論文集Ⅱ―言語学・日本語教育編―』くろしお出版に再録

仁田義雄（1980）『語彙論的統語論』明治書院

Block, Bernard （1975）林栄一監訳『ブロック日本語論考』研究社

宮島達夫（1972）『動詞の意味・用法の記述的研究』秀英出版

村木新次郎（1991）『日本語動詞の諸相』ひつじ書房

ヴォイス（態）

市川保子（1990）「可能動詞の助詞に関する一考察」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』第６号

国立国語研究所（1951）『現代語の助詞・助動詞―用法と実例―』秀英出版

高橋太郎（1985）「現代日本語のヴォイスについて」『日本語学』4巻4号
野田尚史（1991）「文法的なヴォイスと語彙的なヴォイスの関係」仁田義雄編『日本語のヴォイスと他動性』くろしお出版
水谷信子（1985）『日英比較話しことばの文法』くろしお出版

テンス・アスペクト，ムード・モダリティ

奥田靖雄（1978）「アスペクトの研究をめぐって(上)(下)」『教育国語』
奥田靖雄(1985)『ことばの研究・序説』むぎ書房に再録
北原保雄（1981）『日本語助動詞の研究』大修館書店
金田一春彦（1950）「国語動詞の一分類」金田一春彦編（1976）『日本語動詞のアスペクト』むぎ書房に再録
久野　暲（1978）『談話の文法』大修館書店
工藤真由美（1995）『アスペクト・テンス体系とテクスト―現代日本語の時間の表現―』ひつじ書房
阪田雪子・倉持保男（1984）『教師用日本語教育ハンドブック④：文法Ⅱ』国際交流基金
砂川有里子（1986）『日本語文法セルフ・マスターシリーズ2：する・した・している』くろしお出版
高橋太郎（1985）『現代日本語のアスペクトとテンス』秀英出版
仁田義雄（1991）『日本語のモダリティと人称』ひつじ書房
蓮沼昭子（1995）「対話における確認行為「だろう」「じゃないか」「よね」の確認用法」仁田義雄『複文の研究（下）』くろしお出版
益岡隆志（1987）『命題の文法』くろしお出版
森山卓郎・安達太郎（1996）『日本語文法セルフ・マスターシリーズ6：文の述べ方』くろしお出版
森山卓郎（1989）「認識のモダリティとその周辺」仁田義雄・益岡隆志編『モダリティの文法』くろしお出版
――――（1997）「日本語における事態選択形式―「義務」「必要」「許可」などのムード形式の意味構造―」『国語学』188

助詞

国広哲弥（1968）「And とト，ニ，ヤ，モ」『構造的意味論』三省堂

久野　暲（1973）『日本文法研究』大修館書店

国立国語研究所（1951）『現代語の助詞・助動詞』秀英出版

佐治圭三（1991）『日本語の文法の研究』ひつじ書房

白川博之（1992）「終助詞『よ』の機能」『日本語教育』77

砂川有里子（1987）「複合助詞について」『日本語教育』62号

鈴木　忍（1978）『教師用日本語教育ハンドブック③：文法Ⅰ』国際交流基金

角田太作（1991）『世界の言語と日本語』くろしお出版

寺村秀夫（1986）「「前提」「含意」と「影」」寺村秀夫（1993）『寺村秀夫論文集Ⅱ—言語学・日本語教育編—』くろしお出版

————（1991）『日本語のシンタクスと意味Ⅲ』くろしお出版

仁田義雄（1980）『語彙論的統語論』明治書院

沼田善子（1986）「とりたて詞」奥津敬一郎他『いわゆる日本語助詞の研究』凡人社

————（1992）『日本語文法セルフ・マスターシリーズ５：「も」「だけ」「さえ」など—とりたて—』くろしお出版

野田尚史（1985）『日本語文法セルフ・マスターシリーズ１：はとが』くろしお出版

益岡隆志・田窪行則（1987）『日本語文法セルフ・マスターシリーズ３：格助詞』くろしお出版

指示詞（コ・ソ・ア・ド）

金水　敏・木村英樹・田窪行則（1989）『日本語文法セルフ・マスターシリーズ４：指示詞』くろしお出版

佐久間鼎（1951）『現代日本語の表現と語法（改訂版）』くろしお出版から復刊（1983）

田中望・正保勇（1981）『日本語教育指導参考書８：日本語の指示詞』国立国語研究所

高橋太郎（1990）「指示詞の性格」『日本語学』 9巻3号

副詞

市川保子（2000）『続・日本語誤用例文小辞典―接続詞・副詞―』凡人社

工藤　浩（1982）「叙法副詞の意味と機能」『国立国語研究所71　研究報告集3』秀英出版

小林典子（1987）「序列副詞―「最初に」「特に」「おもに」を中心に―」『国語学』151集

中右　実（1980）「文副詞の比較」『日英語比較講座2　文法』大修館書店

仁田義雄（1983）「動詞に係る副詞的修飾成分の諸相」『日本語学』 2巻10号

畠　郁他（1991）『日本語教育指導参考書19：副詞の意味と用法』国立国語研究所

渡辺　実（1983）『副用語の研究』明治書院

従属節

井上和子（1976）『変形文法と日本語（上）』大修館書店

奥津敬一郎（1974）『生成日本文法論』大修館書店

北里千里（1976）「「なくて」と「ないで」『日本語教育』29

北條淳子（1989）「複文文型」『日本語教育指導参考書15：談話の研究と教育Ⅱ』国立国語研究所

久野　暲（1973）『日本文法研究』大修館書店

――――（1983）『新日本文法研究』大修館書店

小泉　保（1987）「譲歩文について」『言語研究』91

田中　寛（1989）「逆接の条件文＜ても＞をめぐって」『日本語教育』67号

寺村秀夫（1975―1978）「連体修飾のシンタクスと意味（その1）～（その2）」『寺村秀夫論文集Ⅰ―日本語文法編―』くろしお出版に再録

――――（1983）「時間的限定の意味と文法的機能」寺村秀夫（1993）『寺村秀夫論文集・日本語文法編』くろしお出版に再録

豊田豊子（1977）「「と」と「とき」」『日本語教育』33号

――――（1979）「発見の「と」」『日本語教育』36号

――――（1985）「「と，ば，たら，なら」の用法の調査とその結果」『日本語教育』56号
永野　賢（1952）「「から」と「ので」はどう違うか」服部四郎他編（1979）『日本の言語学第4巻文法Ⅱ』大修館書店に再録
――――（1988）「再説・「から」と「ので」とはどう違うか」『日本語学』7巻12号
仁田義雄（1987）「条件付けとその周辺」『日本語学』6巻9号
――――編（1995）『複文の研究(上)(下)』くろしお出版
西原鈴子（1985）「逆接的表現における三つのパターン」『日本語教育』56号
藤田保幸（1988）「「引用」論の視界」『日本語学』7巻9号
益岡隆志（1993）『日本語の条件表現』くろしお出版
――――（1997）『新日本語文法選書2　複文』くろしお出版
前田直子（1993）「逆接条件文「～テモ」をめぐって」益岡隆志編『日本語の条件表現』くろしお出版
――――（1998）「非仮定的な事態を接続するト・タラ文の意味・用法」『東京大学留学生センター紀要』8号
南不二男（1974）『現代日本語の構造』大修館書店

接続詞

市川　孝（1978）『国語教育のための文章論概説』教育出版
市川保子（2000）『続・日本語誤用例文小辞典―接続詞・副詞―』凡人社
岩澤治美（1985）「逆接の接続詞の用法」『日本語教育』56号
小林典子（1988）「「そして」による接続の連接類型」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』第4号
永野　賢（1959）『学校文法文章論』朝倉書店
畠　弘巳（1985）「接続詞と文章の展開」『日本語教育』56号
森田良行（1987）「文の接続と接続語」『日本語学』6巻9号

【文法項目索引】

太字は，見出しのページを示す。

アスペクト……2，12，53，66，87，89，91，93，**97**，98，100，101，148，150，152，163

イ形容詞 ……11，12，37，41，42，58，59，60，61，62

イ形容詞文……10

意志動詞 ……**43**，44，46，47，48，50，52，53，54，75，92，93，156

引用節 ……137，**138**，140

ヴォイス ……45，**66**，74，91

受身表現 ……**66**，74，78

動き動詞……52

ウチの関係 ……147

ウナギ文……15，16

ガ格 ……21，32，51，76，122

係助詞 ……121

格 ……30，31，32

格助詞……3，4，5，9，11，16，21，22，24，28，30，32，66，74，77，91，114，**115**，116，117，118，121，122，123，144

過去 ……12，97，98，99，141，142，148

活用……12，37，38，39，41，42，60，63，73，98，150，152

活用語幹……38

活用語尾……38

可能態……**74**

可能動詞……74，75

可能表現 ……66，**74**，75，76，78

感覚・感情形容詞 ……56，110

間接受身 ……67，68，69

間接疑問 ……138，142，143

間接話法 ……141

間投助詞 ……**126**

完了……2，3，89，93，98，99，100，101，102，141，148，152

疑問引用 ……142

逆接 ……46，149，157，167，169

逆接条件 ……153

逆接節 ……149，**157**

形式名詞 ……63，64，144

継続動詞……**53**，54

形容詞 ……5，6，10，11，37，41，**55**，56，57，60，62，63，98，99，115，117，122，139，150，152，156，161

形容詞(述語)文 …**8**，10，13，15，16，24，56，60，98，158

形容詞の活用 ……**37**，41，60

形容動詞 ……10，41，58

形容名詞……58

現象描写文……8，18

現象文 ……8，**18**，19，24，25，124

現場指示 ……132

語幹 ……38，39，41，42，66，67，70，73，74，75

コ・ソ・ア・ド ……**131**

コト ……1，2，3，21，93，103，104，114，123，160

語尾……12，38

固有名詞 ……63，64，143

使役受身（表現）……**73**

使役態……**70**

使役表現 ……**70**, 71, 72, 74
使役やりもらい ……**72**, 85
指示詞 ……**131**, 135
辞書形 ……39, 40, 41, 42, 67, 70, 75, 97
時制 ……12, **97**, 140
自動詞 ……19, 43, **48**, 49, 50, 51, 52, 54, 68, 69, 71, 75, 77, 89, 91
自発態……**77**
自発表現 ……**77**, 78
修飾用法 ……42, 55, 56, 57
終助詞 ……2, 104, 112, 114, **126**, 129, 151, 152
従属節 ……5, 15, 17, 18, 23, 24, 26, 46, 59, 65, 76, 98, 99, 114, 125, **137**, 148, 149, 150, 151, 152, 153, 154, 155, 157, 158, 172
従属文 ……17, 137
主格 ……**21**, 32, 36, 67, 69, 123
主語 ……10, 18, **21**, 22, 23, 24, 25, 26, 28, 32, 37, 43, 56, 61, 63, 71, 72, 75, 78, 79, 80, 82, 85, 86, 95, 110, 117, 124, 144, 147, 150, 152, 153, 172
授受表現 ……46, **66**, 72, **78**, 90
主節 ……17, 23, 26, 98, 99, 114, 137, 138, 140, 142, 148, 149, 150, 151, 152, 153, 154, 155, 156, 157, 158
主体……21, 23, 31, 32, 35, 37, 43, 67, 68, 70, 71, 76, 78, 85, 91, 102, 115, 116
主題 ……13, 14, 18, 19, **21**, 22, 24, 25, 26, 27, 28, 32, 69, 71, 123, 147, 148, 150, 153, 156, 172
主題の「は」と対比の「は」……27
主文 ……17, 137
述語……4, 5, 8, 17, 19, 21, 30, 32, **37**, 97, 99, 105, 148, 160, 164
受動態 ……51, **66**, 67
瞬間動詞 ……**53**, 54
順接 ……153, 167, 168
順接条件 ……153
情意的ムード ……104, 107, 110
状況可能……76
条件節 ……4, 76, 149, **153**, 154
状態動詞 ……**52**, 53, 54, 97, 99
助詞 ……2, 3, 4, 5, 9, 11, 16, 18, 21, 22, 24, 26, 28, 30, 32, 36, 38, 63, 66, 74, 77, 91, 92, 104, 112, **114**, 115, 116, 117, 118, 120, 121, 122, 123, 124, 126, 129, 143, 144, 149, 150, 151, 152, 161, 165
助詞相当語 ……117
叙述用法 ……55, 56, 57
助数詞……64
随意格……30
随意補語 ……30, 32, 116
数詞……64
数量詞 ……63, 64, 65, 125
スル動詞 ……43, **47**, 48, 50
静態動詞……52
接続語 ……59, 65, 114, 149, 150, 152, 158, 161
接続詞……149, **167**, 168, 170, 172, 173
接続助詞 ……18, 114, 149, 161, 165

絶対テンス……99
相 ……87, **97**, 98
相対テンス……99
属性形容詞……56
ソトの関係 ……148
態 ……45, **66**
体言 ……4, 64
対事的ムード ……103, 104
対人的ムード ……104, 110
タ形……39, 40, 42, 97, 98, 99, 148, 152, 156
対比 ……27, 28, 76, 122, 123, 157, 168, 169, 170
代名詞 ……64, 132
題目 ……18, 25
他動詞 ……19, 43, **48**, 49, 50, 51, 52, 54, 67, 68, 69, 70, 71, 89, 91
単文 ……8, **17**, 98, 137, 148, 152
直接受身……51, 67, 68, 118
直接話法 ……141
テーマ ……18, 25
添加 ……168, 169
転換 ……168, 169, 170
テンス …2, 12, 89, 91, 93, **97**, 99, 148, 150, 152, 163
テンス・アスペクト ……2, 12, 91, 93, **97**, 148, 150, 152, 163
動作主 ……43, 44, 47, 94
動作動詞 ……**52**, 97, 148
動作のやりもらい ……78, **81**
動詞……9, 12, 16, 31, 37, 38, 40, 43, 46, 47, 48, 52, 53, 63, 66, 68, 70, 74, 82, 84, 98, 101, 115, 116, 117, 122, 123, 139, 150
動詞（述語）文……6, **8**, 9, 10, 12, 13, 14, 15, 16, 24, 158
動詞の活用 ……**37**, 38, 39
動詞の分類……**43**
動態動詞……52
同列 ……168, 171
トキ節 ……149, **152**
トピック ……18, 24, 25, 118
取り立て助詞……2, 24, 32, 36, 114, **120**, 121, 122, 123, 124, 161, 162
ナ形容詞 ……10, 11, 12, 37, 41, 42, 58, 59, 60, 61
ナ形容詞文……10
ナル動詞 ……43, **47**, 48, 50
認識的ムード ……104, 105
能力可能……76
「は」と「が」 ……24, 123
話し手の判断……8, 104, 105, 171
判断文 …8, **18**, 19, 20, 24, 25, 124, 156
非過去……97, 98, 99, 148
必須格……30
必須補語 ……30, 31, 32, 36, 115
非用……90
描写文 ……8, 18
ピリオド越え……26
複合格助詞 ……114, **117**, 118
複合動詞……**87**, 88, 98, 100
副詞 ……4, 5, 17, 42, 65, 97, 102, 114, 122, 132, 149, 150, **160**, 161, 162, 163, 165, 166, 173

副助詞 ……121
副詞節 ……4，5，17，114，137，138，**149**
複文 ……8，**17**，18，26，98，137，148，152
文 ……1，8，10，17，18，19，23，37，55，103，114，118，123，126，144
文の基本構造 ……**1**，103
文のタイプ ……**8**，37
文副詞 ……165
文脈指示 ……132，135
並立助詞 ……114，**118**，120
並列助詞 ……114，**118**
並立節 ……149，**158**
並列節 ……149，**158**
補語 ……4，5，9，11，14，21，23，26，**30**，31，32，36，56，63，82，84，115，116，123，147，148，156
補助動詞 …45，81，83，87，**89**，90，91，98，100，101
補足 ……30，168，169，171
未完了 ……98，148
無意志動詞 ……**43**，44，46，47，48，50，52，54，92，93
ムード ……**1**，2，3，4，10，18，19，22，44，59，64，91，93，**97**，**103**，104，105，107，110，114，123，126，135，150，160，161，162，164，169，173
無題文 ……18
名詞 ……4，6，7，8，9，11，12，13，14，15，17，18，21，23，24，26，27，30，32，36，37，42，48，55，59，60，61，62，**63**，64，65，66，97，99，115，116，117，118，120，121，123，138，139，143，144，145，147，148，150，152
「名詞＋だ」の活用 ……**37**
名詞節 ……76，137，**144**，145
名詞（述語）文 …6，**8**，12，13，14，15，16，24，145，158
目的節 ……149，**155**，156
モダリティ ……2，64，97，**103**
もののやりもらい ……**78**
やりもらい（表現）……**66**，**78**，81，90，91
有題文 ……18
用言 ……4
ラ抜き言葉 ……74
理由節 ……4，149，**151**，156
ル形 ……97，98，99，148，152
連体詞 ……5，6，132
連体修飾 ……1，**4**，5，6，7，14，32，42，55，59，62，63，64
連体修飾節 ……5，6，15，17，117，137，138，**147**，148，149
連体助詞（の） ……42，114，**116**
連用修飾 ……1，**4**，5，6，7，14，32，59，63，149

日本語教育指導参考書22

日本語教育のための文法用語

平成13年 7 月10日発行　定価は表紙に表示してあります。

編　　集　　独立行政法人国立国語研究所
〒115-8620
東京都北区西が丘3-9-14
電話 (03)3900-3111

発　　行　　財務省印刷局
〒105-8445
東京都港区虎ノ門2-2-4
電話 (03)3587-4283～9

刊行物　No. 12—18

落丁，乱丁本はお取り替えします。

ISBN4-17-311322-6

政府刊行物販売所一覧

政府刊行物のお求めは，下記の政府刊行物サービス・センター又は政府刊行物サービス・ステーション《官報販売所》を御利用ください。

⊙政府刊行物サービス・センター（財務省印刷局直営）

	〈電話番号〉	〈FAX番号〉
札幌	(011) 709-2401・2402	709-2403
仙台	(022) 261-8320・8321	261-8321
さいたま	(048) 600-1400	600-1402
霞が関	(03) 3504-3885	3504-3889
大手町	(03) 3211-7786	3211-7788
金沢	(076) 223-7303・7304	223-7304
名古屋	(052) 951-9205・9341	951-9207
大阪	(06) 6942-1681・1682	6942-1683
広島	(082) 222-6012・6013	222-6013
福岡	(092) 411-6201・6204	411-6509
沖縄	(098) 866-7506・7508	866-7507

⊙政府刊行物サービス・ステーション《官報販売所》（財務省印刷局指定）

	〈名称〉	〈電話番号〉
札幌	北海道官報販売所 （北海道官書）	(011) 231-0975
青森	青森県官報販売所 （今泉書店）	(017) 775-3611
盛岡	岩手県官報販売所	(019) 622-2984
内丸		(019) 653-4163
仙台	宮城県官報販売所	(022) 222-6486
秋田	秋田県官報販売所 （石川書店）	(018) 862-2129
山形	山形県官報販売所 （八文字屋）	(023) 622-2150
福島	福島県官報販売所 （福島西沢書店）	(024) 522-0161～3
水戸	茨城県官報販売所 （川又書店）	(029) 231-0102
宇都宮	栃木県官報販売所 （亀田書店）	(028) 651-0050
前橋	群馬県官報販売所 （煥乎堂）	(027) 235-8111
浦和	埼玉県官報販売所 （岩渕書店）	(048) 822-7633
千葉	千葉県官報販売所	(043) 222-7635
横浜	神奈川県官報販売所 （横浜日経社）	(045) 681-2661～3
東京	東京都官報販売所 （東京官書）	(03) 3292-2671
渋谷	（大盛堂書店内）	(03) 3463-7555
池袋	（芳林堂書店内）	(03) 3984-1101
立川	（オリオン書房立川ルミネ店）	(042) 527-2311
新潟	新潟県官報販売所 （北越書館）	(025) 244-5297
富山	富山県官報販売所 （Books なかだ本店）	(076) 492-1192
金沢	石川県官報販売所 （うつのみや）	(076) 234-8111
福井	福井県官報販売所 （勝木書店）	(0776) 24-0428
甲府	山梨県官報販売所 （柳正堂書店）	(055) 235-2201
長野	長野県官報販売所 （長野西沢書店）	(026) 233-3187
岐阜	岐阜県官報販売所 （郁文堂書店）	(058) 262-9897
静岡	静岡県官報販売所	(054) 253-2661
名古屋	愛知県第１官報販売所	(052) 264-9155
名古屋駅前	愛知県第２官報販売所 （豊川堂内）	(052) 561-3578 (0532) 54-6688
豊橋	三重県官報販売所	(059) 228-4812
津		(059) 227-7526
津駅前		
大津	滋賀県官報販売所 （澤五車堂書店）	(077) 524-2683
京都	京都府官報販売所 （京都官書）	(075) 221-4444
大阪	大阪府官報販売所 （かんぽう）	(06) 6443-2171
神戸	兵庫県官報販売所	(078) 341-0637
奈良	奈良県官報販売所 （啓林堂書店）	(0742) 33-8001
和歌山	和歌山県官報販売所 （宮井平安堂）	(073) 431-1331
鳥取	鳥取県官報販売所 （富士書店）	(0857) 23-7271
米子	（本の学校今井ブックセンター）	(0859) 31-5000
松江	島根県官報販売所 （松江今井書店）	(0852) 24-2230
岡山	（山田書房）	(086) 223-7048
幸町	岡山県官報販売所 （有文堂）	(086) 222-2646
広島	広島県官報販売所	(082) 297-1300
山口	山口県官報販売所 （文栄堂）	(083) 922-5611
徳島	徳島県官報販売所 （小山助学館）	(088) 654-2135
高松	香川県官報販売所	(087) 851-6055・6
松山	愛媛県官報販売所	(089) 941-7879
高知	高知県官報販売所	(088) 872-5866
福岡	福岡県官報販売所	(092) 721-4846
福岡県庁内		(092) 641-7838
福岡市役所内		(092) 722-4861
北九州	（北九州市役所内）	(093) 582-4124
佐賀	佐賀県官報販売所	(0952) 23-3722
長崎	長崎県官報販売所	(095) 822-1413
熊本	熊本県官報販売所 （長崎次郎書店）	(096) 352-5069
大分	大分県官報販売所	(097) 532-4308
宮崎	宮崎県官報販売所 （田中書店）	(0985) 24-0386
清武	（見聞読タナカ）	(0985) 85-8400
鹿児島	鹿児島県官報販売所	(099) 285-0015
那覇	沖縄県官報販売所 （文教図書）	(098) 863-5288